

實の事實となつて現はれ、神の豫定の時至るに及びてアブラハムは其の地に固く立てられ、地上に於ける大能者とされるのである。

若し神がシナイ山に於て批准されたる律法の契約を猶太人が守る事の出来ざるを知つてゐられたとするならば、神は何故に斯かる契約を彼等に與へられたのであらうか。

心直き人間の切なる望は幸福なる状態に於て永久の生命を樂しむ事である。律法の契約の示す最も大なる約束は何人にも此の契約を完全に守る者はそれによつて生命を得ると云ふ事であつた。猶太人が律法を守らうと努めて之に失敗したと云ふ事は即ち、完全なる中保の援助なくして之を守り得る者は唯完全なる人間のみに限られてゐる事を立證してゐるのである。此の故に律法の契約は猶太人及び他の全人類に對して、人間は自己のみの努力によつては約束の賞たる永久の生命を受け得る事が絶対に不可能なるを明かに示したのである。

今日此の世には多くの學者、哲人、所謂科學者、進化論者及び現代的教職者がゐる。何等は何れも異口同音に人間は進化の方法によつて生命を得る事が出来ると主張してゐる。シナイ山に於て批准されたる律法の契約に據つて得たる猶太人の經驗は之等自尊自大の自稱學者賢人等が絶対に誤つてゐる事を確實に立證した。生命は神よりの賜物である。故に生命は神の定め給ひし條件に準據してのみ得られるのであつて、他の方法を以て之を得るは絶対に不可

能である。

アブラハムに與へられたる御約束には「汝の裔によりて天下の民皆福祉を得べし」とあつた。此の約束の祝福とは即ち永久の生命を獲得するの公平なる機會を與へられる事を意味す何故なれば之なくしては如何なる祝福も充分でなく、又完全でないからである。神は預言者イザヤを通じて示し、地球は人間の住所として創造されし旨を瞭かに告げてゐられるが、さすれば神は人間が地上に於て永久に生存するの機會を彼等に與へられる事が確實である、(イザヤ書四十五章十二節。傳道書一章四節)。之等諸聖句の明示する處に見るも約束されし「裔」とは即ちモーセを以て模型とするメシヤであり、そして此のメシヤは地上全人類に生命を持ち來らす關門として用ひらるゝ事が明かである。

アブラハム、イサク、ヤコブ、ダニエル及び其の他の預言者等は皆その最善を盡して神に服従した。然らば何故に彼等は其の時に永久の生命を得なかつたか。何故なれば彼等も他の人々と等しく不完全なる人間として生れ出て、アダムの罪の故に依つて斷罪の下に在つたからである。人は皆生命を得る前に先づアダムの上に與へられたる死の宣告と、其の爲に全人類を罪人としたる全ての惡しき影響の下から贖ひ出されなければならぬ。若し神が人間を贖ひ出す爲に何等かの方法を講じて下さらぬならば人間は全く絶望である。然し神は人間を祝

欠

福すべしとの幾多の約束を興へられてゐる以上、其處に何等かの方法を以て人間を贖ひ出す御約束が其の聖言の中にあるを期待する事が出来る。

欠

第九章 贖

ひ

何故に猶太人が律法の契約を守る事が出来なかつたかと云ふ事を示す最も確實なる理由は即ち彼等が不完全なる人間であつたと云ふ事である。此の不完全性はアダムの罪の結果から来た。神はアダムを完全なる人間として創造された。アダムが神の律法を犯した時に、彼はそれに對する刑罰を免るゝ事は絶對不可能であつた。其の後即ち彼が死の刑罰の宣告下に、彼は神より與へられたる子孫繁殖の權能を行使した。今斷罪されて不完全なる人間となり、死の宣告下に置かれたる彼には完全なる子孫を産み出だす事が不可能となつた。此の故に彼の子孫の全部は不完全なる人間として生れ出た。不完全なる者として生れ出でたる者は神の前に皆罪人であつて、即ち神の承認を受ける事が出来ないのである。此の故にアダムの不従

順によつて罪は有効となり、彼は死の宣告を受け、此の結果は彼の全子孫の上に影響したのである。此の故に地上全人類は皆罪人として生れ出た。之即ち神の預言者の示す處と完全に一致す、即ち云ふ「視よ、我は邪曲の中に生れ、罪に在りて我が母我を妊みたりき」(詩篇五十一篇五節)と。人間は如何やうに爲すとも、神が此の不完全さを除き去つて下さらぬ限り結局罪人である。此の故にアダムの子孫として生れ出でたる地上の全人類は皆罪人として斷罪されてゐるのである。

律法の契約はそれを守る者に對して生命が約束されてゐた。然し誰もそれを守る事が出来なかつた。猶太人は其の最善を盡して之を守らんと努めたに拘らず彼等はそれを完全に守る事が出来なかつた。然らば彼等が律法を有してゐたと云ふ事は彼等に何の利益を與へたか。若し彼等が其の最善を盡して律法の精神即ち律法の靈を守つたならば彼等は其の田野に於て倉庫に於て、家庭に於て、家族に於て、健康と力とに於て祝福され、疫病や戰爭、饑饉より免れて平和と幸福の中に長く地上に住み得た筈である。若し彼等が神を愛し、之に奉仕せんと試みたならば彼等は皆に猶太人のみならず、地上全人類の爲に神が有し給ふ救済の御目的を學び得たる筈であつた。そして神は何時かの日に於て此の御目的を實施し、之に服従する處の全部の者に永久の生命を與へらるゝ事を學び知つた筈であつた。

猶太人は律法を守らんとしては失敗せるを幾度か繰り返す事によつて、此の困難の理由がアダムの罪によつて不完全となつた結果によるものなる事を自覺しなければならぬ筈であつた。アダムに關する知識はその時代々々を通じてイスラエルの時代にまで達したことであらう。モーセ及び其の他の預言者等の言を熟知してゐる者は何れも、アダムの不從順の結果己等が不完全なる者となつた事を知つてゐるに相違ない。アブラハムは未だ律法の契約を知らなかつたに拘らず、尙ほ神を愛して之を喜ばし奉らんが爲に己の最善を盡し、神に深き信仰を有してゐたのである。然らば猶太人にしても又他の人類にしても彼等は此の不完全が罪の結果より來たと云ふ事を知り得べきか。神はその預言者を通じて斯く示し給ふ「エホバ言ひ給ふ、いざ我等ともに論らはん。汝等の罪は緋の如くなるも雪の如く白くなり、紅るの如く赤くとも羊の毛の如くにならん」(イザヤ書一章十八節)。

神は即ち猶太人に向つて斯う云はれたのである。「汝等は罪人である。然し我には一の目的があつて、豫定の時に及んで汝等を此の不完全さから必ず解放してやらう。汝等は我が全能の神である事を知らなければならぬ。汝等は我が外何物をも汝等の神としてはならぬ。汝等若し惡魔を崇拜するが如き事をなさば汝等は我が祝福を受くる事決して無かるべし。然ど汝等若し我に事へなば我は豫定の時に於て必ず汝等を祝すべし。汝等罪人にして其の罪如何に

大であり、緋の如くなるも我はそれを洗ひ潔めて白く清きものとなさん」と。何故に猶太人は神の言と「論らは」なかつたか。即ち彼等は何故に理性を以て神の言を研究しなかつたか。何故なれば彼等は敵サタンによつて捕へられ、その悪しき感化の下に神エホバより離れ去り、偶像を崇拜し、悪魔に事へたからである。此の理由に依りて神は繰り返して彼等を罰しられた。然し彼等が神に救ひを叫び求める時に神は彼等の哀願を聞き容れて彼等を御自身に引き歸られるのである。彼等は苦難の長い夜を通つて來た。而して今、此の末の時即ち「異邦人の時」の終結せる時に於て神の恩恵はイスラエルの上に復歸し、實體的ヨベルの開始さるゝ大光輝は正に彼等の上に臨んでゐる。思慮あり、理性ある者は何れも皆今、神が其の御言を通じて示し置かれる處に基き、アダムの罪の結果より來れる不完全さを人間の土より除去されると云ふ事を學び知ると共に、何故に人類を生命に導くの方法を準備されたかと云ふ理由を學び知るべきである。

エホバは首尾一貫の神に在す。故に神がアダムに與へられし宣告は之を取り除き、若くは之を無効ならしむる事は絶對不可能である。然し神は同時に、他の者をしてアダムの負債を償却せしめ、それによつてアダムと其の全子孫が罪と死及び其の悪しき影響の下より解放さるゝ道を彼等の爲に開く事を得給ふ。神は斯くの如くにして人類の爲に贖ひの道を備へ給

ふのである。聖書は贖ひの教理のみを教へてゐる。之に就て舊約書中より諸聖句を引用するは甚だ興味する所である。

ヨブは神の預言者の一人であつた。彼は全人類を代表して神の前に立つた。ヨブは神が人類を贖はんとすの御目的を有してゐられる事を知つてゐた筈である、何故なれば彼は左の如く記してゐるからである、「我知る、我を贖ふ者は活く、後の日に彼必ず地の土に立たん。我がこの皮、この身の朽ち果てん後、我は肉を離れて神を見ん」(ヨブ記十九章廿五、廿六節)。ヨブは又贖ひ救はれたる人類は本來の若さと美に回復される事を諒解して之を他に教へた。詩的辭句を以て人間の苦惱の有様を語り、その時彼が眞理を知りてそれに服従するならば、死に落ち行く歩みより離れて健康と美に回復される事を示して彼は云ふ、「然る時に若し彼と共に一個の使者あり、千の中の一にして中保となり、正しき道を人に示さば、神彼を憫みて言ひ給はん、彼を救ひて墓に下る事なからしめよ、我既に贖ひのものを得たりと。その肉は小兒の肉よりも瑞々しくなり、其の若き時の形狀に歸らん」(ヨブ記卅三章廿三―廿五節)。

モーセは復興の時に關して屢々預言した、(創世記十八章十八節。廿二章十八節。廿八章十四節を見よ)。

預言者サムエルは記した、「エホバは殺し、又生かし給ひ、墓(陰府……は曲壽)に下しました

上らしめ給ふ」(サムエル前書二章六節)。

ダビデは預言して神は贖ひを準備して人々に永久の生命を與へられんと告げた、(詩篇十九篇十四節。廿一篇四節)。彼又斯く記した、「彼の死ぬる時は何一つ携へ行くこと能はず、その榮はこれに従ひて下ることをせざるなり。然ど神我を受け給ふべければ我が靈魂(生命)を贖ひて、墓(陰府……は曲體)の能より脱れしめ給はん」(詩篇四十九篇十七、十五節)。詩篇は更に示して地上全人類が死より目覺めて神を拜し、眞暗き罪の長夜の後に來らんとする限りなき歡喜の時を樂しむ時が必ず來ると告げてゐる、(詩篇廿二篇廿七節。卅七篇十一節。四十五篇五、十七節。八十六篇九節)。其の時神は一旦滅びに行かしたる人間を歸らしめられる、(詩篇九十篇三節)。其の時に世は固く立ちて最早再び動く事なきに至るのである、(詩篇九十三篇一節。九十六篇十節)。

ソロモンは示して、地球は人間の住所として永久に存続すると證言した、(傳道書一章四節)。之ぞ即ち我等が既に研究したる處のイザヤの預言と完全に一致す。

預言者イザヤは簡明に示して神は人類を贖ひ救ひ「聖き道」と名附けられたる幸福の大路を備へて彼等を御自身に復歸せしめられんと告げてゐる、「彼處に大路あり、其の道は聖き道と稱へられん。穢れたる者はこれを過ぐることを能はず、唯主の民の爲にのみ備へらる。これ

を歩むものは愚なりとも迷ふことなし。彼處に獅子居らず、暴き獸も其の路に上ることなし。然ば其處にて之に逢ふ事なかるべし。唯贖はれたる者のみ其處を歩まん。エホバに贖ひ救はれし者歌うたひつゝ歸りてシオンに來り、その首に永遠の歡喜を頂き、樂しみと悦びとを得ん。而して悲哀と歎きとは逃げ去るべし」(イザヤ書卅五章八、十節)。之に就て預言者イザヤは人類の贖ひ救はれる事を預言してゐる、(イザヤ書四十四章廿二節。五十一章十一節。五十九章廿節)。エレミヤ、エゼキエル、ダニエル其他の預言者全部も又神が全人類を祝福し、服従する者を完全なる状態に復興さるゝ事を預言してゐるが、之は先づ彼等が贖はれない限り此の復興を受ける事は不可能である。

事實に於て神の預言者の全部は、神がその豫定の時至るに及んで全人類を完全なる人間の状態に復興し、此の地上に於て永久に住まはしめ給ふ事を預言したのである。而して此の復興の祝福が彼等人類に與へられる前に先づ彼等がアダムの罪より來たる詛ひから贖はれなければならぬと云ふ事が決定したる以上、神が彼等を死と罪より贖はるゝ事は以上の諸聖句に見るも極めて明瞭である。それに又、神は預言者イザヤを通じて示し、地球は人間の住所として創造されたのであつて、徒然に創造されたのではないと示してゐられる以上、地球は人間の住所として永久に存続する事が確實である、(イザヤ書四十五章十二、十八節。傳道書一章

四節。

律法の主なる目的が来らんとする更に善き事を豫表した事は事實であつて、神は之によつて猶太人に對し、未來に来るべき祝福に就ての教訓を與へ、豫定の時至るに及びて他の者に祝福を與ふるに際して彼等猶太人を用ひられる事となるのである。神は彼等を用ひて模圖を作成し、之によつて来らんとする祝福を猶太人と他の人類に學び知らしめらるゝのである。イスラエル人の獻げし祭物が何を代表したかと云ふ點に就て考へて見るべしである。アブラハムが百歳の時、そして彼の妻サラが既に妊娠年餘を過ぎた時に神は彼等に一人の子を與へられた。之即ちイサク誕生の時に其の御攝理を行はれたのである。其の次に我等はアブラハムと其の獨子イサクが共にモリヤの山にあつた事を思ふ。一の祭壇が築かれ、その上に獨子イサクが縛られて横たへられた。アブラハムは今其の刀を振り揚げて其の愛子を殺さんとす。之は抑々何の模圖となつてゐるのであらうか。アブラハムは神の友と呼ばれて神エホバを代表してゐた。イサクはアブラハムの獨子であつて即ち彼は、豫定の時至るに及びて人間の爲に偉大なる贖ひの犠牲となる爲に死する處の神の子を代表したのである、(創世記廿二章一—十八節)。

イスラエル人はパロ王治下の埃及に於て甚大なる壓迫を受けて苦んだ。埃及は此の罪の全

世界の模型であり、一方パロは此の世を支配する見えざる主公なるサタン即ち悪魔を代表してゐる。イスラエル人が埃及に於て苦難を受けたと云ふ事は全人類が悪魔の支配下にある此の世に於て苦惱して來た事の模圖となつてゐる。イスラエル人を埃及より去らしむべく幾度か企てられたが成功しなかつた。其の時神は埃及の上に死の災禍を與へられた、そして埃及の長子は皆殺された。何故にイスラエル人の長子は死ななかつたか。何故なれば神はイスラエル人に向つて示し、疵なき一歳の羔羊一頭を取りて之を屠り、骨を折ることなくしてそれを丸焼きにし、其の血を門口の鴨居と柱に塗り、家族は家に入りて戸を閉ざし、死の使者が行き過ぎるまで留まり居よと命じられた。此の神命に聽き従ふた者の長子は皆救はれた。羔羊の祭物は何時かの日に於て其の實體となるべき者が供へられる事を豫表してゐるのであつて、此の實體こそ即ち人間の罪を除き去る處の者である。

イスラエルの長子を救ふ爲に用ひられたる價は彼等を保護したる處の過越の羔羊であつた。猶太人は毎年此の過越の節を守るべき事を命ぜられた。此の毎年之を行ふと云ふ事は即ち此の過越の節が模型的なるものであつて、此の羔羊を以て模型とする處の實體たるべき者が人類に對する贖ひの價を備へる事を豫表してゐる事を明示してゐるのである。

神はモーセに示して墓屋を建造せしめ、毎年一回贖罪の祭物を獻ぐべきやう命じられた。

その贖罪の日に祭司長は一頭の牡牛を屠つて其の脂を庭の中の祭壇の上にて焼き、其の血を「至聖」所に携へ入る事を命じられた。之即ち罪祭である。然る後に祭司長は「エホバの山羊」を屠り、其の血を牡牛の血に爲せると同様の方法を以て處分するやうに命ぜられた、(レビ記十六章一―廿三節を見よ)。此の儀式が毎年一回繰り返して行はれると云ふ事と、之が罪祭の爲であるといふ此の事實は、此の獸類は神の豫定の時至るに及びて「至聖」所即ち天界なる神の御座所に供へられて人々の罪の爲に偉大なる贖價となるべき者の血を豫表してゐる事を明かに立證してゐるのである。之は罪祭を備ふる所の者の死ぬる事を意味してゐるは無論である。模型として之は實體の來る時まで繼續されなければならぬのであつて、若し猶太人が神に對して眞實であり、忠信を持續し、神の豫定の時至るまで己が最善を盡して律法の全部を守つてゐたならば、神は彼等に示して如何にせば彼等の不完全さが除去さるゝかを示し給ふ筈であつた。

神が明示して、イスラエル人ととの間に新約を作らんとする旨を告げ、此の新約によつて生命に至るの道を備へ、人々に對する祝福とは彼等を完全なる人間性に復興するに在る事を教へてゐられる此の事實は、即ち此の新約が運用されて猶太人が此の祝福を受くる前に先づ此の罪祭が完成されて人間の無能力を取り除いて了はなければならぬ事を立證してゐる。

此の新約の運用さるゝ時が接迫せるを示す此の時に於て猶太人たる者は皆神の言の教ふる所を熱心に探り求め、神が如何なる方法を以てアダムの罪より來れる不完全と無能力の状態下から猶太人を解放さるゝかの事實を學び知るべきである。

毎年獻げられたる牡牛や山羊の祭物は果して猶太人を罪より解放し、彼等をして律法の契約を守る事を得せしめたであらうか。否、此の儀式が毎年繰り返されたこと云ふ此の事は即ち神の豫定の時至るに及びて其の實體によつて之が完成される事を明示してゐるのである。ダビデは示して之等獸類は罪を除き去るに絶對無力であつて、之は單に神が人々に教へて服従の道を示し、罪を除き去るにもつと有効なる道を示さんが爲に用ひられたるものであると證言した、(詩篇四十五―八節)。

之等聖書の明示する處によつて推定しても、神が人類を贖ふ事を目的としてゐられるを知る事が出来る。而して今、此の確實なる御約束に見よ、「我彼等を墓(陰府……は曲擧)の手より贖はん。我彼等を死より贖はん。死よ、汝の疫は何處にあるか、墓よ、汝の災禍は何處に在るか、(ホセア書十三章十四節)。

猶太人にとつて幸せであつた事は、惡魔によつて彼等が地獄の火と硫黄に於て人間が意識状態で永劫に苦しみ苛まれるとの偽教理を迷信されなかつた事である。惡魔は此の點に就て

は猶太人から離れてカトリック（天主教）やプロテスタント諸派の牧師、神學者等の教職者に行きて彼等を擧げになし、之等の教職者を用ひて恐ろしい「地獄の火」を「説教」せしめて人々を戦慄恐怖せしめ、彼等の感情を煽り、此の恐慌状態下に在る人々を使喚してキリスト教の名によりて怨恨と憤怒を猶太人の上に漏らさしめたのである。クリスチャンと自稱する者によつて猶太人の上に加へられたる迫害は此の世の諸悪の尤なるものである。イスラエル人に加へたる暴虐なる迫害行為に參與したる者に對して神は必ず報いを與へらるゝ事となつてゐる。

神の預言者の全部は教へて、此の「福音」も墓も陰府も同一のものであつて、即ち死の状態を意味してゐると示した。猶太人は皆死者の全部はその墓場にあつて死し、無意識の状態にあつて、何も知る事無きを善く知悉してゐる（傳道書九章五、十節。詩篇百五篇十七節）。神が預言者ホセアを通じて示されたる御約束によると、神は人間を死と墓より贖ひ出して死そのものを滅ぼして了はれるとある。人間を墓より贖ひ出すと云ふ事は即ち神がアダムに對して下されたる宣告を満足さすべき何等かの方法を備へ、之によつて死者を死より目覺めさせ、彼等を再び生命の状態に連れ戻される事を意味してゐる。ダビデは贖ひと死者の復活とを信じて斯く記した。「此の故に我が心は樂み、我が榮は喜ぶ

我が身も亦平安に居らん。また汝我が魂を墓（陰府……は曲譯）に棄て置き給はず、汝の聖者を墓の中に朽ちしめ給はざるべければなり。汝生命の道を我に示し給はん。汝の御前には充ち足れる歡樂あり、汝の右には諸々の快樂永遠に在り（詩篇十六篇九十一節）。

「贖ひの價」とは全く相當せる價を意味す。此の故に預言者ホセアの言ふ處の意味に於て若し人間が贖はれるとするならば、律法の要求する處に相當する價が拂はれなければならぬ事となる。神の審判は罪人となつたアダムより生存權を剝奪して彼を死に行かした。神は其の律法を以て、贖價には何が必要であるかを教へて「生命は生命を以て償へ」（申命記十九章廿一節）と明示して置かれた。

アダムが罪を犯した時は一個の完全なる人間であつた、而して神をしてアダムと其の子孫を死と其の影響より正當に解放するを得せしむるにはアダムに相當する處の一個の完全なる人間の生命が贖價として備へられなければならぬのである。神の此の要求に應じ得る有資格者の人間が此の地上にあつたであらうか。神の預言者は之に答へて云ふ「誰一人己が兄弟を贖ふこと能はず、之が爲に贖價を神に獻げ、之を永遠に生き存へしめて朽ちざらしむる事能はず」（詩篇四十九篇七、八節）。

人類は生命に對する一の機會を以て祝福されなければならぬ、何故なれば神はその御言と

アブラハムに與へられたる御誓約によつて其の事を確實に約束されてあるからである。人類は贖はれなければならぬ。何故なれば神は人類を贖ふべしと宣言されてあるからである。神は必ず其の御言を嚴守し給ふ。此の故に神エホバは人間を贖ふ爲に何等かの方法を設け、其の爲に一個の完全なる人間即ち未だエデンに在りて罪を犯さざりし以前の彼アダムに相當する一個の完全なる人間を準備されるのであつて、此の完全なる人間は贖價を備へる爲に自ら死につく事となるのである。此の正しき結論は猶太人の全部が信ずと稱する舊約書の明示する處に基いて得たるものである。

モーセはメシヤたる者は彼モーセよりも大なる者なりと示し、又贖ひ主たる者は一個の完全なる人間でなければならぬと聖書が教ふる以上、此の贖ひ主こそ即ちメシヤ其の者である事が事實である。而して今、神が猶太人に與へられたる聖書に基きて此の問題を慎重に考慮し、贖ひ主とは何者であり、メシヤとは何者であるかと云ふ點に就て研究を進める事とする。

第十章 メシヤ

メシヤとは受膏者と云ふを意味す。受膏者とは即ち己が上位に在る者より權威を衣せられる者を云ふ。此の故にメシヤは神の受膏者であつて、人類の贖ひと救済に對する神の御目的を執行し、神がアブラハムに與へられたる御約束に基く祝福を地上全人類に齎らす所のものである。

猶太人の有してゐる最も切なる望は彼等のメシヤが來て、大王國を建設し、彼等を贖ひ、彼等を苦難の状態から救ひ出して彼等に約束されたる祝福の與へられん事であつた。此の故にメシヤは「約束によるアブラハムの裔」でなければならぬ、何故なれば彼を通じて祝福が來るからである。故にメシヤはモーセが豫表したる處のそれであつて、萬民をその前に臨ら

す處の者である。メシヤが神の受膏者であり、彼が人類の大救済者にして大祝福者であるが故に、敵なるサタンは總らゆる方法を盡してメシヤとは誰であるかを識別せしめざるやうに努力してゐる。神の言によつて支持されざる人間的證言を以て此のメシヤが誰であり、又彼の仕事は何であるかと云ふ事を決定してはならぬ。唯神の言のみが全部のものを決定する基準である。

之に就て預言者イザヤは斯く記す、「唯律法と證詞とを求むべし。彼等の言ふ所此の言にかなはずば光あらしべイザヤ書八章廿節。正統派に屬する猶太人は告白して云ふ、「預言者の言の全部は眞實なる事。モーセの預言は眞實にして彼は彼の前と後に存在せる全部の智者の中に最も大なる者なる事、今日我等の手に在る律法の全部は我等の君主なるモーセを通じて神より示されたるものなる事」と。此の故に律法と預言者の言によつて我等は今、メシヤとは誰であるかを識別せんとするのである。

若し律法と預言者の言がメシヤを識別する爲に必要な充分の説明を與へて置くとして、此處に之等預言の明示する事實の全部に全く合致符合せる者がありとするならば、之こそメシヤの何者なるかを識別し、決定するに充分の理由となる。之を換言すると神はその預言者等を通じてメシヤに就て預言して置かれたと云ふ事である。我等が預言を正確に解釋するか

否かは即ち事實と預言が一致するか否かによつて決せらる。神は我等に示して「論らはん」即ち理性に基いて論ぜんと告げられてゐる以上、何人と雖も先入主となつてゐる偏見を先づ除去せざる限り理性を良く行使する事は不可能である。それと同時に此の場合他の人の思考をそのまゝ己に受け容れる事は絕對禁物であつて、假令その人がラビであつても牧師、神學博士であつても其事は別に問題にならぬ。「唯律法と證詞（預言者の證言）とを求むべし、彼等の言ふところ此の言にかなはずば光あらし」と示されある神の言に留意せよ。惡魔は人々を暗きに封じ込め置かんが爲に人間的詭辯を用ひた。然し我等は之等人間の詭辯を打ち棄て、全く神の御言に歸り、それを唯一の光ある指針として用ひ、今、我等の眼前に在る處の動かすべからざる事實と共に研究を進むべきである。

ナザレのイエスと呼ばれ、又猶太人が一個の偉大なる教師として承認する處のイエス程惡しき迫害の的とされたる者は地上に絶無である。イエスは總らゆる罪名と汚名とを着せられたが、然も彼には罪が絶無であつた。一般民衆は喜んで彼の言ふ處に聽きて彼を信じた。當然善き事をなすべき筈の當時の教師者はイエスを迫害する道具としてサタンより用ひられたその如く今日の教師者も矢張り神を誤り傳へてゐるのである。彼等教師者は人々の心を神エホバと其の御言より離れ遠ざからしむる爲に彼等自身の人間的智慧を押し擡げた。然し人々

が彼等教職者等によつて己の前に置かれたる蹟きの石を除き去り、聖書を諒解する爲に己自身の理性を行使すべき時は遂に到来した。

イエスは常に忠實に神を代表した。如何なる人もイエスがエホバと律法の契約とに對して不忠實であつたと主張し得る者は絶無である。イエスは斯く言つた「我何事をも自ら行ふ事能はず……そは我わが意を行ふ事を求めず、我を遣はし、父の意を行ふ事を求むればなり」(ヨハネ傳五章卅節)。ダビデはメシヤとして來る者に就て預言して彼が己の家の者から如何に迫害さるゝかを示した。「我は汝の爲に誹謗を負ひ、耻は我が面を蔽ひたればなり。我わが兄弟には旅人の如く、我が母の子には他人の如くなれり。そは汝の家を念ふ熱心我を食ひ、汝を誹る者の誹謗我に及べり」(詩篇六十九篇七十九節)。

敵なるサタンはエデン以來引き續いてエホバの聖名を誹謗し來り、又エホバの教示に聽き従はんとする者の全部の上に纏らゆる誹謗を加へたのである。イエスの上に誹謗を加へたる者は即ち此のサタンであつた。

モーセはメシヤの模倣であつた、故に彼は斯く記した、「汝の神エホバ、汝の中、汝の兄弟の中より我の如き一個の預言者を汝の爲に興し給はん、汝等これに聽く事をすべし……我彼等兄弟の中より汝の如き一個の預言者を彼等の爲に興し、我が言をその口に授けん。我が彼に

命する言を彼悉く彼等に告ぐべし」(申命記十八章十五、十八節)。

此のメシヤがユダの支派を通じて來る事は預言の明示する通りである、「杖(王權) ユダを離れず、法を立つる者その足の間を離るゝ事なくしてシロの來る時にまで及ばん、彼に諸々の民従ふべし」(創世記四十九章十節)。

神は預言者ミカを通じて此のメシヤ即ち大贖ひ主たるべき者の誕生地を預言し置かれた、

「ベテレヘム、エフラタ、汝はユダの郡中にて小さきものなり、然れどもイスラエルの君となる者汝の中より我が爲に出づべし。その出づる事は古昔より、永遠の日よりなり」(ミカ書五章二節)。

イエスはユダの支派より出で來り、ベテレヘムに於て生れたのであつて之等の預言はイエスに於て全て一致した。イエスなる名は「民の救ひ主」と云ふを意味す、(マタイ傳一章廿一節) 神は預言者イザヤを通じてメシヤに就て示し、「我等が宣ぶる所を信ぜし者は誰ぞや、エホバの手は誰に現はれしや」(イザヤ書五十三章一節)と示された。斯くの如く神が其の御目的を執行せしむる爲に遣はし給ふ神の代表者を信じて受け容るゝ者は極めて少數であると示されてゐる。此の預言は更に續く、「彼は侮られて人に棄てられ、悲哀の人にして病患を知れり。また面を蔽ひて避くる事をせらるゝ者の如く侮られたり。我等も彼を尊まざりき」(イザヤ書

五十三章三節。

當時のバリサイ人や民の指導者たち、教職者、律法の教師等が皆イエスを排斥した事は事實である。彼等はイエスの上に總らゆる侮辱を積み重ね、總らゆる方策を盡して人々をイエスより離らさうと努めた。斯くイエスが虐待された事に就て當時の一般民衆には何等の責任はなかつた。其の如く今日の一般民衆も、聖書を誤り教へて嘘偽と欺瞞とを以て人々を邪導する彼等教職者の負ふべき責任に對しては何等責任を有せざる者である。

預言者イザヤは又云ふ、「彼は苦しめられるも自ら謙りて口を開かず、屠場に引かるゝ羔羊の如く、毛を切る者の前に黙す羊の如くして其の口を開かずき」(イザヤ書五十三章七節) イエスは全く此の預言の各部に適合する處の経験をなした。彼は壓迫され、迫害され、苦しめられた、そして己を誹謗悪口する者の前に立つてもその口を開かなかつた。預言者イザヤはメシヤたるべき者は「神の羔羊」である事を告げてゐるが之ぞ即ち「過越の羔羊」を以て模倣とする處のものである。イエスの上に大苦難が來て彼が殺されたのは即ち過越節の頃であつた。

預言者イザヤは更に語り續く、「其の墓は悪しき者と共に設けられたれど、死ぬる時は富める者と共になれり。彼は暴びを行はず、其の口に嘘偽なかりき」(イザヤ書五十三章九節)。イエ

スは悪しき者として死に、墓に遣られたが彼はアリマタヤのヨセフと云へる富める人の墓に葬られた、(マタイ傳廿七章五十七-六十節)。彼は何等の暴びを行はず、又其の口に嘘言が絶無であつた、(メテオ前書二章廿二、廿三節)。

預言者イザヤは又續く、「されどエホバは彼を碎く事を喜びて之を憫まし給へり。斯くて彼の靈魂(生命)が愆(罪)の祭物をなすに至らば、彼は其の末を見るを得、その日は永からん。且つエホバの喜び給ふ所は彼の手によりて榮ゆべし」(イザヤ書五十三章十節)。然らば神は何故に此の罪なくして防禦の道なき此の子を碎く事を喜び給ひしか。何故なれば人類に對する贖價を備ふる爲に此の子が死する事を必要としたからである。彼は人類の上から不完全性を除去する爲に必要な罪祭とならなければならなかつた。之ぞ即ち神の聖旨であつて、アブラハムが其の愛する獨子を献げし時の事によつて之が豫表されてゐたのである。

預言者イザヤは又云ふ、「彼は己が靈魂を傾けて死に至らしめ、愆ある者と共に數へられたればなり」(イザヤ書五十三章十二節)。イエスは此の點にも適合した、何故なれば彼は律法の罪人として處罰された二人の者の間に挟まれて十字架に釘けられたからである。又「彼は多くの人の罪を負へり」とある、何故なれば贖ひ主たり、メシヤたる者は罪の爲の祭物をなし罪人として死なねばならぬとなつてゐるからである。彼は死にし時に「愆ある者の爲に執成

をなせり」とある如く彼等に慈愛の言を以て語つたのである。

預言者ゼカリヤはゼカリヤ書十一章十二節に於て贖ひ主たりメシヤたるべき者は彼の友と稱する者の爲に銀三十を以て賣られんと預言した。イエスは彼の弟子の一人なるユダの爲に銀三十を以て當時の教職者に賣られた。此の金は彼等教職者によつて拂はれた。悪魔が之等の事の全部をなさしめたのは無論である。

預言者ダニエルは示して、メシヤたるべき者は「自己の爲に非ず」して人々の爲の罪祭として殺され、「其の週の半に」絶たれんと告げた、(ダニエル書九章廿五―廿七節)。既に示したる神の方則に基く時の計算法は一日は一年を表象するものとして用ひられてゐる。一週は七日を以て成る。而して「一週の半」とは即ち三日半である。象徴的三日半は實際の三年半である。イエスは「贖罪の日」(七月十日)の頃より其の傳道を開始し、それより丁度三年半の後即ち過越の節の頃に預言者ダニエルの言へる如く「メシヤ絶たれん、但し之は自己の爲に非ずして」殺されたのであつた。然る後にダニエルは附け加ふ、「一人の君の民來りて邑と聖き所とを毀たん」と。此の君とは即ち羅馬の支配者であつて、彼はイエスの死後間もなく其の軍隊を遣つて、エルサレムの都を滅ぼし其の殿を毀ちたる事は歴史上有名なる事實であると共に、又預言者ダニエルの預言と完全に一致するものである。

預言者ダビデは預言して此の贖ひ主たりメシヤたるべき者は手荒く殺されるが、然し彼の骨の一本も折られざるべしと告げた、(詩篇卅四章十九、廿節)。律法は示して、過越の羔羊の骨は一本も折らざるやうに命じてゐる。過越の羔羊は贖ひ主たるメシヤを豫表する模型であつた。イエスは十字架に釘けられて殺された。然し磔刑に處せられたる罪人の屍體を取扱ふ當時の習慣に反してイエスの骨の一本も折られなかつた事は有名なる事實である、(ヨハネ傳十

九章卅一―卅六節)。ダビデはメシヤに就て斯く預言した「そは汝我が魂を陰府(墓)に捨て置き給はず、汝の聖者を墓の中に朽ちしめ給はざるべければなり。汝生命の道を我に示し給はん。汝の御前には充ち足れる歡樂あり、汝の右には諸々の快樂永遠に在り」(詩篇十六篇十、十一節)。

數百名の證人はイエスが十字架上で死んで三日後に死より甦らされたる旨を證言した。彼の屍體は取り去られて腐敗に歸せしめられなかつたのである。

イエスの上にかきたる之等の事が單なる偶發事であるとは普通思慮ある者の言ふ事能はざる處である。猶太人たると異邦人たるとを問はずイエスの如くに神の預言の各部に全き一致符合を示したる者ありしや。斯かる者のイエス以外に絶無なりしは無論である。

人類の贖ひ主たるべき者の完全なる人間でなければならぬ事に就ては既に我等の學び知つ

た通りである。故に彼は神より遣はされなければならぬのであつて、此の地上の人類の間より取られてはならぬのである。イザヤは斯く預言した。此の故に主自ら一つの豫兆を汝等に賜ふべし。視よ、處女孕みて子を産まん。其の名をインマヌエルと稱ふべし。『イザヤ書七章十四節』と。此の預言と全く一致してイエスは處女マリヤより生れ出たのである。之ぞ全く一點の疑ひなき所であつて、如何なる人も之を否定する事の出来ざる所である。敵なるサタンは此の生れ出づる子が神の約束の者なるを知りて、彼は子の生れ出でざる前に母なる處女マリヤを右にて打ち殺ささうとした。然し神は彼の陰謀を無効になさしめられた。我等は今イエスが總ての條件を具備したる者なるを知る、即ち彼はユダの支派を通じて來り、處女より生れ、人々より侮辱され、排棄され、イスラエルの指導者たちから迫害され、銀三十を以て賣られて耻辱的の死を受けて死んだ。

預言者の期間を通じて神は唯少數の人々の上に其の聖靈を與へられたのであつて、之等少數者はエホバよりの示しのまゝに預言した。ヨエルは預言して猶太人の末期、彼等が最後の離散を遂ぐる大難難の少しく前、即ち羅馬人の軍隊より恐ろしき包圍を受けて最後の顛覆を受ける前に、神は多くの者に聖靈を與へて彼等に預言するを得せしめられんと預言した。(ヨエル書二章十八、廿九節)。此の預言は猶太人の全部によつて受け容れられ、信じられなければ

ならぬ。何故なれば彼等は預言を信ずると稱してゐるからである。而して若し此の預言が的確に成就し、其の時が羅馬人によつてエルサレムが顛覆する少しく前に當つてゐたならば其の成就に關する證言は神より來れるものとして受け取られなければならぬ。

ペテロはイエスの弟子の一人であつた。彼は猶太人であつて律法に事へた。イエスの殺された過越の節の直後なるペンテコステの時にペテロと他の弟子等はエルサレムに於て待ち受けてゐた。其の時に上記ヨエルの預言は成就したのである。此の當時エルサレムには諸國語を語る猶太人が甚だ多く集まつて居た。之等の猶太人は無學の者なるペテロや其の他の者が何れも異つた國語で語るを見て驚いた。之を信するを欲せざる者は彼等を嘲けて、「之等の者は酔つ拂つてゐる」と云つた。然しペテロは彼等に答へ、上記の預言を引用して「之等の者は酔つ拂つてゐるのではなくして、之ぞ預言者ヨエルの述べし預言の成就である」と告げた。其の時ペテロは此の預言を引用し、それを聴く者等の前に於て今、其の預言が成就してゐるのであると聲明した。此の事のみにもペテロは充分に資格を有する一個の證者であつた。彼はヨエルに依て既に述べられある預言の成就を確實に示したる後、證言を續行し、贖ひ主たり、メシヤたる者が何者であるかを識別して斯く宣べた。

「イスラエルの人々よ、之等の言を聴け、それナザレのイエスは汝等の知る如く、神かれに

依て汝等の中に行し、妙なる能力と、奇跡と、特徴とを以て汝等に證し給へる所の人なり。此の人は即ち神の定めし旨と豫め知り給ふ所に應ひて付さる。汝等は無法の手を以て之を捕へ十字架に釘けて殺せり。神は其の死の苦しみを解きて、之を甦らせ給へり。彼は死に繋かれ居るべき者ならざればなり。そはダビデ彼に就て云ひけるは、我わが前に主の常に在すを見る。その我が右に在すは我が動かされざる爲なり。是の故に我が心は樂しみ、我が舌は喜べり。目つ我が肉體は望に居らん。これ汝は我が靈魂を陰府(墓)に遺て置かず、又汝の聖き者を朽ち果てしめざるが故なり。汝既に我に生命の路を示す。我を汝の前に置きて喜びに満たしめん、と。

「人々兄弟よ、我先祖ダビデに就きて憚る所なく汝等に語る。是れ當然事なり。彼は既に死にて葬られ、其の墓は今日に至る迄我等の中に在り。彼は預言者にして神これに誓ひを立て、其血統の中より一人を擧げて位に即かしめんと誓ひ給へるを知り、豫め此事を曉るが故にキリスト(メシヤ)の甦る事に就き語りて、彼は陰府(墓)に遺て置かれず、亦その肉體も朽ち果てずと云へるなり。既に神はイエスを甦らせ給へり。我等は皆その證人なり。是の故に彼は既に神の右に擧げられ、約束の聖靈を父より受けて、今汝等が見る處、聞く處のものを注げり。それダビデは天に昇りし事なし、然るに彼自ら云ふ、主我が主に言ひけるは、我汝の敵

を汝の足臺と爲す迄我が右に坐すべしと。然らば凡てイスラエルの全家よ、汝等が十字架に釘けし此のイエスを立て、神これを主となし、キリスト(メシヤ)となし給ひし事を確かに知れ。「彼等これを聞いて其の心刺さるゝが如し。是に於てペテロと他の使徒たちに問ひけるは人々兄弟よ、我等は何を爲すべきか。ペテロ彼等に言ひけるは、汝等各々悔ひ改めて罪の赦しを得んが爲にイエス・キリストの名に由りてバプテスマを受けよ、然らば汝等も聖靈の賜物を受くべし。この約束は汝等及び汝等の子孫、また遠き人即ち主たる我等の神に召さるゝ人々に屬くなり。其の時この言を聞き納れし者はバプテスマを受けたり。是の日弟子に加はれる者凡そ三千人ありき(使徒行傳二章廿二―卅九、四十一節)。

預言者のなせる預言に基きてナザレのイエスを以てメシヤなりと識別する處の證言が即ち此處に在る。其の時其處で此の證言を聞いて信じたる猶太人は三千人に上つた。此のヨエルの預言は即ち、羅馬人より攻撃を受けて猶太人が最後の離散をなす少しく前に、他の預言をなさしめらるゝ事を示してゐる。ヨエルの預言が其の正規の時に成就したる此の事實は即ち神が他の者等に預言の力を與へられる事を立證する譯であつて、其の力を受けて新たに預言したる者は即ちイエスの弟子等であつた。之等の記録は神エホバの指導下に於てなされたものなるが故に絶対に確實である。斯くして新約書が舊約書と一致してゐる此の事實は此の

新約書が神の言であつて、エホバの指導下に於て記述されたものなる事が瞭かである。

正統派に屬する猶太人は永らくの間新約書を拒絶してゐたが、之は何の爲か。何故なれば敵なるサタン即ち悪魔はその代理者なる教師たちを通じて人々の心を盲まし、眞理の光輝をして彼等を照らさざらしめたのである。それと共に猶太人をして新約書に贖かさしめたるはそれが誤れるからではなくして、自稱クリスチャンの徒が此の新約書を棍棒として猶太人を苦しめ惱ます道具に用ひたからである。之等の自稱クリスチャンも亦眞理を猶太人の前に盲ます爲に悪魔によつて使用されたる道具であつた。

然し今、ヨベルの日が來り、イスラエルの苦難の終結する其の日が到來した。彼等の盲目状態が取り除かれて、神が猶太人を救ひ、彼等をその故郷の土地に建つる爲に設け置かれし驚くべき御目的を悟り知るべき豫定の時が到來した。

然らば新約書は贖ひとメシヤの事に就て何と示してゐるか。舊約書と完全に一致して、人類はアダムの罪の故によりて死に行かなければならなくなつた事（ロマ書五章十二節）、人類は墓と死の状態より喚び出されなければならぬ事、而して之を爲すために一個の完全なる人間の犠牲的死を必要とする事を最も確實に明示してゐる。

タルソの住人サウロ、即ち猶太人の法學者にして博學多識の人としての名聲高く、議會の

一目たりしも後、イエスの弟子となりたるパウロは猶太人に向つて斯く書き贈る、

「唯我等、天の使等より少しく遜されし者、即ち死の苦みを受けしによりて榮光と尊貴を冠らせられたるイエスを見たり。其の死にたるは神の恩によりて諸の人に代り、死を嘗へんが爲なり。それ諸子も偕に肉と血とを具備ふれば、彼も同じく之を具備ふ。是死をもて死の權威を有てる者即ち悪魔を滅ぼし、且つ死を恐れて生涯繋がるゝ者を放たん爲なり」(ヘブル書二

章九、十四、十五節)。

之等證人の證言は一致して、イエスが死より甦らされて昇天し、その犠牲の祭物を人類に對する偉大なる罪祭として神の御前に獻げられたと告げてゐる、(ヘブル書九章十九、廿八節。ピ

リヒ書二章三十一節)。

之等の證言は更に又示して、イエスはメシヤであり、悪魔を驅逐して新しき天と新しき地即ち天界に於て肉眼に見えざる新支配權制度を設立して地上人類の間に見ゆる政府を建設するのであると告げてゐる。以上ペンテコステに於て證言せる猶太人ペテロは神より膏をそゝがれて又斯く證言す、

「主その約束し給ひし所を成すに遅きは或る人の遅しと思ふが如きに非ず、一人の亡ぶるをも欲み給はず、すべての人の悔い改めに至らん事を欲みて我等を永く忍び給ふなり。然ど主

の日の來ること盜人の夜來るが如くならん。其の日には天大なる響ありて去り、體質悉く焼け崩れ、地と其の中にある物皆焼け盡きん。斯くの如くすべてのもの鎔かされん。然ば汝等神の日の來るを待ち、これを速かにせん事を務め、如何に聖き行爲をなし、神を敬ふことをなすべきや、神の日には天然え崩れ、體質焼け鎔けん。然ど我等は其の約束によりて新しき天と新しき地を望み待てり、義その中に在り(ヘテロ後書三章九—十三節)。

預言者イザヤは示してメシヤの王國は平和と義の國であると預言した、「獨りの嬰兒我等の爲に生れたり。我等は獨りの子を與へられたり。政事はその肩に在り。その名は奇妙、議士大能の神、永遠の父、平利の君と稱へられん。その政事と平和とは増し加はりて窮りなし、且つダビデの位に坐りて其の國を治め、今より後永遠に公平と正義とをもて之を立て、之を保ち給はん。萬軍のエホバの熱心之を成し給ふべし(イザヤ書九章六、七節)。

新約書の記録する處によると、ペテレヘムに於てイエス誕生の時に天使等は斯く歌ひ和したとある、「地には平和、人には恩澤あれ」と。而して豫定の時至るに及びて此の福音は全人類に到達する事となるのである。之即ち上記イザヤの預言と完全に一致す。イザヤは又預言して、神の國が建設された時には、律法はシオンより出で、エホバの言はエルサレムより出づべく、其の時には最早戦争なくなりて其の統治者たる者は平和の中に神の國を支配すると

示してゐる(イザヤ書二章二—四節)。此のイザヤは又預言して曰ふ、「此處にひとり王あり、正義を以て統べ治め、その君たちは公平を以て宰どらん(イザヤ書卅二章一節)。

此の「王」とは即ちメシヤであつて、又「君たち」とは詩篇四十五篇十六節に於て示されたる處の人々即ちアブラハム、イサク、ヤコブ及び其の他の預言者等や又古代の聖き人々であつて、彼等は地上に甦らされて、地上人類の間の支配者とされ、榮光をエホバの聖名の上

に歸する事となるのである。以上、本書に於て神の聖書に基きて論述したる所に聽き従ふ所の猶太人は皆、神がイスラエル人即ち猶太人をパレスチナの地に再建する事、神が此の地をアブラハムと其の子孫に與へんと約束されたるその御約束を確實に守られる事、神は數千年間に亘る長年月を通じて猶太人及び猶太人を通じて一般人類に教へてエホバこそ眞の唯一の神に在してエホバ以外に神なき事を示されし事、神は惡しき者サタンが其の奸惡なる手段を弄して地上人類を惑はすを放任し置きて之の全部を逆を利用して人々の忠信を試むる爲に用ひられたる事、神に對する愛を立證し得て其の忠實と忠信とを表明し得たる者は神より祝福を受ける事を學び知つたのである。

猶太人は今、その預言の成就に基いてパレスチナの土地に再び集合せしめられてゐる。然

し彼等の大多数は神と其の御約束に就て信仰を有してゐない事が確かである。聖書に示される如く猶太人の長い経験に見るも、若し彼等が神を學びて神に對する信仰を實行せざる限り、其の故郷を回復し、其處に再建さるゝ事に成功せざるは絶對確實である。此の故に猶太人たる者よ、汝等は己が心を神エホバと其の聖言に向けて預言を學び神の言に信頼して固く依り頼れ。さすれば神は其の御約束に基きて汝等を其の歩むべき道に導き教へて永遠の祝福の道を示し給ふべし。

神は人間を復興する爲に高價なる犠牲を與へられた。即ち神は之が爲にその愛子を與へられたのであつて、此の愛子イエス・キリストは一個の人間としてアダムの身替りとなる爲に死んだ。これによつてアダムと彼の全子孫は豫定の時至るに及びて死と墓より解放されることとなるのである。斯くの如く神はその預言者を通じて示された御約束を實行されるのである。(ホセア書十三章十四節)。神が斯く人間の爲に高價なる贖價を備へられたと云ふ事は即ち神が人類復興に對する責任を自ら帯び給ふたる譯であつて、神はその御豫定の時に於て確實に之を爲し給ふのである。

神の御目的

聖書を詳かに研究して見ると神の御目的として左の如き事が瞭かとなる、即ち、神は人間

を完全に創造された事、人間は罪を犯して死を宣告された事、神は人間を贖ひ出さんと約束された事、贖ひ主たるべき者は即ちメシヤであり又約束による「裔」であつて彼を通じて地上全人類に祝福が来る事、此の贖ひ主たるべき者は完全なる人間でなければならぬのであつて彼は其の完全なる人間性を人類に對する贖價として與へる事、地上人類の間には此の資格に相當する者が絶無なる事、神エホバの愛子にして常に忠順の子なるロゴスは天界より此の地上に遣はされてエホバの力によつて一個の完全なる人の子として生れさせられた事、彼は小兒より漸次成人せる事、彼は罪祭の祭物として苦みたる事、彼は死より甦らされて昇天せし事、世の末に於て彼は再臨し此の地上に神の王國を建設して之を支配する事、猶太人が故郷パレスチナの地に復興さるゝ時が到来せる事、人々に對する祝福は即ち生命への復興なる事、イスラエルの苦難の時既に終結せる今彼等に慰めの言の傳達さるべき預定の時となつた事、以上。

イスラエル人がエホバを己が神として心の底から喜ぶ時が到来した、「エホバを己が神とする國は幸福なり。エホバ副業にせんとて撰び給へる其の民は幸福なり」(詩篇卅三篇十二、十三節)。ヨベルの日は来た、此の福音はイスラエル人と地上の全人類に傳達されなければならぬ(詩篇八十九篇十五節を見よ)。

イスラエル人の苦難の長い夜は既に終つた。神の恩恵は今、彼等の上に復歸す、彼等の主にして全人類の救ひ主たるメシヤの何者なるかを彼等イスラエル人に指示せねばならない。神を愛する人々よ、汝等は此の福音を彼等に傳達せよ、之エホバの神命なり「善き音信をシオンに傳ふる者よ、高き山に登れ。嘉き音信をエルサレムに傳ふる者よ、汝強く聲を擧げよ聲を擧げて懼るゝ勿れ、ユダの諸々の邑に告げよ、汝等の神來り給へりと」(イザヤ書四十九章一節)。

第十一章 ヨ ブ

エホバは最大の「活動映畫」製作者に在す。神は或る人々をして或る模圖を作成するを許し置かれる、而して其等の人々は己が努力の結果を見て自分等が偉大なる者であると考へてゐる。然し彼等自身は決して偉大ではない。人類初期の時代に於て神は完全なるその聖旨に基きて人々を動かし、彼等の移動によつて救済と生命に對する復興の時の到來するを圖示して置かれた。無論之等の人々は自分等が爲してゐる事の意味を知り度いと願つたけれども彼等はそれを知る事が出来なかつた、何故なれば其の時は未だ彼等が其の意味を諒解すべき神の豫定の時ではなかつたからである。斯くの如くに使用された人々の多數は神に對する信仰を有してゐた、そして彼等の信仰は神の豫定の時至るに及びて必ず報ひられる事となつてゐる。

る。天使たちも其の意味を知らんと願つたけれど神は其れを許し給はず、唯神の指定された時至るに及びて此の地上に住み、神に全部を献げて奉仕する者のみの爲に其の顯示の時を備へて置かれたのである。

之等聖書中に記録し置かれたる偉大なる模圖の中にヨブの事件がある。事實に於てヨブの模圖は他の諸々の模圖からは全然獨立、分離して人類に對する最も重大なる教訓を與へてゐる。ヨブ記に對する諒解は今日までには極めて些少であつた、そして神の預定の時至るまでは之を諒解する事が出来ないことになつてゐた。然し今、既に成就せる預言と、顯示された神の御目的は熱心なる眞理探求者に對してヨブの書を開封し始めたのである。ヨブ記中に明示される處は、神の力が復興によつて人類に生命を與ふる事と、之に關聯せる聖旨の數々を確實に圖示してゐる。此の復興の模圖は實にユダヤ人に適用さるゝのみに止らずして地上全人類に適用さるべきものである。聖書の示す處によるとヨブはユダヤ人ではない。彼はイスラエルの地の外部に住んでゐた。彼が住んでゐたウツの地はパレスチナの東に當つてゐた。ヨブに關して斯く記さる「此の人は東の人の中に於て最も大なる者なり」(ヨブ記一章三節)。此の言はヨブが如何なる立場に置かれ、又神が彼を用ひて作製された模圖が特殊の勝れたるものである事を示してゐる。

ヨブを用ひて神が作製されたる多數の模圖を正式に諒解する事は我等に重大なる意義を與ふるものであるが、特に其の中の一模圖の如きは人類に對する生命の復興を示してゐるのであつて其の絶妙なる事は眞に驚かされる。ウツはセムの子孫の一人であつてアラムを通じて生れ出た。故にヨブはセムの子孫の一人である。此のセムはノアの子であつて神の特別の祝福の止れる者であつた、(創世記九章廿六節。十章廿三節)。「ウツ」の名の意義は「相談」若くは「助言」と云ふ事であつて、之は即ちウツと彼の子孫が神エホバを知りて其の助言を得んと願ひ求めてゐた事を意味してゐる。之がヨブと神エホバとの關係を示すと同時に神が特殊の模圖を作成する爲にヨブを使用した理由を物語つてゐる。

「模圖」とは未來に來るべき實體の影像である。影像は或る場合には肉眼を以て見る事が出来る事もあるし、又精神的表現である事もある。ヨブが實在の人か、否か、又彼に關する記録が單なる譬話であるか否かは問題ではない。神の言なる聖書中に記録されある此の話は人類を教へんが爲である。聖書は神が多數の人々を使用して人類に對する救済祝福の御目的を圖示する多くの活ける模圖を作成された事實を滿載してゐる以上、此の事實は亦ヨブが實在の一人物であつて、活ける模圖を作る爲に神に用ひられ、神との間に交渉があつた事を明確に立證してゐるのである。更に進んでヨブがアブラハム以後の或る時代に實在した事實は確か

に示されてゐる。ヨブは實在の人物であつて、ヨブ記が單なる譬話に非ざる事は他の預言者たちによつて明かに示されてゐる。(エゼキエル書十四章十四、廿節。ヤコブ書五章十一節)。

符合一致

ヨブとアダムの間に著しい符合一致のある事を看過する事は出来ない。只違ふ所はアダムは貞潔を保ち続け得なかつたがヨブは続け得たと云ふ點である。完全なる人アダムはエデンの東方に造られたる神の園に住みたる一の君王であつた。而して彼は神と交渉を保ち、神の助言を得てゐた。ヨブは「東の人の中にて最も大なる者」であつたとあるが又即ち彼が人々の間で「君王」であつた事を示してゐる。故にヨブは「王侯」「君王」であつたと記されてゐる。(ヨブ記廿一章廿八節。卅一章卅七節)。彼はウヅの地に住んでゐたとあるが、之は即ち彼が神と交渉を保ち、その助言を得てゐた事を意味してゐる。

神はアダムを完全なる人間として創造された、そして此の完全なる人間が創造者なる神エホバを崇拜するは神の聖旨であつた。人間アダムを神エホバより離反せしめたのは惡魔即ちサタンノ仕業であつた。惡魔は我利私慾の爲に此の途を撰び取つた。エホバは此の時アダムがルシファアの奸計に陥らぬ様にアダムを特別に防護するが如き方法を執られなかつた。神はアダムを試験する爲に彼が誘惑に遭ふを許し置かれた。

ヨブに關して斯く録さる、「其の人と爲り完全く且つ正しくして神を畏れ、惡に遠ざかる」(ヨブ記一章一節)。彼は其の肉體に於ては不完全であり、生存權を有さざりしとは雖も其の心は神に向つて純潔なりしが故に神は彼を完全なる人と認められたのである。神は人間の心を見、其の行爲の動機を見られるが故に、其の立場から彼を審判し給ふのである。「我が視る所は人に異なり、人は外の貌を見、エホバは心を見るなり」(サムエル前書十六章七節)。ヨブの心はエホバの前に素直にして、彼は神を畏るゝの畏を以てエホバを畏敬した。(ヨブ記廿三章十五—十七節)。此の故にヨブは神の前に完全なる人として立ち、其の心に純潔と義しきとを保つたのである。エデンの園に於けるアダムは實際に完全なる人であつたが、ヨブは完全なる者なりとの資格を與へられた。此の理由に基いて兩者の立場が一致符合してゐるのである。君王アダムは富める人であつた。彼は神より授けられし妻を有し、完全にして幸福なる己が子孫を此の地上に滿たしむるの祝福されたる將來を有してゐた。彼は人類の父であつた。彼は全地と、鳥類や獸類等に對する統治權を授けられてゐた。(創世記一章廿六節。二章十九節) 其の繁榮の時に於てヨブは人々の間で元首の位を占めてゐた。(ヨブ記廿九章廿五節)。彼が人々の間で保ち居たりし其の位置と富は彼をして東の人々の間で最大なる者とならしめた理由の一である。神は其の模圖を作製するに際して多くの表象を使用し給ふ。十の數は全部若し

くは完全を表象するものであつて、即ち全部のものを抱括してゐる事を意味す。故に十の數を如何に多く乗積するも同一の意味を有するのである。此の點に於てヨブが有してゐた富に注意するは頗る重要な事であつて、此の富もアダムのそれに一致符合してゐる。ヨブは七人の男子と三人の女子、即ち合計十人の子供を有してゐた。此の十人の子供の數はアダムの全子孫即ち全人類をよく代表してゐる。ヨブは七千頭の羊、三千頭の駱駝を所有してゐたが此の家畜數も合計一萬となる。ヨブは同時に牛を五百耦と牝驢馬を五百耦及び夥しい僕の数有してゐた。(ヨブ記一章三節)。人々の間に於ける此の地位と富とは彼をして其の當時に於ける最大の人たらしめたのである。ヨブは復興された時に失ひし以前のもの全部を回復したのみならず、猶ほそれ以上のものを得たと記されてゐるが、之ぞ神がヨブを使用して人間の行く道を表象する處の活ける模圖を作製された事を立證する更に進んでの證據であつて、人類が贖ひと復興の方法によつて生命を獲得するの模様を表示してゐるのである。

アダムは己が全部を以て神の御前に服従すべきであつた、何故なればそれが完全なる人間としての彼の爲すべき義務であつたからである。ヨブは己が全部を以て神の御前に服従した。彼の男子は皆各自で饗宴を爲し、三人の姉妹を招待して飲食したとある。ヨブが神に全部を献げてゐる事は此の饗宴の直後に必ず爲されし事柄に依て明白に立證されてゐる。『その宴筵

の日果つる毎にヨブ必ず彼等と呼び寄せて潔む。即ち朝早く起き、彼等一切の數に従ひて燔祭を献ぐ。是はヨブ我が子ら罪を犯し、心に神を忘れたらんも知るべからずと謂ひてなり。ヨブの爲す所常に斯くの如し。(ヨブ記一章五節)。ヨブが「宴筵の日果つる毎に」之を爲したと云ふ事は即ち「織綾」して行つたと云ふ意味であつて、エホバに對する彼の献身の状態を明かに立證してゐる譯である。

ルシファアはアダムがエデンに在つた間はアダムに對する大君主であつた。神エホバはルシファアを其の位に任じられたのである。ルシファアの背信と叛逆の爲に神は彼の名を老蛇龍、サタン及び惡魔の四名稱に變へられた。人間の上に君主たる權は其の時に未だ剝奪されなかつた。そして彼は依然引き續いて人間の上に其の君主たるの權を行使して來たのである。此の事實なる事はヨブ記と共に他の聖書中の處々に明記されてある。ルシファアをして墮落せしめ、惡魔とならしめた理由は、神に對するアダムの献身を己のものにせんと切望したる結果である。ルシファアは人間の崇拜を己自身に歸せしめんと欲した。彼は己が惡しき目的を成就する爲に、神がアダムに與へられた女なるエベを通じて實行に着手し、それを成功せしめたのである。

惡魔はヨブが神エホバに獻げてゐる崇拜と熱心なる獻身とを妬ましく思つた。惡魔はヨブ

を讒謗して、ヨブは己が利慾の爲に神に奉仕してゐるのであると言つた。神の子たちが神エホバの御前に集合する日が来た。サタン即ち悪魔も天界の萬軍と共にエホバの御前に顯はれた。此の一事はサタンが天界に在つて神の御前に接近してゐる事を立證してゐる。サタンはヨブをエホバより離反せしめ度いと欲した。そして此の事を知悉してゐられる神はサタンに一の機會を與へられた。

「エホバ、サタンに言ひ給ひけるは汝何處より來りしや、サタン、エホバに應へて言ひけるは地を行き巡り、此處彼處、經歩きて來れり。エホバ、サタンに言ひ給ひけるは必し心を用ひて我が僕ヨブを觀しや。彼の如く完全く、且つ正しくして神を畏れ、惡に遠ざかる人世にあらざるなり。サタン、エホバに應へて言ひけるは、ヨブ豈求むる事なくして神を畏れんや汝彼とその家及び其の一切の所有物の周圍に藩屏を設け給ふに非ずや。汝かれが手に爲す所を悉く成就せしむるが故にその所有物地に偏ねし。然ど汝の手を伸べて彼の一切の所有物を撃ち給へ、然らば必ず汝の面に向ひて汝を詛はん。エホバ、サタンに言ひ給ひけるは、視よ彼は一切の所有物を汝の手に任す、唯かれの身に汝の手をつくる勿れ。サタン即ちエホバの前より出で行けり」(ヨブ記一章七—十二節)。

サタンはエホバがヨブと其の家畜類とを保護してゐられる事を批難した、此の故にヨブを

して惡魔自身を崇拜せしむる事が出來ないので考へてゐた。エホバはサタンに告げて、彼の手を以てヨブを試み、ヨブをしてエホバを拒絶せしめよと告げられた。其處でサタンはヨブの神に對する信頼と獻身とを破却せんとし、惡しき目的を以て彼を撃つ準備を爲すべく出で去つた。

ヨブが其の長子の家で己が子等と共に飲食するの日は来た。サタンは己が道具なるシバ人を使つて騒ぎを起し、彼等をしてヨブの牛と驢馬を掠奪し、僕等を殺さしめた。又他の僕等が羊を飼ひ居たりし時に火の爲に焼き殺されて了つた。之と略々同時刻に同じく惡魔の僕なるカルデヤ人がヨブの駱駝を襲撃し之を掠奪して番人の僕等を殺害した。ヨブが其の子等と飲食してゐる時にサタンは大風を起して彼等の坐し居たりし家を押潰し、ヨブの子を皆殺して了つた。(ヨブ記一章三十一—三十九節)。惡魔は今、ヨブが神を詛ふだらうと考へた。然るに之と反對にヨブはエホバの御前に却て己を賤くして云つた。「われ裸にて母の胎を出でたり。又裸にて彼處に歸らん。エホバ與へ、エホバ取り給ふなり。エホバの御名は讃むべきかな。此の事に於てヨブは全く罪を犯さず、神に向ひて惡なる事を言はず」(ヨブ記一章廿一、二節)。

アダムと違つてヨブは神に對する絶對服従を示した。斯くしてヨブはエホバに對する純潔と獻身とを保ち得たのである。

アダムはエデンより放逐された後、その損害の爲に泣き叫んだ事であらう。同時に彼は苦く悩む者となつた。アダムと其子孫は悪魔の手の下に嫌はれ、苦められた。「ヨブ」と云ふ名は「泣き叫び、嫌はれ、苦めらるゝ者」と云ふを意味す。之ぞヨブが義を行はんとして苦み悩んだ人類を代表してゐる事を示す。人間の歴史は苦き涙を以て綴られてゐる。ヨブが其の子等と財産を失つた後に神の子等が神エホバの御前に集合する日が再び来て、サタンも矢張り神の御前に顯れた。(ヨブ記二章一節)。彼サタン即ち悪魔は引き續いて神と話した。

「エホバ、サタンに云ひ給ひけるは汝心を用ひて我が僕ヨブを見しや。彼の如く完全、かつ正しくして神を畏れ、惡に遠ざかる人世に在らざるなり。汝われを勧めて故なきに彼を打ち惱まさしめしかど彼なほ己を完全ふして自ら堅くす。サタン、エホバに應へて言ひけるは、皮をもて皮に換ふるなれば人は其の一切の所有物をもて己の生命に換ふべし。然ど今汝の手を伸べて彼の骨と肉とを撃ち給へ。然らば必ず汝の面に向ひて汝を誑はん。エホバ、サタンに言ひ給ひけるは彼を汝の手に任す、只彼の生命を害ふ勿れ」と(ヨブ記二章三―六節)。

サタンはヨブの神エホバに對する信頼を打ち碎きて彼を神から離れ去らしめんとした。「サタンやがてエホバの前より出で行き、ヨブを撃ちて其の足の跡より頂までに惡しき腫物を生ぜしむ」と(ヨブ記二章七節)。ヨブは灰の中に坐つて再び神の御前に謙遜を示した。「ヨブ土瓦の碎

片を取り、其れをもて身を掻き、灰の中に坐りぬ」と(ヨブ記二章八節)。

然る時にサタンは彼がアダムを陥れた時の手段を再び用ひんとした。ヨブの神に對する貞潔を打ち破らんが爲に、例の如くに女を使用し、神がヨブに與へられたその妻を道具にした。「時にその妻彼に言ひけるは、汝は尙も己を完全ふして自ら堅くするや。神を誑ひて死ぬるに如かず」と(ヨブ記二章九節)。然るに悪魔はヨブの信仰を破る事に再度の失敗を演じた。妻の言を拒絶して斯く言つた、「汝の言ふ所は愚なる婦の言ふ所に似たり。我ら神より福祉を受くるなれば災禍をも亦受けざるを得んやと。此の事に於てヨブは全く其の唇をもて罪を犯さざりき」と(ヨブ記二章十節)。

アダムは其の試験下に落第した。彼は意識して進んで罪を犯した。(テモテ前書二章十四節)。アダムは神を愛さなかつた。彼は己が我利と私慾の念に支配された。サタンは、アダムがエバの言にその我利私慾の念を起した如く、ヨブも妻の言に陥つて落第するであらうと考へた、所がヨブは試験に落第しなかつた。即ち彼は神に反せず、又神を拒まなかつた。ヨブは其の子等と全財産とを失つた後と雖も猶ほ神に對する信頼を失はず、己が貞潔を保つた。此の當時に神はサタンに向つて斯う告られた、「汝我をすゝめて故なきに彼を打ち惱まさしめしかど彼なほ己を完全うして自ら堅く(貞潔)す」

「貞潔」とは貞節を意味し、如何なる逆境と迫害にも恐れずして己が正義と信じたる事を固く保つと云ふ事である。即ち己が意識的の罪惡を犯さざるを極力主張しつゝ、猶も己が創造者に對する信仰と献身とを確く保つ事を意味す。或る人は無實の重罪を課せられ、其の苦惱の中に極力己が無罪を主張す。此の場合其の人は己を知る人々に對する信頼を失はない。ヨブ記に於ける記録はヨブが其の大苦難下に在つて常にその貞潔を保ち、信仰を固くし、神に對する信頼の念を有してゐた事を示してゐる。

アダムがエデンに居る時に彼は全部の點に完全ではあつたが、只經驗が無かつたと説く者がある。斯かる説は聖書の教ふる所と逆行する妄説である。エホバはアダムを完全なる人として創造された。エホバの御仕事は完全であるとして聖書は明示す、(申命記卅二章四節)。エホバの御仕事を語る時に「條件附の完全」など斷じてあるべきでない。アダムは神に服従するよりも寧ろ惡魔の勸告に従つた方を自分から望んだのであつて、此の故に彼は落第して神より與へられてゐた全部のものを失つて了つたのである。彼アダムの状態を示して豫言者イザヤは云ふ「足の跡より頭に至るまで全き所なく、たゞ創痕と打傷と腫物とのみなり。而してこれを合すものなく、包む者なく、亦あぶらにて軟らぐる者なし」(イザヤ書一章六節)。

ヨブは其の肉體にては不完全であつた。然し彼は神に全部を歸依した完全なる心を有して

ゐた。彼はサタンに服従するよりも神に奉仕せん事を願つた。此の點に於て彼は己が貞潔と神に對する信頼とを保ち得たる譯である。斯くしてアダムの執りし惡しき道に關してアダムを庇護し、辯解し得るの口實は絶無なるべきを見る。同時に之は理智ある被造物が神に奉仕する事を捨て、惡魔に服従するの道を自ら進んで選り執る行為に對して何等辯護の辭なきを明かに立證す。神を愛する人は神の聖旨を探り求め、己が最善を盡して聖旨を爲さん事を願ふのであつて、斯かる道はエホバの嘉納し給ふ處のものである。

内 容

ヨブ記は永らくの間秘密とされてゐた。多くの人々は此の書を以て單なる文學書に過ぎないと主張した。又他の人々はヨブ記は世界に於ける最大の詩書であると説いた。双方共に誤つてゐる。此の書が記述されたのは即ち神エホバの命による。神に全部を歸依した人々の利益の爲に聖書は更に示す「従前より録されたる所は皆我等に教へて、聖書の忍耐と安慰との言に藉て望を得させん爲に録せるなり」(ロマ書十五章四節)。神は亦「終末の時」の期間内に於て或る者は神の言なる聖書を正式に諒解する事を許さるべしと告げて置かれるが、此の聖書中にヨブ記をも含んでゐるは無論である、(ダニエル書十二章四、十節)。此の故に神の豫定されし其の時の到來すべきは明かなる事實であつて、それは神の受膏者が全部地上より離れ去る

以前に於て、此のヨブ記が受膏者の或る者によつて諒解さるべき事を示してゐる。
 ヨブ記中には神エホバ、神の子たち、敵なるサタン、ウヅの人ヨブ、ヨブの子十人、ヨブに對する自稱友人なるエリバズとビルダデ及びゾバルの三人、若者エリフ、其他無数の人物が抱含されてゐる。又場所としても天界と地上とを抱含してゐる。此の書が天界と地上との全被造物、就中人類に對して最も重要な事を教へてゐる事は之に見るも明白である。此の理由に依り神の御豫定の時到来せる今日に及びて、神の御恵みにより此の書の秘密を探り求むる事を得るは受膏者にとつて實に大なる特權である。

模 圖

神がイスラエル人を使用して人類救済の御目的の進展状態を示す模圖を作成された事は聖書に依つて明瞭である。神がイスラエル人に與へられた律法は人類の上に来らんとする更に善き事の前影であつた。ユダヤ人の上に来た出來事の記録は之即ち神の御目的の進展を學ばんとする者に對して利益を與ふ模圖となる。ヨブはユダヤ人でなかつたとは云へ、之は神がその模圖を作成するにヨブを使用されなかつたと云ふ譯ではない。ヨブは東方に於ける最も大なる人であり、そしてヨブ記中には管に天界地上の事のみならず、大創造者たるエホバ御自身すらも抱含されある此の事實に見てヨブに關する模圖はイスラエル人に關する模圖よ

りも更に大なる顯示の範圍と區域とを有してゐる事が明かである。若し然りとすれば此の模圖はユダヤ人と異邦人を抱括する全人類に關係あるものである。我等は今、ヨブ記を研究するの便宜上、其の模圖の示す處と實體との關係の概略を知り、然る後に此の結論の正確なる事を聖書を以て立證する事とする。

ヨブが其の繁榮なりし時はエデンの園に於ける君主なる完全な人アダムの状態を圖示してゐる。

逆境に在りしヨブは罪の爲の損失と病氣と死に苦惱する全人類を圖示するのであつて、之等の災害は皆サタンがアダムを通じて彼の子孫なる全人類に與へたものである。

ヨブが其の子の全部を失つた事は、アダムがサタンに服従して犯すに至つた罪の爲に其の全子孫即ち全人類を失つた事を圖示してゐる。

ヨブが其の試験下に於て貞潔を保持した事は、その試験下に於て神に對する貞潔と忠信とを立證する或る級の人々を圖示してゐるのである。

ヨブが神の僕として彼の貞節を保つた事は、神の僕の全部が其の逆境に在りて神に對する確固不動の忠誠を堅く持する事を明かに圖示してゐる。

ヨブの友の如き顔をして顯はれたエリバズとビルダデ及びゾバルは事實に於てヨブの友で

はなかつた。彼等は三種の欺騙を表象してゐる。此の故に彼等は人間を欺きて悪しき道を歩ましめんとする爲に悪魔が用ふる代理者即ち悪の組織制度を表象してゐる。

若者エリフは神の使者として神エホバの御名を宣揚する受膏者たちをよく表象す。而して彼等は神の福音を「聞こゆる耳」の所有者に傳達するのである。

ヨブの妻はサタンが人をして神を誑はしめん爲に使用する彼の道具を表象す、故に聖書中に女の名を以て呼ばれてゐるサタンの組織制度に當つてゐるのである。

ヨブが健康と幸福とに回復され、以前にも勝つて多くの所有物を與へられたる事は神の御豫定の時至るに及びて人類が健康と幸福、生命に復興さるゝ處の大眞理を明かに表象してゐる。

ヨブ記中に教へられある偉大なる教示は死より生命への復活であつて、之は人類の再生と復興とを意味す。此の生命は人間の切望するものであつて、神エホバの備へ給ひし贖ひ主と仲保の役目を通じてのみ與へられるのである。

此處に列擧せる此等の推定は熱心なる聖書研究者がヨブ記中に記されある聖書的立證に基き、注意して研究すべきである。此處に本章の初に示せる問題に對する説明を爲した譯であ

るが然し正當なる解釋はヨブ記全書を注意して研究せざる限り得られない事は無論である。

人間存在の最初から大創造者なるエホバと其の子ルシファアとの間に人間に關する論争があつた。聖書の示す處によるとルシファアは二つの「曙の明星」の中の一であつて、彼は神から地球と人間を創造するの聖旨を聞かされた時にエホバを崇むる讃頌の歌に和したのである。人間が創造されてエデンの園に置かれ、ルシファアはエホバよりその監督者たるの任務を受けた。人間の責務と特權は己が創造者たるエホバを崇拜するにある事を彼ルシファアは知つてゐた。此の時ルシファアは我慾を出して人間の崇拜を己自身に受け度いと慾した。彼は神に叛逆して人間を墮落せしめた。其の時に彼の名はサタンと變へられたが此のサタンの名は「神に敵する者」と云ふを意味す。爾後ルシファアは引き續いて人間を神より離反するに努め、人間の崇拜を彼自身に獨占して人間を己に隷屬せしむる様に圖つたのである。此の大なる事實は聖書を研究する者の常に心に止め置くべきことであつて、ヨブ記の研究の場合に於て特に然りとす。

神の子たちがエホバの御前に集合した時に地上の人類の殆ど全部はサタンの悪しき感化の下に神より離反してゐた事は上記聖書の明示する處である。神はサタンの上より地上の監督者たるの權を除き給はず、却つて人間の上に彼の力を行使するを許し置き、之によつて全被

造物を試験する爲の好機會を備へられたのである。サタンが神エホバの御前に顯はれた時に彼は地上人類の殆ど全部をエホバより離反せしめたる故を以て頗る倨傲尊大、高慢に満ちてゐた事であらう。エホバはサタンにその動靜の報告を命じ給ふた、その時敵なるサタンの答は地上を歩き巡つて來たとある。聖書には明記されあらざるも、サタンは傲慢の態度を以て神に向ひ、地上人間の何者も最早喜んで神エホバに奉仕せんとする者なく、又假令奉仕するにしてもそれは己が利慾を満たすの條件下に於てであると言つた事であらう。

然らば此の時の論争の主題は何なりしか。疑ひもなく之であつたであらう。即ち「人間は神の御前に貞潔を保ち得るであらうか。神は神に忠信な人間を地上に有する事が出来るか」。サタンは此の時に斯かる人間は絶無であると主張したに相違ない、そして全部の人間は或る種の状態下に於ては悉く神に敵するであらうと力説したと見るが至當である。神の聖旨は明かにその人が神の恩寵によりエホバの教示を受けて己が貞潔を保ち、神の示し給ふ諸條件に合致し、備へ給ふ道に服従して永久の生命を獲得するにあつた。

此の問題を解決する爲に先づサタンが全人類を神より離反せしむる爲に己が能ふ限りの能力を發揮するを許し置き、然る後に神の御豫定の時至るに及びて神は其の善しと見給ふ方法に従ひて御自身の最高至上の權威を顯示し給ふのである。之をもつて神は全被造物に教へて

エホバが唯一の眞の神に在して他には斯かる神の絶無なる事を示されるのである。此の論争によつてヨブは心の完全なる状態を保ち、エホバに對する信頼を固く持つる或る級の人々を代表してゐる。此の故にエホバは其の適當の時にサタンが其の最悪を行使するの機會を與へられた。「エホバ、サタンに言ひ給ひけるは、汝、心を用ひて我が僕ヨブを觀しや。彼の如く完全く、且つ正しくして神を畏れ、惡に遠ざかる人世にあらざるなり」(ヨブ記一章八節)。

サタンはヨブが心から神を愛してゐるのではないと主張した。サタンは神を非難して、神がヨブを庇護し給ふ故に彼を試むる事が出来ないと言つた。「サタン、エホバに應へて言ひけるはヨブ豈求むる事なくして神を畏れんや。汝彼とその家及びその一切の所有物の周圍に藩屏を設け給ふに非ずや、汝かれが手に爲す所を盡く成就せしむるが故にその所有物地に偏し。然れど汝の手を伸べて彼の一切の所有物を撃ち給へ。然らば必ず汝の面に向ひて汝を誑はん」(ヨブ記一章九—十一節)。

之は神に對する挑戦であつた。而して神は此の挑戦を不問に附し給はず、サタンに告げてヨブの所有物の全部をサタンの手に任された。サタンはエホバの御前より出で去りヨブの所有物と家族を滅ぼして己が悪しき目的を達成するに必要な方法を講じた。斯くしてヨブの一家の上に一大災害を下したサタンは美事に失敗した、何故なればヨブは猶ほ神を信頼し、

崇拜してゐたからである。

其の後神の子たちが神の御前に集合した時にサタンも其處にあり、神はサタンに向つてヨブの状態を示し、「汝われを勤めて故なきに彼を打ち惱まさしめしかど彼尙ほ己を完全うして自ら堅くす」と告げられた。倨傲と残忍なるあてこすりとを以てサタンはエホバに答へた、「皮を以て皮に換ふるなれば人は其の一切の所有物を以て己の生命に換ふべし。然ど今汝の手を伸べて彼の骨と肉とを撃ち給へ。然らば必ず汝の面に向ひて汝を誑はん」(ヨブ記二章四、五節)。斯くして試験はヨブの上に再び始まつた。「エホバ、サタンに言ひ給ひけるは彼を汝の手に任す。只彼の生命を害ふ勿れと。サタンやがてエホバの前より出で行き、ヨブを撃ちて其の足の跖より頂きまでに惡しき腫物を生ぜしむ」(ヨブ記二章六、七節)。

此の恐しき災禍に拘らずヨブは神の前に自らを謙りて灰の中に坐つた。サタンはヨブを神より離反する事に再び失敗したのである。此の再度の失敗はサタンをして少からず困却せしめた事であらう。其處で彼は如何にして妻のエバを通じてアダムを陥れたかを考へた。サタンは早速ヨブの妻の心を捉へ、彼女をしてヨブの心を動かして神を捨てしめんとした、そして彼女はサタンの道具たる役目をつとめてヨブを訪ひ、夫をして神を棄て、苦惱の結果を到來せしめんとした。然しヨブは彼の妻の惡しき勧告に従はなかつた。彼は妻の方を振り向ひ

て譴責して斯う云つた。「我等神より福祿を受くるなれば災禍をも亦受けざるを得んや」(ヨブ記二章十節)。サタンはヨブを神から離反する企てに三度失敗した。ヨブは此の經驗に於て過去の全時代を通じて總らゆる迫害に堪えつゝ猶ほ神に對する己が忠誠と獻身とを保つた少數者の模範となつてゐる。

三種の教訓

ヨブを神エホバから離反せしむる爲に試みたる數度の計畫に失敗したサタンは頗る無念に思つた。飽く迄惡しき道を押し進まんとするサタンは決して此の戦ひをやむる事なく、更に他の方法を以てヨブに當らんとした。サタンは完全に取崩す迄は決して其の戦をやめない。而してヨブの場合に於けるサタンの執拗は彼が滅亡するまで神エホバに反抗する事の模範となつてゐる。サタンは惡の權化である。

三人の人がヨブを訪問する爲に約束によつて各自の住む處からやつて來た、「時にヨブの三人の友この一切の災禍の彼に臨めるを聞き、各々おのれの處よりして來れり。即ちテマン人エリバズ、シユヒ人ビルダデ及びナアマ人ゾバル是なり。彼等ヨブをいたはり且つ慰めんとて互ひに約して來りしが……」(ヨブ記二章十一節)。

何故に之等三人は約束によつてヨブに到りしや。彼等は誰を代表するか。而して何故に彼

等は議論を戦はしたか。彼等はヨブを援け慰めんと、の正直なる願ひを以て到りしや。若し彼等が神より遣はされたとするならば、其れは全く理屈に合はない。此の場合の重大問題は、大試験に於てヨブは果して神に對する己が貞潔と忠誠とを保ち得べきやと云ふ點である。此の時迄はヨブはそれを保ち得た。そしてサタンは失敗したのである。勝利は神に歸した。此の故に若し神がヨブを慰むる爲に三人を遣はされるとするならば、其れは甚しき矛盾となる、何故なれば斯かる行爲はヨブの上に置かれたる徹底せる試験に對して妨害となるからである。此の聖句中に使用される「友」の字は反語的に用ひられてゐるのである。此の「友」の字はイエスが其の敵に對して語られた時に反語的に使用されてゐる、(マタイ傳廿三章十三節。廿二章十二節。廿六章五十節)。特にマタイ傳廿六章五十節の如きは、聖書が明かにサタンの道具なりと斷定するユダに向つて用ひられてゐるのである。ヨブ記二章十一節の「いたはり、且つ慰めんとて……」とあるは之亦反語的である。之等三人がヨブの前に述べた論議は明かにヨブをして屈服せしめ、神に對する貞節と廉潔の不足せるを承認せしめんとするにあつた。若し三人がヨブの友と稱して然も神の代理者として行つたのではなかつたとするならば、彼等は果して誰を代理したのか。全部の證據はヨブの所謂友と稱する此の三人はサタン即ち惡魔の代理者であつた事を明白

に立證してゐる。此の故に此の三人は惡魔の組織制度を表象してゐるのである。サタンの組織制度は三種の要素を以て成つてゐる。三人は神權によつて行動してゐると稱してゐるが之明かに僞善である。サタンの組織制度は人類の前に於て、自分等を以て地上に於ける神の代表者なりと自稱してゐるが、之明瞭に僞善である。ヨブを訪問した三人の男の名と其の由來とを調べて見る時本問題の解決に或る種の助けとなる。

エリバスとは「神の努力」と云ふを意味す、故に彼は神を代表せんと努力したのである。彼はテマン人であつて、エサウの子孫であつた、(創世記廿六章四、十、十一、十六節)。彼はエドム人に屬してゐた。此のエドム人は神より見捨てられたる人々である事が明示されてゐる。シュヒ人のビルダデはケトラによるアブラハムの子孫である事が明かである。シュワはケトラの生んだ子の一人であつた、(創世記廿五章一、二節)。ビルダデと云ふ名は「論争の子」を意味す。即ち惡魔が己の爲に用ふる處の道具である。

ゾバルはナアマの地に住んでゐたのでナアマ人と呼ばれてゐた。其の名は「毛深く、粗暴」或ひは山羊、或ひは前進」と云ふを意味す。之は彼が自分に關係なき事にまで飛び出す氣風の持ち主である事を示してゐる。

彼等は共に相當の年配であつた。彼等は何れも裕福で其の仲間の人々には可成知られてゐる

た。彼等は自分等が偉大なる人物であると自負してゐた。人々から阿諛讃仰されて喜び溺れてゐた。此の事實は聖書の記録によつて明かである。大なる人すべて智慧あるに非ず、老ひたる者すべて道理に明白なるに非ず（ヨブ記廿二章九節）。

サタンの組織制度は富裕で自らを義とし、社會の中樞人物で、肩書を有する學者、神學博士、哲學者其の他肩書を喜ぶ處の此の世の偉大なる人々を以て形成されてゐる。惡魔の組織制度の三要素は宗教と財力と政治である。宗教界の指導者は人々の前に於て大ひに謹嚴、壯重を裝ふ。亦その「群の長たち」は常に無慈悲なる資本家と無耻の政治家である。彼等は人々の前に己等が大人物である事を主張し彌が上にも其の人格を養成してゐると示す。彼等は己等を以て民衆を指導すべき模範であると押し附ける。彼等は人々の前に於ては重々しき威嚴を持ち、謹嚴壯重、神聖振つた口調で語り、「我は汝等よりも聖きぞ、オホン」たるの態度を示してゐる。

此の惡の組織制度の一要素たる政權者は神權によつて民衆を支配すと稱し、教職者等と連繫して彼等の「神權統治」を民衆に強制す。又資本家即ち財力は、彼等が神の恩恵より全富力を興へられある者であると主張し、更に教職者は彼等が地上に於ける神の代表者にして、聖書を解釋するの全權能を有すと自稱す。彼等は彼等以外の何人たりとも聖書を解き、教へ

又聖書の意味に就て考ふる事すらも能はざる事を主張す。サタンは斯かる教職者を用ひて正直なる人々をして神より離反せしむるのである。故に聖書と事實は最も明確にヨブの所謂友人三人は三種の欺瞞を表象してゐて、惡魔の組織制度の模圖となつてゐた事を示す。

聖書の記録は明かに、サタンはヨブをして神を拒絶せしむる爲に總らゆる手段を弄してゐた事を示し、三人の所謂友人はサタンの奸計を完成する爲にサタンが用ひた道具である事を明示してゐる。聖書の記録は三人が「謠言を造り設くる者」であるを示し、更に又彼等が眞理を語らざりし故を以て神の怒が彼等の上に止まつてゐる事を告げてゐる、（ヨブ記十三章四節、四十二章七節）。ヨブを「慰むる」爲にとて行きし之等三人の神聖振つた欺瞞者を視よ。長き髪、長き鬚髯、裳裾長き衣、嚴肅振つた長いその顔、重々しく嚴めしき其の歩み、自負尊大の状態で彼等はヨブの家に近づいた。彼等は兩手をキチンと前に組み合せて歩いた。纏纏を纏ふた多くの貧しき人々の群は遙かに退いて此の偉大にして神聖顔した三人の欺瞞者の一舉一動を見守つた。此の神聖なる三人の重要人物はヨブの悲惨なる状態を認め得る地點にまで達した時に彼等は「齊しく聲を擧げて泣き、各々おれの外衣を裂き、天に向ひて塵を撒きて己の頭の上に散らし、乃ち七日七夜かれと借に地に坐してゐて、一言も彼に言ひかゝる者なかりき。彼が苦惱の甚だ大なるを見ればなり」（ヨブ記二十一章十一、十三節）。

彼等はヨブに向つて慰問の言を語りに来たのではなくして、却てヨブを以て意識的の罪人である事を断罪する爲に来たのである。ヨブは彼等全部の仲間でも最も富める人であつた。而して今、サタンの代理者なる三人は己等の義を高調し、ヨブに告げてヨブが彼の全財産を失つたのは彼が意識的の罪人であつて、神の手に罰を受けてゐるのであると教へ示す。之ぞヨブをして神に對する貞節なる道より離れしめ、神を誑はしめんとするサタンの奸手段であつた。サタンは之までの手段方法で皆失敗した、而して彼は今度も失敗するであらうか。

此の世の神

過去數千年間に亘つてサタンは此の世の神即ち支配者であつた。彼の主なる目的は人々をして神の言の眞理に盲目ならしめんとするにあつた。然らざれば人々は神の御目的を學び知つて生命の道に行くからである、(ヘコリント後書四章三、四節)。彼は此の目的を達成する爲に其の組織制度の全部を使つた。而して其の中で特に重要な役目を勤めたのは教職者たちであつた。之等教職者は常に社會の中樞人物、富豪、職業的政治家を以て合成される「群の長たち」によつて擁護支持されてゐた。之等の人々は過去現在を通じて常に神の代表者を装ひ、欺瞞を行つて人々を詐るのである。教職者は自尊自大を装つてゐる。彼等は大地主や職業的政治家の多數を己が群の中に入れてゐる。又之等傲慢自尊の人々は教職者から特別の恩顧を

受けるのである。そして此の恩顧は神より受ける恩恵の典型であるかの如くに人々の前には示されてゐる。教職者は之等の「長たち」を以て一般民衆の指導者なりと紹介し、之によつて多數の貧しく、無知で迷信的な人々をして其の乏しき収入を偽善者の脚下に捧呈せしむるのである。資本家と我利的な政治家が他國に對して開戦の機會を掴むや教職者は忽ち聲を擧げて人々に告げ、彼等が身命と財産とを投げ棄て、此の我利的組織制度の爲に戦ひ、之を支持擁護するは彼等の責任であり義務であると強制す。

之等の宗教的欺瞞者は神の恵みに満ちたる救済の御目的と、如何にして復活と復興の祝福が服従者に永久の生命を齎らすかに就ては決して人々に語らなかつた。之に反して彼等は人間の道德を高調し、人格養成を奨励し、教會内の貧しき者に告げて彼等が人格を修養して偉人の如くなり、自らを助けて天界即ち靈界に於ける一の所を得よと偽り教へてゐる。

之等の偽指導者と所謂「慰むる者」は人々に勸めて、不正不義の主權者を愛國的に支持せよと教ふ。彼等は民衆に告げて愛國とは即ち民衆に對する眞の壓制者を無條件で支持擁護する事であると偽り教ふ。此の方法によつて彼等は惡魔の組織制度を擁護せんが爲に民衆をして血を流さしめんとす。更に彼等は一般の人々を脅迫して人々は教會制度に屬し熱心に彼等を支持せざれば、彼等の謂ふ所の「偉大なる神」は人々を陰府と地獄に投げ入れて永劫の苛

責苦惱に遭はすべしと偽り教ふ。

神はサタンが此の残忍兇惡なる組織制度を創設して、人々を欺き詐り、眞の神エホバから離反せしむる事を最初から知悉してゐられた。神は此のサタンの惡組織制度中に於て最も惡しき道具は神の名を偽り用ふる宗教的要素であるべきを豫知してゐられた。神は之等の者が偽善者であつて陰險狡猾なる偽善を行ふべきを豫め知悉してゐられた。神は之等偽善者が資本家と政權を握る職業的政治家に支持され、之に依て民衆を壓迫統治し、惡しき者なるサタンの統御下に置かるべきを豫知してゐられた。神はヨブの友と稱する三人がサタンの惡組織制度を豫影する爲に使用される事を許し置かれた。神は同時に此のサタンの組織制度の陰險狡猾なる感化力の働く眞つ只中であつて猶ほ神エホバに對する信頼を失はず、己が上に重なり積る迫害苦惱に屈せずして依然エホバに忠順なる少數者のあるべきを豫め知悉して居られた。ヨブは此の級の少數者を代表す。

神はアブラハムと其の子孫とを用ひて人類を贖ひ救ふの御目的を示し、特に約束の「裔」を通じて地上全人類の上に祝福の來る事を示す模圖を作成された。而して今、神はヨブを用ひてサタンの惡しき力と感化に對して戰ふ人類の戰ひを示す模圖を作成し、豫定の時至るに及びて神は惡を拒絶する處の或る級の人々の出で來るを示し、彼等が喜んで大贖ひ主と全能

者の與へ給ふ任務に參與して永久の生命を受けんとする模様を示されるのである。アブラハムと其の子孫を用ひて作られたる模圖はアブラハムの如き信仰を有する者の状態を特に示した。然しヨブを用ひて作成された此の模圖は更に大仕掛けなるものである。何故なれば此の模圖は全人類に關するものであつて、神がその偉大なる贖ひ主即ち復興の祝福に奉仕するメシヤを通じて苦惱する全人類に永久の生命と諸々の祝福を授與さるゝ事を明示してゐるからである。此の事を心に留めて置いて我等は今、神を代表すると稱しつゝ、實は敵なるサタンを代表する處の三人の欺瞞者とヨブとの間の議論に就て研究を進めんとす。

論

論

疑ひもなくサタンは之等神聖振つた三人の欺瞞者が無言で長くヨブを凝視する事はヨブに甚大な苦痛を増し加へるに相違ないと考へた事であらう。そしてヨブは其の苦痛に堪え切れずして遂に神を呪ふに至るであらうと考へた事であらう。自尊自大の偽善者から數日間互つて無言で凝視される事は苦み惱みつゝある者をして非常に氣を揉まし、焦々せしむ。サタンは此の狡猾な手段をヨブの上に用ひてヨブを征服しやうとした。然しサタンは又も敗れた。長時間の沈黙は破られた、それはヨブが己の生れ出でし日を詛ひ出したからであつた、然し神を誘ふ言は一言もヨブの口から出でなかつた。ヨブは己が損失に對して何等の不平を言は

す、唯己が生命の終結して苦惱より息まん事を切に願つた。『ヨブ即ち言詞を出して曰く、我が生れし日亡び失せよ。男子胎に宿れりと言ひし夜も亦然あれ。その日は暗くなれ。神上よりこれを顧み給はされ、光これを照らす勿れ。黑暗及び死の蔭これを取り戻せ。雲これが上を覆へ。日を暗くする者これを懼れしめよ。』(ヨブ記三章二―五節)。然る後にヨブは、自分が生れなかつたならこんな苦みは受けなかつた筈だと云つた。『否らずば今は我偃して安んじ、かつ眠らん。されば此の身やすらひ居り……』(ヨブ記三章十三節)。

ヨブは己が生命は神より賜はる事と、それを取り去る事はエホバの絶対権に屬する事を完全に理解して、彼は死によつて己が苦惱の終結せん事を只管に願つた。ヨブの之等の言は等しく此の世で苦惱した人々の心理状態を善く代表してゐる。彼等は良心を以て義しきを爲さんと努めた、然しその肉體の甚大なる痛みと、精神的苦みは彼等をして何故に此の世に生れ出で來たりしかを疑はしむると共に、寧ろ死の安息に入らん事を切望せしめた。全人類を救済祝福せんとする神の御目的を知らざりし彼等は、その苦惱が終つて、墓の中の休息に入らん事を願つた。

テマン人のエリバズはヨブに答へて語り出した。エリバズの先祖なるエサウ即ちエドム人は常に悪魔の組織制度を表象してゐる。エサウは神の眞の僕を迫害する種類の人々を圖示し



てゐる。エリバズは今それと同じ事を爲さんとす。彼の口より出づる偽善的な狡猾に注意せよ、「我等（人……は誤譯）もし汝に言詞を出さば汝これを厭ふや（ヨブ記四章二節）。此自稱友人はヨブを慰むる者であらうか。若し彼が眞の慰むる者ならばヨブに告げてその苦惱はアダムの罪を遺傳したる結果より來れる事を告げ知らすべきである（詩篇五十一篇五節。ロマ書五章十二節）。彼はヨブに告げて神の豫定の時至るに及びて、神はその備へ給ひし偉大なる贖ひ主キリスト・イエスの統治を通じて救済を與へらるゝを知らすべきであつて、此のキリスト・イエスの生命の血こそ人間の上から呪ひを除き去るために備へられし唯一の價である。エリバズは此の事に就ては何等ヨブに告げ知らさずして寧ろ己と他の二人の欺瞞者が如何に重要な人物であるかを高調した。之等三人の自稱友人たちによつて代表されし悪魔の組織制度に依りて教へ導かれ居たりし人類の長き過去の事實を考へ視よ。

サタンの組織制度に屬する指導者たちは神の名を以て自らを稱へつゝ、尙ほ少しも神の眞理を傳へず、苦み痛みつゝある人類に告げて、此の苦惱は悪魔によつて設けられし奸計に自ら陥つたアダムの罪の遺傳である事を告げ示さないものである。彼等はエホバが唯一の眞の全能者に在す事と、エホバが一の道を備へて其の愛子イエスの死と復活とによつて人類を死と墓より贖ひ出し給ふ事を告げないのである。彼等は神の豫定の時至るに及びて神はキリスト



バビロンの囚はれ

を通じて全人類に對し、永久の生命を得るに必要なる公平は一の機會を與へ服従者は地上に於ける健康と幸福、永久の生命に復興されるの事實を少しも示さないものである。然のみならず、却つて彼等教職者は罪の遺傳の事實を否認し、イエスの血が人間に對する偉大なる贖價である事をも否定す。彼等は復活と復興によりて人類に地上的永久の生命が與へられる眞理を極力否定す。彼等は神の眞理に絶對逆行して歩む。彼等は彼等自身の「聖人振り」を擴大して廣告し、彼等の先輩なる「聖人的」牧師たちを大ひに推稱して、苦惱する人類は皆之等の「聖人」を模範として歩まなければならぬと教ふ。惡魔は正直なる人間が之等の神聖振つた偽善者を排斥する事を知悉す。彼は又正直なる人間は、斯くの如き方法で教會制度の指導者たちから教へられる時に、教會制度に愛憎を盡かすと共に又神より離反し去る事を知悉す。而してサタンの望は人々を神より離反するにあつたのである。

エリバズはヨブに示して、ヨブが曾ては多くの人々を教へ、多數の弱れる膝を強くなした事を告げて後、今その同じヨブが己の上に来た災禍の故によつて戦き、痛み叫んでゐると云ふ事を指摘した。然る後にヨブの今の苦惱は彼自身の惡に對して神が今、直接の審判を加へられてゐるのであると主張して曰く、「請ふ、想ひ見よ、誰か罪なくして亡びし者あらん。義しき者の絶たれし事いづくに在りや。我の觀る所によれば不義を耕へし、惡を播く者はその

穰る所も亦かくの如し、皆神の氣吹によりて滅び、その鼻の息によりて消え失す」(ヨブ記四章七―九節)。

エリバズの此の言は嘘偽である。多數の教職者は此のエリバズと同じく人々に告げて、彼等の苦みは彼等が教會制度を通じて神に誓願を爲さざるの故を以て神が彼等の上に直接加へられたる處の審判であると教示す。多數の教職者は死者と其の家族が教會と呼ぶ不義の制度を支持せざりしとの理由を以て其の葬儀を司るを拒絶す。嘘偽の父なるサタンは其の代理者を通じて斯かる嘘言を教へ、人々をして神を誣はしめんとす。多くの人々は斯かる嘘言に禍ひされて「そんな神なら信じなくともよい」と云ふ。唯少數者のみが之等教職者の嘘言を拒棄して神エホバと其の憐憫と慈愛に信頼するのである。

然る後にエリバズはヨブの前に己が偉大なると賢明なるとを誇り示して、彼は屢々神より異象を示され、種々の知識を秘密に與へられると告ぐ。彼は或る時に受けし異象の一なりとして斯く語つた、「人いかで神より正義しからんや。人いかでその造り主より潔からんや。彼はその僕をさへ恃み給はず、其の使者をも足らぬ者と見做し給ふ。況んや土の家に住み居りて塵を基とし、蟬蛸の如くに亡ぶる者をや」(ヨブ記四章十七―十九節)。

エリバズの言によると人間は決して義とされない、そして神は人間を苦しめ惱ますのであ

つて、人間の哀願は決して聞き容れられないと云ふに在る。サタンによつて案出されたるエリバズの此の言は嘘偽であつて、即ちヨブをして神より離反せしむるの目的を以て發せられたのである。續いて彼は、エホバは其の使者を無益に使ひ用ひ給ふと云つたが、之ぞエリバズの目的はヨブの心よりエホバに對する信頼を失はしめんとするにあつたのである。所謂キリスト教會制度の指導者たちは苦み惱める人々に向つて神を偽り教へ、神は残忍暴戾であつて、教會制度に屬せずして死せる者には何等憐れみを加へられる事無くして永劫の苛責苦惱を與へ、又教會制度に屬せざる者の願ひは決して聞き容れられないと稱してゐる。

然る後にエリバズは嘲笑的に斯く語り續く、「請ふ、汝呼びて見よ、誰か汝に應ふる者ありや、聖き者の中にて誰に汝むかはんとするや。それ愚なる者は憤恨の爲に身を殺し、拙なき者は嫉妬のために己を死なしむ。我自ら愚なる者の其の根を張るを見たりしが速かに其の家を誼へり。その子等は助援を得ること無く、門にて惱まざる。之を救ふ者なし」(ヨブ記五章一―四節)。之では少しもヨブに對する慰めとはならない。

然る後に此の偽善的の「慰むる者」は己自身の偉大なる事と、神より重用されてゐる事を誇稱し、ヨブを嘲笑して云ふ、「人の生れて艱難を受くるは、火の子の上に飛ぶが如し。若し我ならんには我は必ず神に告げ求め、我が事を神に任せん。神は大にして測り難き事を行ひ

給ふ。其の不思議なる事を爲し給ふ事數知れず」(ヨブ記五章七―九節)。

ヨブは神エホバの偉大なる事は元より承認してゐた。然しエリバズの言からは慰めの替りに却つて苦痛を受くるのみであつた。ヨブは苦しさの餘りに叫び出した。「願はくは我が求むる所を得んことを。願はくは神わが希ふ所の物を我に賜はらん事を。願はくは神われを滅ぼすを善しとし、御手を伸べて我を絶ち給はん事を。然るとも我は尙みづから慰むる所あり。烈しき苦痛の中にありて喜ばん。こはわれ聖者の言に悖りし事なければなり」(ヨブ記六章八一―十節)。

ヨブは神に對する信仰を堅く持すると共に、之等三人の所謂「友」は眞の友に非ざるを悟り知つた。而して彼はエリバズに向つて云つた「憂患に沈む者は其の友これを憐れむべし、然らずば全能者を畏るゝ事を廢めん。我が兄弟はわが望を滿たさざる事溪川の如く溪川の流れの如くに過ぎ去る」(ヨブ記六章十四、十五節)。然る後にヨブは義しき道を歩まんが爲に更に多くの知識を得ん事を望んだ。「我を教へよ、然らば我黙せん。請ふ、私の過てる所を知らせよ」(ヨブ記六章廿四節)。而して後エリバズを叱責して斯う云つた。「正しき言は如何に力あるものぞ、然り乍ら汝らの規諫る所は何の規諫とならんや。汝等は言を規正めんと想ふや。望の絶えたる者の語る所は風の如きなり。汝らは孤子の爲に鏡を撃き、汝等の友をも商貨に

するならん。今願はくは我に向へ。我は汝らの面の前に偽らず。請ふ、再びせよ。不義あらしむる勿れ。請ふ、再びせよ。此の事に於て我は正義し。我が舌に不義あらんや。我が口は悪しき物を辨へざらんや。我が牀を慰め、我が寝床わが愁を解かんと思ひ居る時に、汝夢を以て我を驚かし、異象をもて我を懼れしめ給ふ。是をもて我が心は氣息の閉ぢん事を願ひ、我れこの骨よりも死を冀ふ。われ生命を厭ふ。我は永く生くる事を願はず。我を捨て置き給へ。我が日は氣の如きなり(ヨブ記六章廿五―卅節。七章十三―十六節)。

エリバズの偽善的言辭に對するヨブの答は議論好きのビルダデをして忿怒せしめ、彼はエリバズよりも更に強い譴責の言を以てヨブに語り出した。彼も亦「慰むる者」を裝ふて訪ねて來たのであるが、其の實は敵なるサタンの代理としてヨブをして神を誑はしめんが爲であつた。而して今彼の父なるサタンの悪しき目的を遂行せんとす「時にシユヒ人ビルダデ答へて曰く、何時まで汝かゝる事を云ふや。何時まで汝の口の言語を大風の如くするや。神豈審判を曲げ給はんや、全能者豈公義を曲げ給はんや、汝の子等かれに罪を得たるにや、之をその愆の手に付し給へり。汝若し神に求め、全能者に祈り、清く且つ正しくしてあらば必ず今汝を顧み、汝の義しき家を榮光しめ給はん(ヨブ記八章一―六節)。

然る後、ビルダデはヨブを以て偽善者なり、悪人なりと非難した。彼はヨブに向ひ神の御

手の中に智慧を探し求めよと勸告せずして、彼ビルダデの如き人間即ち「父祖」と呼ばれる人々より智慧を探し求めよと勸告した。請ふ、汝過ぎにし代の人に問へ。彼等の父祖の尋ね究めし所の事を學べ。彼等汝を教へ、汝を諭し、言を其の心より出さざらんや。それ神は完全き人を棄て給はず、また悪しき者の手を執り給はず(ヨブ記八章八、十、廿節)。

ビルダデの此の言は今日の所謂キリスト教會制度の教職者即ち牧師や神學者が苦惱しつゝある人類に向つて告げてゐる所の言と全く一致してゐるから面白い。彼等が意識して言ふと否とに拘らず、彼等の父なる悪魔の目的は常に正直なる人々を欺いて神エホバを嫉忌非難せしむるにあるのであつた。教職者は人々に教ふるに決して神の言なる聖書を以てせず、丁度ビルダデがヨブに告げたる如き言辭のそのまゝを人々に語り告げるのである。「此の教會の父祖等の言ひし所に汝の心をお留めなさい。ウエスレーは、カルピンは、オーガスチンは、何々、何々は斯う教へてゐるではありませんか」と。彼等教職者は之等教會制度の「父祖」等が虚偽の教理を教へて眞の神エホバを誤り傳へてゐた事をよく知つてゐる。悪魔は之をよく知つてゐる。此の故に彼は引き續いて此の欺瞞行爲を人々の前に行つてゐるのである。

ヨブはサタンの代理者なるビルダデに答へて神エホバの偉大なるを告げ、人間は神エホバの御前に絶對無力なるを語り示した。「彼奪ひ去り給ふ、誰かよく之を阻まん。誰か之に汝何

をなすやと言ふことを得せん。神その震怒を息め給はず、ラハブを助くる者ども之が下に屈む。然れば我いかでか彼に回答を爲す事を得ん。争でわれ言を選びて彼と論らふ事を得んや。假令われ義しかるとも彼に回答をせじ。彼は我を審判く者なれば我は彼に哀き求めん」(ヨブ記九章十二—十五節)。

然るにヨブは己が道をエホバの御前に示して神との和解を得る事の出来ない事と、人間を神に和解せしむるには一個の仲保即ち仲介者の必要なる事を語り告げた「神は我の如く人にあらざれば我かれに答ふべからず。我等二個(神と自分)して共に審判に臨むべからず。また我等の間には我等二個の上に手を置く(仕事を爲す)べき仲保あらず」(ヨブ記九章卅二、卅三節)。注意すべきはヨブの三人の「友」の中、一人として仲保の必要なる事を示した者のない事である。ヨブは即ち「神と人との間の仲保」(テモテ前書二章五節)に關して預言したのである。之等三人の自稱「友人」の如く今日の教職者等も斯くの如き仲保の必要なる事を少しも説いてゐないから誠に面白い。

而して後、ヨブは神に向つて叫んだ。彼は己が悪人でない事を再び主張した。「悪人」とは一度神の眞理の光に照らされて後に神より離反し去る者を云ふ。ヨブは自身が斯の如き悪人でない事を知つてゐた。「我は神に申さん。我に罪ありとし給ふ勿れ。何故に我と争ふかを我に示し給へ。何とて汝わが愆を尋ね、我が罪を調べ給ふや。されども汝は既に我の罪なきを知り給ふ。また汝の手より救ひ出し得る者なし。請ふ、記念え給へ。汝は土塊をもてするが如くに我を作り給へり。然るに復われを塵に歸さんとし給ふや。我若し罪を犯さば汝われを認めて我が罪を赦し給はじ、我もし行状悪しからは禍あらん。假令われ義しかるとも我が頭を擧げじ、そは我が裏に羞耻充ち、眼に我が患難を見ればなり」(ヨブ記十章二、六、七、九、十四、十五節)。

ヨブは多くの苦惱する人々と同じく救ひの道を探し求めてゐた。彼の三人の友は今日一般の教職者と同じく此の救ひの道をヨブに提示しなかつた、何故なれば此の三人にしても、亦教職者等にしても共に神を代表してゐないからである。

三人の自稱友人の一人なるソバルはヨブとの議論に他の二人を援助すべく其の害心を燃やした。ヨブは之等サタンの代理者の提示する智慧に挑戦した。ヨブは之等三人が眞理を語つて居ないと云ふ事を既に看破してゐた。ヨブの答はサタンの代理者等をして激怒せしめた。之に就ても我等は多くの正直なる人々が教職者即ち宗教的指導者の傲慢なる言を受くるを拒絶する爲に教職者等から悪辣なる迫害を受けつゝある數多の事實に想到するのである。「是に於てナアマ人ソバル答へて言ひけるは、言語多からば豈答へざるを得んや。口多き人豈義

しとせられんや。汝の空しき言あに人をして口を閉ぢしめんや。汝嘲らば人汝をして羞しめざらんや。汝は言ふ、我が教は正し、我は汝の目の前に潔しと。願はくは神言を出し、汝に向ひて口を開き、智慧の秘密を汝に示してその知識の相倍するを願はし給はん事を。汝知れ、神は汝の罪よりも軽く汝を處置し給ふなり(ヨブ記十一章一―六節)。

然る後にゾバルはヨブに告げて彼は神に就て何事をも知る事能はざるを語る。又二人の相棒の欺瞞者の言ふ所は眞の智慧であつて、信賴すべきものであり、又人々は皆彼等の指導に服従しなければならぬと語る。而して彼等の言ふ所の結論は即ち、若しヨブが自分を己の罪より洗ひ潔めたならば、其の時に始めて神の祝福を受けると云ふにある。過去の全期間に亘つて全部の自稱教職者即ち牧師、神學者が執つた態度は此のヨブの「友人」三人の示した態度と同一であつて、彼等は人々に告げて若し人々が彼等教職者の謂ふ處の「清い生活」を送らうとするならば教會制度と、政權保持者を支持援助する時に於てのみ人々は始めて救はれるのであると教へて來たのである。言を換へて云ふと、即ち教職者等は人々に向ひて救ひとは教會制度の規則に絶対服従するにあると告げたのである。彼等教職者は救ひはキリストの血によつてのみ與へられ、服従者には地上に於ける永久の生命が備へられてあると云ふ眞理を全然無視しつゝあるのである。彼等教職者は人々に勸めて彼等と其の相棒の如き善良に

して圓滿なる人格を修養すればそれで足ると偽り教ふ。彼等教職者は人々が神の前に清き生涯を送るの必要を認めないのである。

人々が正直と貞潔、道徳、貞節を重んずべきは事實であるにしても之自身のみでは何人も救はれないのである。斯様にして教職者は人々を邪導した。人間は己が最善を盡しても其によつて救はれる事は絶対にない。人間が救はれる道は偉大なる贖價を信じて神の言に服従する以外には天にも地にも絶無であると云ふ事に就て教職者は少しも人々に語り告げないのである。之と反對に彼等教職者は人々に告げて、人々は教會に來りて其の制度を維持援助し、盗みをなさざる事や、日曜規則を嚴守する事や、其他之に類する律法を守りさへすれば充分であつて、彼等は永遠の祝福を受くる者とされると偽り教ふ。嘗に之のみならず彼等教職者は己等のみが正當なる道を知り、又己等のみが聖書を解釋し得るのであると偽り主張す。今、ゾバルの言に見よ。

「汝神の深き事を窮むるを得んや。全能者を全く窮むるを得んや。彼は偽る人を善く知り給ふ。又悪事を願ふ事なくして見知り給ふなり。虚しき人に悟性なし、その生るゝよりして野驢馬の如し。汝若し彼に向ひて汝の心を定め、汝の手を伸べ、手に罪のあらんには之を遠く去れ。惡を汝の幕屋に留むる勿れ。さすれば汝面を擧げて玷なかるべく、堅く立ちて懼るゝ

事なかるべし」(ヨブ記十一章七、十一—十五節)。
 之に對するヨブの答には嫌忌と諷刺とが含まれてゐた。之は即ち心の直き人々が教職者たちの傲慢なる言辭を嫌忌すると同じである。「ヨブ答へて言ふ、汝らのみまことに人なり。智慧は汝らと共に死なん。我も汝らと同じく心あり。我は汝らの下に立たず。誰か汝らの言ひし如き事を知らざらんや。我は神によばはりて聽かるゝ者なるに今その友に嘲けらるゝ者となれり。嗚呼正しく且つ完全き人嘲らる」(ヨブ記十二章一—四節)。然る後にヨブは「慰むる」爲に來れりと僞稱する三人の欺瞞者に言を示して云ふ。「汝らが知る所は我も知る。我は汝らに劣らず。然りと雖も我は全能者にも言はん。我は神と論ぜん事を望む。汝等は只謊言を造り設くる者、汝等は皆無用の醫師(精神的醫師—牧師—神學博士)なり。願はくは汝ら全く黙せよ。然するは汝らの智慧なるべし。請ふ、我が論ずる所を聽き、我が口唇にて辯争ふ所を善く聽け、神の爲に汝ら惡しき事を言ふや。また彼の爲に嘘偽を述ぶるや。汝ら神の爲に偏るや。また彼の爲に争はんとするや。神若し汝らを鑒察へ給はゞ豈善からんや。汝等人を欺く如くに彼を欺き得んや」(ヨブ記十三章二—九節)。
 此處に此の三人が神を代表してゐなかつた事を立證する確實なる證言がある。彼等は惡魔を代表し、ヨブをして神を否認せしめんとて努めたのである。神は二回に亘つてヨブは「完

全く且つ正しくして神を畏れ、惡に遠ざかる人」(ヨブ記一章八節。二章三節)と宣言された。此の完全なる状態にありし間に患難が彼の上に臨んだのである。神の此の明白なる御言によるもヨブは明かに義しき人であつた。然るに三人は幾度となく口を揃へてヨブが意識的罪人であると言張す。然し今、ヨブは三人に向つて彼等は醫し慰むる爲に來れる醫師なりと自稱するも實は嘘偽の言を述ぶる無用の醫師(ロロ)であると喝破したのである。
 サタンの目的は之等三人をして其の言を以て引き續きヨブを苦しめ、ヨブをして遂に神を誣はしめんとにあつた。ヨブを撃たんとて三人の口から發する毒舌の眞つ只中でヨブは己が貞潔を主張して言ふ、「我なんぞ我が肉を我が齒の間に置き、我が生命を我が手に置かんや。彼われを殺すとも我は彼に依り頼まん、唯われは我が道を彼の前に明かにせんとす」(ヨブ記十三章十四、十五節)。ヨブは更に又神に對する己が信仰を示して、神は必ずヨブの爲に救ひと復興を備へて下さる事を信する旨を告げて云ふ、「かれ又遂に我が拯救とならん。邪曲なる者は彼の前に至る事能はざればなり。汝ら聽けよ、我が言を聽け、我が述ぶる所を汝らの耳に入らしめよ。視よ、我既に我が事を言ひ並べたり。必ず義しとせられんと自ら知る。誰かよく我と辯論そふ者あらん。若しあらば我は口を緘ちて死なん」(ヨブ記十三章十六—十九節)。
 惡魔の組織制度中に於ても特に其の光輝の部分となつてゐる宗教制度に屬する者は、常に

己等を以て他の人々より聖しとなし、人々は彼等の如くに聖くなる時に始めて救はれると云ふ偽教理を固く持す。之と同一の事がヨブと其の三人の「友」との間の論争中に現はれてゐる。ヨブは彼等を示して、全人類は一樣に罪人として生れ、一人として潔き者なく、彼等自身の有する能力の全部を盡すも決して潔くする事は出来ぬと告げた。此の故に此の三人はヨブを審判する事が出来ないのである。之と同一理由に基いて教職者即ち牧師や神學博士にも人々を審判する資格が絶無である。「婦の産む人は其の日少なくて艱難多し。其の來る事は花の如くにして散り、其の馳すること影の如くにして止まらず。汝かくの如き者に汝の目を啓き給ふや。汝われを汝の前にひきて審判し給ふや。誰か清きものを汚れたるものの中より出だし得る者あらん、一人もなし」(ヨブ記十四章一―四節)。

地上にある悪魔の組織制度は過去の長きに亘つて永劫苛責の如き神を汚漬する偽教理を人々に教へて來た。彼等は人々に告げて、人間は絶對不可死の靈魂を有し、又神は一方彼等が地獄若くは陰府と呼んでゐる所の火と硫黄の燃ゆる大きな池を準備して置かれ、總ての悪人は皆其處に送られ、絶對に救はるゝ望なくして永劫に其處で苦むのであると教へてゐた。然るに神はヨブをして教職者の教ふる此の邪教理とは絶對に相反する預言を明示せしめ置き給ふて、地獄若くは陰府と呼ばれてゐる處の Suffering は墓即ち死の状態を意味してゐて、苦

惱の場所に非ざるを告げ、更に進んで人間の復活と復興に關して斯く語らしめられた。「願はくは汝われを陰府にかくし、汝の震怒の息むまで我を掩ひ、我が爲に期を定め、而して我を念ひ給へ。人若し死なばまた生きんや。我は我が征戰の諸日の間望み居りて我が變更の來るを待たん。汝我を呼び給はん、而して我答へん。汝必ず汝の手の作を願ひ給はん」(ヨブ記十四章十三―十五節)。

ヨブの此の聲明はサタンの最初の嘘言と絶對に相反す、(創世記三章四、五節)。若し人間が絶對不滅の靈魂を有してゐるならば何人も死ぬ事は絶對不可能であると共に、死より目覺めて再び活きると云ふ事も出来ない。サタンはヨブが此の死者復活の預言をした事を激怒し、彼は早速その代理者エリバズをしてヨブの告げた眞理に應答せしめた。

「テマン人エリバズ答へて曰く、智者前に虚しき智識をもて答へんや。豈東風をその腹に充たさんや。あに裨なき談、益なき詞をもて辯論はんや。誠に汝は神を畏るゝ事を捨て、其前に祈る事を止む。汝の罪汝の口を教ふ。汝は自ら擇びて狡獪人の舌を用ふ。汝の口自ら汝の罪を定む。我には非ず、汝の唇汝の悪しきを證す。汝豈最初に世に生れたる人ならんや。山よりも前に出て來りしならんや。神の御謀議を聞きしならんや。智慧を獨りにて藏め居らんや。汝が知る所は我等も知らざらんや。汝が曉る所は我等の心にもあらざらんや。我らの

中には白髪の人及び老ひたる人ありて汝の父よりも年高し」(ヨブ記十五章一―十節)。
 此のエリバズの言こそ牧師や神學者が永らくの間その論争に用ひて來た口調と全く同一であつて、彼等は此の口調を以て謙遜に神を求めて神の言の示す眞理を學ばんとする人々に打ち勝たんとしてゐるのである。彼等は牧師や神學者の教職階級のみが全部の智識を所有すると誇稱し、その教會制度の白髪者即ち彼等が「父たち」と呼び「先輩」と呼ぶ連中のみが未來の生命を示す事が出来るのであると主張してゐる。而して彼等は神の言の教ふる眞理を學ばんとする謙遜なる男女に向つて迫害すら加へんとしてゐる。彼等は其の教會の會員全部に嚴命す、「自分等勝手に本を讀んではいけない。全部を我々教職者に一任し置け。我々教職者は汝等の靈魂の保護者であつて汝等を教ふる所の唯一者である」と。
 然る後に、サタンの代理者なるエリバズは更に他の一の方法を以てヨブを神より離反せしめんと試みたが、それは、神がヨブを少しも信用してゐられないと云ふ風に彼をして誤信せしむる方法であつた。即ち神は天界の聖き天使すらも信任し給はず、故に人間は假令神の示し給ふ道に従ふとも神の信任を得る事は絶對不可能であると云ふのである。同時にエリバズは今日の教職者の言ふ如く神より全部の智慧を與へられてゐると誇つた、「それ神はその聖き者にすら信を置き給はず。諸々の天もその目の前には潔からざるなり。況んや罪をとる事水

を飲むが如くする憎むべき穢れたる人をや。我汝に語る所あらん、聽けよ、我見たる所を述べん。是即ち智者たちが父祖より受けて隠す所なく傳へ來りしものなり。彼等にのみ此地は授けられて外國人は彼等の中に往來せし事なかりき」(ヨブ記十五章十五―十九節)。
 然る後にエリバズは又ヨブに告げて、ヨブは悪人であつて彼は悪人としての運命を苦しまなければならぬと主張した。然しヨブは己が非難者の毒舌に少しも動かされず、依然己が廉潔を確信してゐた。「ヨブ答へて曰く、斯かる事は我多く聞けり。汝らは皆人を慰めんとして却て人を煩はす者なり。虚しき言語めに終極あらんや。汝何に勵まされて答をなすや。我もまた汝らの如くに言ふ事を得、若し汝らの身わが身と處を換へなば我は言語を練りて汝らを攻め汝らに向ひて首を揺る事を得、また口をもて汝らを強くし、唇の慰藉をもて汝らの憂愁を解く事を得るなり。たとひ我言を出すとも我が憂愁は解けず、黙するとも何ぞ我が身の安くなることあらんや。彼今既に我を疲らしむ。汝わが宗族を悉く荒せり」(ヨブ記十六章一―七節)。

エリバズ、ビルダデ及びゾバルの三人は交々語つてヨブを誘り、彼が意識的悪人なるの故を以て神は此の大患難を彼の上に與へられたのであると引き續いて主張した。此の全論争を通じて自稱三人の友は幾回となくヨブに示して彼は決して神の前に義とされないと云ふ事を

極力主張した。此の論争中にヨブは此の苦惱が彼自身の罪惡によるものではないと強く主張した。彼は自身が神を愛し、其の成し能ふ限りに於て最善を盡した事を知つてゐた。彼は神に信頼する事によつて己が貞潔を堅く保つた。

此の預言的模圖中に於て注意すべき點が二つある。即ち(一)はヨブの「友」と稱する三人は敵なるサタンの組織制度を代表してゐるのであつて、彼等が神を代表してゐると稱してゐる處は、丁度神を代表してゐると偽稱する惡魔の組織制度の成員が總らゆる誹謗を神の聖名の上に加へつゝあると同一なる事、(二)は神に對する誤信の全期間を通じて神は或る者を召し、逆境裡に彼等をして神に對する信頼の念を固く保持せしめられし事。

直き心の所有者は心を止めて此の模圖が現在の事實に如何に一致符合してゐるかと言ふ事とキリスト教會制度の強制する偽教理の爲に苦惱する人類に對して如何なる好機會が今與へられてあるかの事實を考へ見るべきである。全人類はヨブの如くに腐れに満つ、如何なる人も此の事實を言ひ消す事は出来ぬ。然らば教會制度の教師たちが人類を慰める爲に提供する教理の中には抑々如何なるものが示されありや。

カトリック教會は云ふ「汝が若し我々の教會に屬して神父たちの勸告に服従するならば死ぬと共に直ちに天に行く、然らざれば汝は煉獄に行くのであつて、若し誰かの助けを得る事

なくば汝は遂に地獄に落ちて火と硫黄の燃ゆる中に永劫無限の苛責苦惱を受けなければならぬ」と。

一方新教各派の教師たちは云ふ「我々は神を代表す。若し汝が救はれん事を願ふならば我等の教會に屬し、教師や先輩の勸告に服従しなければならぬ。然らざれば汝は永劫無限の苛責苦惱を受けなければならぬ」と。

惡魔の組織制度に屬する他の部門もまた皆人々を神より離反せしむる爲に働き、人間は信仰と服従とによつて救はれると云ふが如き事なく、人間は進化の動物なるが故に己自身の努力によつて進化向上し、其の義を増し加へて遂に己が偉大なる希望に到達する事が出来るのであると教ふ。

之等教會制度の指導者たちは己等のみが聖書を解釋し得る者なりと主張し、其の偽教理を人々に強制するに際して此の世の金權者や政權者の援助支持を借りるのである。サタンは此等全部の者の上に神である。彼サタンの組織制度に屬する教會制度の何れの部分も、神の御目的を告げてキリストの血によりて死者が復活し、地上の服従者に對して生命への復興が與へられると云ふ眞理を人々に告ぐる者が絶無である。之等教會制度と其の相棒たちの教ふる偽教理は苦惱する人々に何等の慰安を與ふる事の無きのみならず、却て多くの人々を眞の神

より離反せしめて居るに過ぎないのである。

教會制度はイエスを呼んで贖ひ主と云ふ。然し彼等の斯くイエスを呼ぶは寧ろ嘲弄に類するのであつて、恰もヨブの三人の友が吐いた言のそれと同じである。教會制度の指導者たちの大多數の教ふる處は人々が、イエスの生涯を一つの模範として研究し、人々がそれに倣つて己が人格を養成する時に始めて其の人は救ひを得るのであると云ふに在る。之等教職者の大部分はイエスが單なる一個の罪人に過ぎなかつたと主張す。彼等は公然と犠牲の價値を否定し、その血に何等の救ひなしと言明す。今日世界の全教會制度中に、イエスの血が人間を死より贖ふ爲に流されし事、全人類は罪人にしてキリストの血を通じてのみ救ひが來る事、神は豫定の時至るに及びて地上の全人類に對して復活と復興とを以て生命を與へられると云ふ事を教へてゐるものは絶無である。

之等の全教會制度は表面に於て神の代表者たるを装ふと雖も事實はサタンの組織制度に屬する者であつて、嘘偽と欺瞞とを逞くし、其の「醫師」即ち神學博士たちも全く無用無能の者である。所謂「キリスト教國」に屬する全部は結合して、地上に平和と繁榮と生命を齎らすべき神の國を拒絶し、其の替りに惡魔の提供せる質物なる國際聯盟を擁護して、聯盟こそ人類の救ひ主であると讃頌す。此の眞つ只中に在りて極めて少數者のみが教會制度の外部に

起ち、神に對する彼等の貞節を固く護るのである。

此の故に幾多の實證はヨブを慰め醫すと稱して來た所の三人の自稱「友人」はサタンの組織制度の見ゆる方の部分即ち「キリスト教會」を豫影してゐる事を明示してゐるのであつてサタンは其の代理者を通じて人々をして神エホバより離反せしめんとするのである。ヨブの友なりと稱する三人は其の言の中に於て少しも神を崇めず、却て神の聖名の上に謗りを加へたのである。

エリフ

此の模圖にはモ一人の人物が現はれてゐるが其の名をエリフと呼ぶ。彼はアブラハムに關係がある、(創世記廿二章廿、廿一節)。彼は先祖アブラハムの如き信仰を有してゐた。彼はバラケルの子であつた。此の「バラケル」の名は「神の前に膝を屈むる者」と云ふを意味す。又「エリフ」の名は「彼の神、神は我が神」と言ふを意味す。エリフは青年であつた。エリフは三人の「友」とヨブの言を黙つて聽いてゐた。三人の自稱賢人がわめきを止める迄彼は一言も出さなかつた、「ヨブ自ら見て己を正義とするに因りて此三人の者之に答ふる事を止む」

(ヨブ記卅二章一節)。

エリフはヨブと三人との間の論争を聽いてゐる間に彼はヨブに對して怒りを起した、何故

なればヨブはエホバを讃むる事よりも寧ろ自身を義とするからであつた。エリフの怒りは三人の自稱友人に對して沸騰した、何故なれば彼等はヨブを斷罪し、然かもその論争に答ふる事が出来なかつたからである。彼等三人は自重自大して己自身の義を顯はし示さんとした。エリフは三人の如くにヨブを責めて斷罪しなかつた。然し一方ヨブが自分の義を高調するの態度を承認しなかつた。然し乍らエリフはヨブが眞の状態に無智である事を指摘した。彼は云ふ、「ヨブの言ふ所は辨知なし、その言語は明哲からず」(ヨブ記卅四章卅五節)。

此の場合の模圖に於てヨブは、自己の視る正義を行はんとして故意に誤れる道を押して歩む結果苦惱しつゝあるを自ら了解する事能はざる多數の正直なる人々の状態を圖示してゐる其の如く彼等は所謂「キリスト教國」の主張する所を神の義と愛に一致せしむる事が不可能である。此の故に彼等は神に進んで全部を一任し、エホバが彼等の爲に最善を爲して下さる事を堅く信頼す。此の故に彼等は教會制度の教ふる教理を捨て去る、何故なれば彼等は正直なる人として斯かる教理は全智、全義、全愛の創造者なる神エホバとは絶対に一致しない事を悟つたからである。

エリフはエホバを高く崇めた。彼は一個の青年として彼の前に語りし白髮の學者たちに向つて一應の敬意を拂つた、然し彼は別に彼等の有する地位に對して阿諛の言を示さなかつた

彼は以下の如くに語り出した、「我は年少く、汝等は年老ひなり。是をもて我憚りて我が意見を汝らに陳ぶる事を敢てせざりき。我意へらく、日を重ねたる者宜しく言を出だすべし。年を積みたる者宜しく智慧を教ふべしと。但し人の衷には靈あり、全能者の氣息人に聰明を與ふ。大なる人すべて智慧あるに非ず、老ひたる者すべて道理に明白なるに非ず。然れば我言ふ我に聴け、我も我が意見を陳べん。視よ、我は汝等の言語を俟ち、汝等の辯論を聴き、汝等が言ふべき言語を尋ね盡すを待てり。われ細かに汝等に聴きしが汝等の中にヨブを駁折する者一人も無く、また彼の言語に答ふる者もなし。恐らくは汝等言はん、我等智慧を見得たり彼に勝つ者は唯神のみ。人は能はずと。我説き出して胸を安んぜんとす。我口を啓きて答へん。必ず我は人に偏らず。人に諂はじ、我は諂ふ事を知らず。若し諂はば我の造化主たどちに我を絶ち給ふべし」(ヨブ記卅二章六一三、廿二節)。

人間を讃頌する事は決して神に喜ばれない。之に關聯して讀者は、惡魔の組織制度の見ゆる部分に屬する著名の人物は常に己等自身を自重自大、自尊してゐるの事實に想到さるゝ筈である。「キリスト教國」の全期間を通じて英雄崇拜が行はれてゐた。歐米諸國の如何なる美術館を訪ふても此れが確かである事を明示してゐる。歐米諸國の如何なる美術館にも偉大なる武人の肖像が飾られ、其の傍には必ず大政治家の肖像あり、又此の二者に加ふるに自

尊長顔の教職者が長き衣と神々しい面持ちで納まり返つてゐる肖像が必ず懸けられてある。之等の肖像の陳列されてゐるのは之即ち其の治下の國民をして之等の人々の偉大なる事を印象せしめ、「キリスト教國」の大指導者たちに尊敬を捧げしめんとするの目的に外ならないのである。

同時に之等の肖像畫が大切さうに並べられてゐるのは即ち金權者と武人、政治家及び教職者の間に密接不離の一致あるを自證してゐるのである。之ぞ即ちサタンの組織制度に屬する見ゆる部分の代理者である事が明かである。此の故に彼等は己が組織制度に屬する著名人物を讃頌謳歌するのである。然らば何故に彼等は之をなすか。即ち悪魔は常に人間をして何かの被造物を崇拜せしめて、之により人々を神エホバより離反せしめん事を目的としてゐるからである。此の故に人間崇拜は如何なる場合を問はず、常に悪魔が人々をして神より離反せしむる爲に執りつゝある奸惡手段たるを知れ。

宗敎家は皆此の悪魔の良に陥つた。ユダヤ人は皆彼等のラビを尊崇して之を高く擧げた。カトリック敎會の會員は其の教職者を崇拜して聖人の名を以てすら彼等と呼んでゐる。新敎各派の會員は彼等の教職者を尊敬して彼等を偉大なる大能者なりとして推稱してゐる。斯くの如きは全く人々が無知であつたからである。そして此の無知は敵なるサタンに依て禍ひさ

れたる結果である。カトリック敎會と新敎會各派とを問はず之等に屬する人々は皆自分等に害を與ふる教職者を崇拜し、推稱して來たのである。人は己を神に捧げてゐると自稱しつゝ一方に人間を讃頌してゐる時に、彼は神の試練下に於て神に對する完全なる忠誠を立證する事が不可能である。斯かる者の多數は必ず離れ落ちて行くのである。

エリフは人間に詔ふ結果を示して云ふ「我は詔ふ事を知らず、若し詔はゞ我の造化主だち我を絶ち給ふべし」(ヨハ記卅二章廿一、廿二節)。彼の此の言は眞の預言である。多數の人々は詔ひの言によつて取り去られて了つた。多數の人々は他よりの詔ひの言を喜んで己に受け容れる事によつて離れ落ちて了つた。然らば何故に神は詔ふ人間を取り除き給ふか。我等は神とサタンとの間に永らくの間繼續されて來た争ひの事實を正式に諒解した時に此の問題を明白に解決する事が出来る。サタンは全被造物を神より離反せしめんと常に努力して來た。エホバは告げて「我の外に神なし」と明示されてゐる事に留意せよ。如何なる被造物もエホバ以外より生命を得る事の絶對不可能なるを確と記憶せよ。此の故に神の僕なりと稱する者が人間に詔ひ、阿諛する稱號を與へて英雄、聖者なりと讃頌するならば其の者はサタン即ち悪魔の指導下に服してゐるのであつて神と其の御言に服従してゐない事を自證してゐるのである。

如何なる人も神エホバとサタンとを區別する知識の到來するを歓迎すべきであつて、彼は此の知識に基いて己を徹底的にエホバの側に立てなければならぬ。エリフは己自身をエホバの側に置き、全く神エホバの味方として立つた。之ぞ神を喜ばし奉らんとする者の必ず従はなければならぬ厳則である。使徒パウロは彼の時代に於てクリスチャンの間に人間崇拜が既に始まるの事實を見て戒めて曰く、「パウロは誰、アポロは誰、我等は唯おのゝに賜はれる恩に隨ひ、汝等をして信ぜしめんとて勤むる者なるの外なし。然れば我は植ゑ、アポロは水そぐ、長つる者は唯神なり、種うる者、灌そぐ者も數ふるに足らず、唯貴きは長つる所の神なり」(コリント前書三章五―七節)。

エリフはヨブに告げて云ふ、「汝我が聴く所にて物言へり。我汝の言語を聞けり、曰く、我は潔淨くして愆なし。我は罪なく、惡しき事我が身に非ず。視よ、彼われを攻むる隙を尋ね我を己の敵と算へ、我が脚を柱に夾め、我が一切の舉動に目を着け給ふと。視よ、我汝に答へん、汝この事に正義しからず。神は人よりも大なる者にいませり。彼その凡て行ふ所の理由を示し給はずとて汝彼に向ひて辯争そふは何ぞや。誠に神は一度二度と告げ示し給ふなれど人之を曉らざるなり」(ヨブ記卅三章八―十四節)。

ヨブは何の諒解もなくして語つた。彼は己が苦難は神に對する意識的の罪の結果に非ざる

事を諒解してゐた。今日の教職者が神に就て人々に向つて正しき道を示さず、又何故に人間は苦惱するかと云ふ理由に就て教へざる如く、ヨブの自稱友人の三人もヨブに向つて何等正しき道を示さなかつたのである。

其の時エリフは言を進めて神エホバを讃頌した。エリフの言は預言であつて、病氣と死との止む事、人類の贖ひ救はれる事、神の御目的の知識を受けて後神に服従する者はその若き日の有様に回復される事に就て述べた。彼の言は生命の言であつて、神は贖ひと復活と復興との方法によつて人類に生命を與ふるの御目的を有してゐられる事を示してゐた。彼は先づ一人の人の病氣と苦惱と衰弱とその瀕死の状態を用ひて全人類の有様を示した。其の心に總ての食物を嫌ひ、彼の苦惱の甚だ大なる時、其處に一人の中保ありて義しき道を彼に明示するならば、神は其の人を憫みて、墓に落ち行く彼を救ひ、偉大なる贖價の恩恵に與からしめられんとの旨を示す。彼の言に曰く、

「人の靈魂を護りて墓に至らしめず、人の生命を護りて劍に滅びざらしめ給ふ。人床にありて疼痛に攻められ、其の骨の中に絶えず戦闘のあるあり、その心食物を厭ひ、その靈魂うまき物をも嫌ふ。その肉は瘦せ落ちて見えす、その骨は見えざりしものまでも顯露になり、その靈魂は墓に近より、その生命は滅ぼす者に近づく。然る時に若し彼と共に一個の使者あり

千の中の一箇にして中保となり、正しき道を人に示さば、神彼を憫みて言ひ給はん、彼を救ひて墓に下ることなからしめよ。我既に贖ひの物を得たりと。其の肉は小兒の肉よりも瑞々しくなり、其の若き時の形状に歸らん。彼若し神に祈らば神彼を顧み、彼をして其の御顔を喜び見ることを得せしめ給はん。神は人の正義に報ひを爲し給ふべし。かれ人の前に歌ひて云ふ、我は罪を犯し、正しきを枉げたり、然ど報ひを蒙らず。神我が靈魂を贖ひて墓に下らしめず、我が生命は光明を見ん。抑々神は是等の諸々の事を屢々人に行ひ、その靈魂を墓より索き返し、生命の光明をもて彼を照らし給ふ(ヨブ記卅三章十八―卅節)。

此の模圖に於てエリフは誰を代表したのであらうか。ヨブは己が正しき道に導かれん事を願ひ、又何かの誤りあらばそれを指示されん事を望んだ、(ヨブ記六章廿四節)。エリフは語り出す時に、その言が己自身の智慧に依るにあらずして、唯エホバの代辯者として語る事を聲明し、全部の榮光と尊貴とを唯エホバのみに歸し奉つた。彼はヨブに云ふ、「我も汝と同じく神の者なり。我もまた土より取りて造られしなり。我が威嚴は汝を懼れしめず、我が勢ひは汝を壓せず(ヨブ記卅三章六、七節)。然る後にエリフは附け加ふ、「我廣く我が知識を取り、我の造化主に正義を歸せんとす。我が言語は眞實にして嘘偽ならず。知識の完全き者汝の前に在り。視よ、神は權能ある者にましませども何をも藐視め給はず、その了知の能力は大なり

悪しき者を生かし置かず、艱難者の爲に審判を行ひ給ふ(ヨブ記卅六章三―六節)。

之と同じ意味に於てイエスは地にありし時に斯く示し給ふた、「我が教ふる所は我が教へに非ず、我を遣はしし者の教なり。」「我が汝等に曰ひし言は靈なり、生命なり。」「我を遣はしし者は眞なり、彼に聞きし事を我世に告ぐ……我自ら何事をも行さず、唯我が父の教に従ひて之等の事を言へるを知るべし……我恒に彼の心に適ふ事を行へばなり」(ヨハネ傳七章十六節。六章六十三節。八章廿六、廿八、廿九節)。イエスは神の受膏者であつた、之は即ちイエスは神エホバの代辯者たる權能を與へられてた事を意味してゐる、(イザヤ書六十一章一―三節)。キリストの體に入れられて其の成員となり、神の聖靈を以て膏そゝがれたる者は皆權能を與へられ、エホバの名によつて人類を神に和解せしむるの音信を告ぐる役目に任ぜらる、(コリント後書五章廿節)。此の故にヨブ記の模圖に於てはエリフが神より膏そゝがれたる證者の役をつとめてゐる事は確實である。エリフは此の場合「首」なるキリスト・イエスと其の「體」の成員全部を代表す。之等の者が皆「神の僕」を形成する事は左記聖句の示す通りである。「我が扶くる我が僕、我が心喜ぶ我が撰び人を視よ、我わが靈を彼に與へたり、かれ異邦人(諸國民)に道を示すべし……我エホバ公義を以て汝を召したり、我汝の手をとり、汝を護り、汝を民の契約とし、異邦人の光となし、而して替の目を開き、俘囚を獄より出だし、暗

にすめる者を檻の内より出さしめん。我はエホバなり、之我が名なり。我は我が榮光を他の者に與へず、我が譽を偶像に與へざるなり」(イザヤ書四十二章一、六―八節)。

更に又エリフは一個の若者であつたが、之は末の日に於て主が其の殿に來て後に主より聖靈を注がれる處の「若き人たち」を表象してゐるのであつて、之等の若者こそ神の證者となるのである。(ヨエル書二章廿八節)。之等の若者達は己の全部を擧げて主の側に立ち、惡魔と其の組織制度に敵對す。神の證者は彼等若者級に就て斯く云ふ、「若き者よ、我この書を汝等に書きおくるは汝等惡しき者に勝てるによる。……若き者よ、我この書を汝等におくりしは汝等剛健、かつ神の言汝等の心に在りて惡しき者に勝てるに因りてなり」(ヨハネ第一書二章十三―十五節)。之等の若者こそ即ち「喜びの音信を傳へ、平和を告げ、善き音信を傳へ、救ひを告ぐる者の足」級に屬する者である。彼等は神の救済の御目的を人々に告げて「汝の神は統べ治め給ふ」と云ふ。彼等は共に神エホバの聖名とその御目的の證言を爲すために歡喜の一致をなす處の「斥候」を形成するのである。(イザヤ書五十二章七、八節)。

エリフはヨブに告げる、「若し彼と共に一箇の使者あり(神の受膏者なる僕)、千の一の通譯者(中保……は誤譯。解き教ふる者と云ふを意味す。創世記四十二章廿三節には同じ字が「通譯」と譯されあり)となりて正しき道を人に示さば……」(ヨブ記卅三章廿三節)と。此の言の意味に見るも

エリフは神エホバの「使者」或ひは「通譯者」なる事が明瞭であつて、即ち眞理を知らんと願ふ處の人々を慰むる爲に神の言を傳ふる役目に任ぜられたる神エホバの受膏者、僕を代表してゐるのである。神の受膏者こそ即ち「民の路を備へ、土を盛り、土を盛りて大路を設けよ。石を取り除け、諸々の民に旗を掲げて示せ」(イザヤ書六十二章十節)の役目に任ぜられたる者である。此の預言は特に主が其の王權を行使して統治を開始し、其の殿に來りてシオンを集合されたる後に適用すべきである。

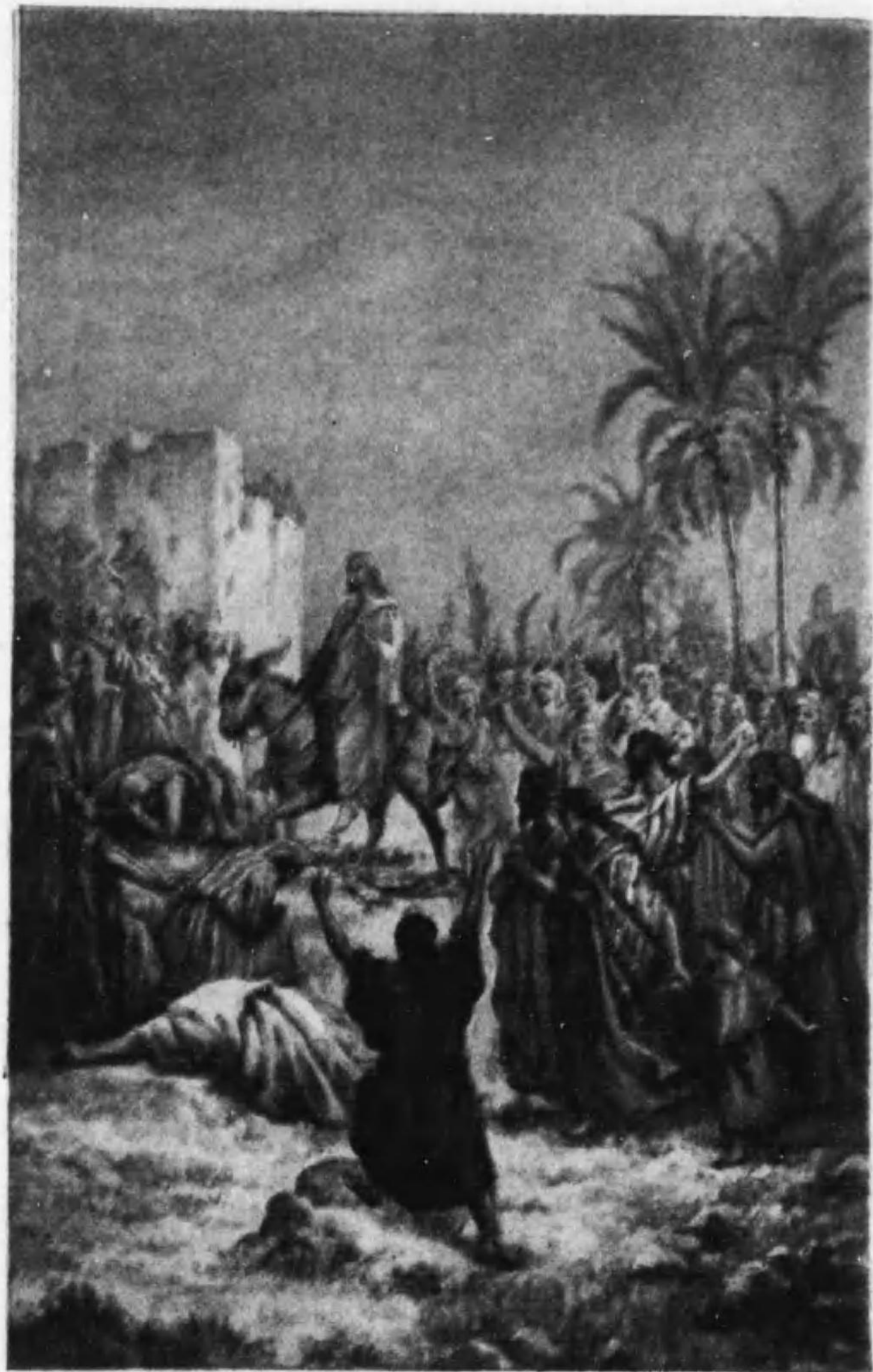
此の故にエリフはエホバの示し給ふ此の預言の級に屬する者を代表す、「エホバは宣給はく汝等は我が證人、我が選びし僕なり。然れば汝知りて我を信じ、我が主なるを悟り得べし。我より前に造られし神なく、我より後にもある事なからん。唯我のみ我はエホバなり。我の外に救ふ者ある事なし。我さきに告げ、また救をほどこし、また此事をきかせたり。汝等の中に他神なかりき。汝等は我が證人なり。我は神なり。これエホバの宣へるなり」(イザヤ書四十三章十一―十二節)。

預言が事實と完全に一致符合する時に我等は預言の正解を得た事を悟り知る事が出来る。此の模圖に於てエリフが神の受膏者級を代表してゐるとするならば此の預言の成就實現は果して如何あるべきか。今此の地上に少數の男女の群があつてその全部を神エホバと其の義の

政府との爲に獻げ盡し、其の證言の爲に過去數年間に亘つて全地的に活動してゐる事は動かすべからざる事實である。之等の者こそ受膏者なる僕級を形成するのである。主は一九一八年(大正七年)に其の殿に來られた。一九二二年(大正十一年)頃から神の民は神の組織制度と惡魔の組織制度との間に明確なる區別を悟り知らされ始めた。特に一九二二年以降主に獻身せる之等の忠信者は其の心を歡喜に躍らして、神を求め、其の言を聞かんと願ふ人々に神の言なる聖書を説明して、神エホバの大能と、復興の方法によつて人々に生命を與へられんとする其の慈愛に滿つる御目的を解明し、エホバが其の受膏者なる王キリスト・イエスを王座に擁立されし事、キリストの統治期間を通じて全人類は地上に於ける永久の生命を回復するに必要なる一の好機會を受けんとする事を宣明しつゝあるのである。

エホバに語り給ふ

ヨブの模圖に顯はれた要領を摘記して見ると以下の如くである。神は三人の自稱友人が眞理を語らざりし故を以て怒られた。即ち神はテマン人エリバズに向つて斯く云はれた、「我」と汝の二人の友を怒る、そは汝らが我に關して言ひ述べたる所は我が僕ヨブの言ひたることの如く正當からざればなり(ヨブ記四十二章七節)。エホバの此の御言に見るもヨブは眞摯なる人であつて眞理を語らんと願ひ、又眞理に近きものを多く語つた事が明かであつて、同時



全地の統治者

圖模 家教主爲する導導等彼と人類するす苦

者代理の魔とヨブ



に三人の自稱友人は主の御名によつて語ると自稱するも實は眞理を語らなかつたことが明かである。此の模圖の示す所は其の後の事實と明確に一致す。悪魔の組織制度の眼に見ゆる部分の代理者即ち教職者は彼等が神エホバの名によつて語ると自稱した。教職者と其の連累者及び彼等の「群の長たち」は己等のみが神の言を教ふる資格を有し、人々を指導し得る者であると自分勝手に主張してゐる。彼等教職者は決して眞理を語らない。一方ヨブによつて表象されてゐる處の多くの正直な人々は或る程度迄の眞理を得てそれを語つてゐるのである。教會制度は壯嚴なる建物を建築してそれを「教會」と呼び、教職者は其の中で彼等自身の間智を語りつゝ尙ほ自ら神を代表すと稱してゐる。彼等は事實に於て悪魔を代表してゐる、何故なれば其の屬する教會制度が悪魔の組織制度であるからである。

之等教會制度の多くが神に奉仕せんと熱心をもて始められし事は事實である。然し彼等は頓て間もなく悪魔の手に落ちて了つた。そして神は此の種の墮落者に就て明確に預言し、その預言の特に今日此の時に適用さるべきものなるを示し給ふ、(エレミヤ記二章廿一―廿五節)パピロンとベリアルは共に悪魔の組織制度を示す名稱である。而して教會制度は此の悪しき組織制度の一部であつて、主は斯かる者に就て示し給ふ、「キリストとベリアルと何の合ふ事かあらん。信者と不信者と何の干ることか有らん。神の殿と偶像と何の同じき事かあらん。

それ汝等は活ける神の殿なり。神嘗て我彼等の中に住り、且歩まん、我彼等の神となり、彼等我が民とならんと云ひ給ひしが如く、又汝らは彼等の中より出で、之を離れ、汚穢に捫ること勿れ。我汝等を納けん。我汝等の父となり、汝等わが子女となるべしと云へるこれ全能の主の言なり（ヘブライ後書六章十五—十八節）。

事實に於て所謂「キリスト國」とは、社交及び政治的の組織制度であつて、我利私慾を満たすに何等手段を選ばざる貪婪な大資本家と、残忍なる悪政治家及び以上の二者を擁護支持せよと人々に強制する教職者によつて運用されてゐるものである。神の言を學び知らんと願ふ多數の心直き人々が之等教會制度の牢獄内に監禁されてゐる。エリフは之等の憐れなる囚人等に神の言を宣べ傳ふるの大特権を與へられある級の者を表象す。

此の意味に於てローマ、カトリック派やプロテスタント新教各派と等しく今日のユダヤ教制度も極度の悪化墮落を示し、ラビ等は最早人々に向つて神の言を傳へず、預言者たちを通じて示されし聖き言を悉く捨て去つてゐる。彼等は神の言の代りに、丁度ヨブの「三友人」がヨブに示した如くに「父祖等」の教を人々に強制してゐるが、之は恰もヨブの自稱友人三人が「父祖たちの教に従へ」と勸告したのと同様である。ユダヤ教制度も自稱キリスト教制度と共に今日の所謂キリスト國を形成してゐる。ユダヤ教制度は所謂キリスト教ではないに

してもキリスト國なる名稱が既に僞稱であつて、此の世の勢力に阿諛協力するユダヤ教制度が等しく此の「キリスト國」の中に編入されてゐるのは明瞭である。此の「キリスト國」とはキリストの國を意味せんとて使用されてゐるが、其の目的は人々の目を盲まさんが爲であつて、實際は悪魔の組織制度である。此の「キリスト國」の如何なる部分にも神の御目的を人々に告げ、贖ひと復活と復興との方法によつて人類に對し地上に於ける永久の生命が授けられるの事實を指示してゐるものは絶無である。

神の受膏者即ち特に聖書研究者の名を以て呼ばれてゐる人々は、エリフに依つて豫表されたる級に該當するものであつて、今日此の時地上に於て全知全能の神エホバの聖名を宣揚し榮光の全部をエホバに歸し奉つて如何なる榮光をも人間に歸せざる唯一の群である。彼等は人類をして此の地上に永久の生命と幸福とを得しむる神の道を人々に指示す。彼等が今日此の時に於て歡喜に満ち溢るゝには充分の理由あり、彼等は全能の神エホバの聖名と其の威光と御慈愛とを宣明するの絶大特権を賜れる事を喜び、感謝に満ちて神の國の政治によつて人類が解放され、生命と幸福に導かれ行くの事實を人々に語り告ぐ。今日此の地上に於て神エホバの證者となり、聞こゆる耳の所有者に向つて人類救済の神の御目的を宣明する事は人間に與へられたる空前未曾の最大特権である。

エリフの言が神エホバの聖名を宣揚するを目的とした事は事實であつた。エリフはエホバの威光、敵なるサタンの組織制度の顛覆、復興期間に於ける全人類の再建を語り告げた。聲は音信を表象す。諸共に聲を揃へて叫ぶのは神の僕級であつて彼等は一一致して神エホバの音信の言を宣明するのである。

電光は神の言の上に来る照射を云ふのであつて、神が其の受膏者級の首なるキリスト・イエスを通じて與へられるのである。エリフは云ふ「神の聲の響及び其の口より出づる轟聲をよく聴け。之を天が下に放ち、また其の電光を地の極にまで至らしめ給ふ」(ヨブ記卅七章二、三節)。斯く彼はヨブに告げて眞理の音信は神の電光に照らされ、其の指揮下に全地の隅々まで達して諸國諸民に對して證となると示す。然る後に彼は云ふ「その後聲ありて打ち響き彼威光の聲を放ちて鳴り給ふ。その御聲を聞こえしむるに當りては電光を抑へ置き給はず、神奇しくも御聲を放ちて鳴りわたり、我等の知らざる大なる業を行ひ給ふ。南方の密室より暴風來り、北より寒氣來る。その之を來らせ給ふは或ひは懲罰の爲、或ひはその地のため、或ひは恩惠のためなり。ヨブよ、之を聞け、立ちて神の奇しき工作を考へよ。人今は雲霄に輝く光明を見る事能はず、されど風來りて之を吹き清む。北より黄金出で來る、神には畏るべ

き威光あり(ヨブ記卅七章四、五、九、十三、十四、廿一、廿二節)。

エリフは此處で、地上の諸國諸民に向つて力強き證言が提示され、神エホバと其の人類救済の御目的、大暴風即ちサタンの組織制度に對する神の聖怒の表示である大患難の到來、而して全地を席捲する大暴風の襲來と、其の後に來る全地の廓清即ち快晴との證言が行はれる時を表象してゐる。エリフの此の言は大患難時と、其の終結と共に祝福の開始さるゝ事に關する大證言を豫表してゐる。

其の時至るに及びて地上に在る受膏者級が神の榮光と、サタンの組織制度の崩壊、神が其の愛子キリストの統治を通じて地上全人類に生命を與へられる時の事が斯くの如くにして豫示されてゐるのである。事實は示して今日此の時に在る神の受膏者たちが神の御命令に服従して、忠實に此の證言を爲しつゝある事を立證してゐるのであつて、此の證言はエホバの戰である大旋風が地上諸國の全部を粉碎する以前に於て必ずなされなければならぬのである。

一九一四年(大正三年)より一九一八年(大正七年)迄の世界大戰と之に關聯して發生したる種々の出來事は惡魔の支配してゐた世が公式に終結する事を示す預言を成就した、(マタイ傳廿四章七-廿二節)。即ち一九一四年の年は「期待の時」が終結してサタンと其の組織制度に對

して行動を開始すべき時であつた事を意味す。マタイ傳廿四章第十四節には此の時地上全人類に向つて神の國の福音が傳へられて、世の終結せる事と、神の國が來れる事の證言が全地に提示されると教へてゐる。而して同章の第廿一、廿二節には空前絶後の大患難が到來する事が告げられてある。此の空前絶後の大患難こそ主の預言者によつて「全能の神の戦」と呼ばれてゐる處のそれである。(默示録十六章十四節)。之ぞ即ちサタンの組織制度に對する神エホバの戦であつて敵の組織制度を完全に顛覆一掃するのである。

之ぞ即ち神の受膏者が今日地上に於てエホバを讃頌し、其の爲し給ふ所の事を全地の人々に歡んで宣明する事を立證する處の更に進んでの證據である。(イザヤ書十二章一―五節)。今や成就しつゝある預言の事實はエリフが今日地上に於て此の特權を賜はり神の聖旨を諒解してゐる受膏者たちを預表してゐる事を明瞭に立證してゐる。神は其の御豫定の時至る迄は預言を諒解する事を差し止めて、之を隠し置き給ふ。神の民は今日に至るまでヨブ記を諒解する事を許されてゐなかつたが、然し今、神の御目的の進展と共に明瞭となり來り、榮光の全部を神エホバに歸し奉るのである。ヨブ記の秘密が顯示されたる此の事は全能の神の大戦が最も切迫せる事を明確に示すものであつて、此の大戦の後に神の祝福は地上全人類の上に臨むのである。

エリフが其の證言中に示した如く旋風は全き威力を發揮す。即ちサタンの組織制度に對して神の聖怒が顯示さるゝ事を表象す。之に關し神の預言者の言は斯く記す、「視よ、我わが名をもて稱へらるゝ此の邑(神の名を稱へて實は悪魔を代表しつゝある偽教會制度)にすら災禍を下すなり。汝等いかで罰を免がるゝ事を得んや。汝等は罰を免がれじ、そはわれ劍を呼びて地に住める凡ての者を攻むべければなりと萬軍のエホバ言ひ給ふ。汝彼等にこの諸の言を預言して言ふべし、エホバ高き處より呼號はり、其の聖き宮より聲を出し、己の住家に向ひて呼ばり、地に住める諸の者に向ひて葡萄を踐む者の如く咥び給はん。號咥地の極まで聞こゆ、そはエホバ列國と争ひ、萬民を審き、悪人を劍に付せばなりとエホバ言ひ給へり。萬軍のエホバ斯く言ひ給ふ、視よ、災禍出で、國より國に至らん。大なる暴風地の極より起るべし。其の日エホバの戮し給ふ者は地の此の極より地の彼の極に及ばん。彼等は哀しまれず、殮められず、葬られずして地の面に糞土とならん。牧者よ、哭き叫べ、群の長たちよ、汝等灰の中に轉ぶべし、そは汝らの屠らるゝ日滿つればなり。我汝らを散らすべければ汝等は責き器の如く墮つべし。牧者は避場なく、群の長たちは逃ぐる處なし。牧者の呼號の聲と群の長たちの哀哭聞こゆ。そはエホバ其の牧場を滅ほし給へばなり(エレミヤ記廿五章廿九―卅六節)。

エホバは神なり

「茲にエホバ大風の中よりヨブに答へて宜はく」(ヨブ記卅八章一節)。之ぞ神エホバが己御自身を人類に向つて顯示される時を表象す。大風即ち暴風、旋風はサタンの組織制度に對して顯はし示さるゝ神の聖怒を表象す。此の大患難時中に於て神は誰が全能者にして永遠者なるかを人々に知らさるゝのである。我等は今ヨブ記三十八章より四十一章までを慎重に研究せんとす。所謂「キリスト國」は全地の救ひ主なるを裝ひ、國際聯盟其の他之と類似の平和條約を制定しては失敗し、心直き人々の信頼を失つて了つた。「キリスト國」に對する信頼を失つた之等の人々は未だ神の御目的の知識を有せず、神が如何にして彼等を祝福さるゝかに就て彼等自身の教理を固執す。彼等は神の實在を信すると雖も神の組織制度に就ても、又惡魔の組織制度に就ても、未だ全く無知無識である。ヨブは其の預表する多くの模圖に於て此の種の人々をも代表してゐる。エホバは大風の中より此の「級」に屬する人々に向て語り、而して地上の自稱賢者等を沈黙せしめらるゝのである。エホバは彼等に向て御自身が天地の大創造者なる事、エホバ以外に斯かる大創造者の絶無なる事、エホバこそ智と力と義と愛の唯一源泉に在す事を示し給ふ。エホバの御言は人間の無關心状態を打ち破りて創造者の偉大なるを高く揚げるのである。

第卅八章以後に於て神が斯くヨブに示し給ふの御目的は抑々何なりや。留意すべきはヨブ

は此の場合に於て神を尊敬する人々を代表するのであつて、神の目的は即ち彼等に通牒を交附してエホバが生命の唯一根原に在して、生命は神の備へ給ひし恩恵と慈愛の方法に依る以外には絶對に得られざる事を示し給ふにあつたのである。今日までに人間が己自身の力で人間に祝福を齎らし得なかつた事は動かすべからざる事實である。

過去と現在と未來の全期間を通じての問題は常に「誰が最高至上者か」と云ふ事であつた。ルンファアの反逆によつて此の問題は具體化され、彼は人々を眞の神エホバより離反せんと努力を續けて來た。サタンは熱心に努めて人類をして神の偉大なる事と御慈愛の事實に盲目ならしめた。神エホバがサタンの其の惡を極度まで發揮するを許し置き給ひし事はサタンがヨブの上に加へたる攻撃に見るも明かである。エホバが眞の神に在すと云ふ證言の重要性を感謝して受け容るゝ人は極めて少數である。自稱「キリスト國」に屬する者の大多數は、自ら神を見上げてゐると考へ、又彼等の指導者等も神の名を語りつゝありとは云へ、彼等の心は神より遙かに遠ざかり隔つてゐるのである。多數の人々は自ら主イエスの足跡に追隨し、神の名を感謝して受け容れてゐると稱するも決して然らず。此の感謝を全く有し得たる者は地上に絶無であつた。今日に於て神の受膏者がエホバの聖名に對して有する感謝の度は愈々増し加はつてゐるが、之は即ち神の電光が其の御言を照射する豫定の時に到達したからであ

る。此の故に神の受膏者は神命に服してエホバが眞の神に在す事の證言をなすのである。神は其の大能を以てイスラエル人を埃及より救ひ出されし時に、エホバはイスラエル人に向つてエホバが神に在す事を教へて置かれた。埃及は惡魔の組織制度を表象し、一方ホレブの山は神の組織制度を表象してゐる。神エホバは奇蹟的にイスラエル人を埃及より救ひ出して彼等をホレブの山まで伴ひ來り、其の處に於て彼等に律法即ち行爲の元則を示し、彼等が之によつて導かれて生命への路に歩むべきを指示された。其の時の大問題は即ち「誰が神か」であり、「我等は誰に奉仕すべきか」であつた。神はホレブの山に於てイスラエル人に與へられた律法の最も重要な部分の中に斯く示して置かれる。「我は汝の神エホバ、汝をエジプトの地、その奴隸たる家より導き出せし者なり。汝我が面の前に我の外何物をも神とすべからず」(出埃及記廿二、三節)。神の此の宣言は人間の福利の爲に與へられたのである。即ちエホバが唯一の眞の神である事と、生命を享樂せんとする者は皆エホバの律法に服従して後にそれを受けると云ふ事を教へんが爲であつた。エホバは大風のなかでヨブに答へ給ふた時に此の元則を再度力説された。(ヨブ記卅八―四十一章)。而して今、エホバは其の受膏者をしてエホバが唯一の眞の神なる事の通牒を全地の民に交附せしめ給ふのであつて、神は大風の表象する實體即ちハルマゲドンの大戦が全地の諸國に發生する以前に於て此の通牒交附の仕事を完

成されるのである。聞く者は極めて少數であつて、大多數は聽く事を拒絶す。而して神は大患難を以て誠にエホバが神に在す事を明かに立證されるのである。神が其の愛子を此の地上に遣はされたのは人類に對して贖價を備へ、彼等をして永久の生命を有せしむるの途を開かんが爲であつたと聖書は明示す。(ヨハネ傳三章十六、十七節)。神の遣はし給ひし此の偉大なる教師イエスは其の地上任務の終結せんとする時に斯う示された。「永久生命とは唯獨の眞神なる汝と、其の遣はしよイエス・キリストを知るこれなり」(ヨハネ傳十七章三節)。此の明白なる言に見るも人間には神エホバと其の備へ給ひし方法に頼る以外には永久の生命を受くる事が絶對不可能である。エデンの園の悲劇以後一九一四年(大正三年)までの全期間を通じて神は惡魔が其の全力を傾盡して人々を神より離反せしむる事を放任して置かれた。此の全期間こそ全く大苦難の時であつて、地上人類に經驗を與へ、彼等をして之以外に惡を経験する方法が他に絶無なるを教へたのである。愈々一九一四年(大正三年)の至るに及びて神は其の預言を成就すべく受膏者なる王キリストに向つて「行つて敵の眞つ只中で王權を行使せよ」(詩篇百十篇一、二節)と示された。此の時以後神は其の王を通じて御國の運用を開始された。神は其の受膏者達をしてエホバが眞の神に在す事の證言を全地諸國に宣明せしめられたが、之は人類の爲の福利

となるのであつて、神は之によつて何等の利益を得られないのである。全地の民はエホバが眞の神にして最高至上者に在す事を告げ知らされなければならぬ。而して彼等は生命を得るの好機會を得る爲には是非共之を知らなければならぬのである。此の事はエホバがヨブに告げられた御言によつて明かである。而して此の證言はヨブの模圖中に於けるエリフによつて豫表されてゐる受膏者達に依て全地に與へらるべきである。神は命を下して此の證言を與へしめ給ふ。而して此の證言傳達の仕事に喜んで参加する者でない限り神の承認を得る事能はず、又歡喜する事が出来ない。神は此の證言を行かしむべき方法を備へ置かれた。

ヨブに向つて斯く示さる、「汝電光を遣はして行かしめ、汝に答へて我等は此處に在りと言はしめ得るや」(ヨブ記卅五章卅五節)。斯くの如く神は簡明にして確實な言を用ひてラチオが神の能力の顯現であつて、人間の力によるものに非ざる事と、エホバ御自身が空中電波の作用によつて眞理の音信を行かしめられる事を告げて置かれる。神の受膏者たちは今、天地の大創造主に在す神エホバの御力の顯現であるラチオを使用して全地の人々に告げ、彼等の爲に地上の永久生命を得るの途が開かれたる事を示し、同時に暴壓的なサタンの組織制度が何故に今壊滅するかの理由を宣明す。サタンの組織制度は横暴にもラチオを専有せんと努力す。然し我等は神エホバが其の聖旨を爲さんがために其の御意のまゝになさるゝ事を確信す。

疑ひもなく神はその御豫定の時至るに及びてアブラハム、ダビデ其の他古昔の忠信者をエルサレムの都に立たせ、ラチオを通じて、エホバ以外には他に神の絶無なる事を全地の人々に語り告げられるであらう。其の時人々はエホバの事を始めて詳しく告げ知らされて神を知り御言に服従して、彼等の爲に備へられある道を歩みて其の若き日の有様に回復され、地上に於て永遠に生きるのである。

復 興

大風の後、ヨブは神の言を聞きし後、神の前に謙つて斯う云つた。「我は汝の事を耳にて聞き居りしが、今は目を以て汝を見奉る。是をもて我自ら恨み、塵灰の中にて悔ゆ」(ヨブ記四十二章五、六節)。即ち全地を席捲する大患難の旋風がサタンの組織制度を根底より破却し滅亡せしめたる後に於て素直なる人々は斯く云はん、「神よ、我等は今塵と灰の中にて悔ゆ、而して我等は偉大なる永遠者エホバの御前に歸順し奉る」と。之等の人は更に云はん、「全能の神よ、我等は過去六千年の永きに亘りて汝の事を聞けり。されど我等の耳はサタンと彼の代理者の爲に塞がれ、我等の目は盲まされ居たりしなり。我等は特に牧師、神學者等偽教師の爲に欺かれて汝を知り奉る事能はざりき。我等は亦近年に至りて汝の證言を通じて汝と汝の御目的に就て聞かされ居たりしも我等の耳には入らざりき。我等の上を覆ひたる汝の戦ひの

大旋風の中に於て我等は汝の偉大なる威光の顯示を受けたたり。而して今、我等の心は開かれ
 て汝の威光、權威と榮光を見奉る事を得たり。(ハハク、書二章十四節。ハガイ書二章七節)。
 素直なる人々が斯くの如くに諒解する時、彼等は牧師神學者の教職者と其の相棒が人々の
 前にエホバを誤り傳へてゐたりし事と、之等教職者が悪魔の代理者なる事を諒解するのであ
 る。其の時に人々は神が在し、エホバの愛こそ彼等の依り頼み奉るべき唯一のものである事
 を悟るに至る。之れに就いて預言者イザヤは彼等を代表して云ふ、「その日如此云はん、之は
 我等の神なり。我等待ち望めり、彼我等を救ひ給はん、是エホバなり。我等待ち望めり、我
 等その救ひを歡び樂むべし」と(イザヤ書廿五章九節)。
 我等は今本題の模圖に還つて調べて見ると、神の記録は神がヨブに對する態度を一變して
 其の時彼に完全なる復興を與へられたと記さる、即ち「エホバ即ちヨブを嘉納れ給へり。ヨ
 ー其の友の爲に祈れる時エホバ、ヨブの艱難を解きて舊に復し、エホバ遂にヨブの所有物に
 二倍を増し給へり。是に於て彼の諸の兄弟、諸の姉妹及び其の舊相識れる者等悉く來りて
 彼と共に其の家にて飲食をなし、且つエホバの彼に降し給ひし一切の災難につきて彼を勞り
 慰め、また各々金一ケセタと金の環一箇を之に贈れり。エホバは斯くの如くヨブを恵みて其
 の終を初よりも善し給へり。即ち彼は綿羊一萬四千匹、駱駝六千匹、牛一千耦、牝驢馬一千

匹を有てり。また男子七人、女子三人ありき(ヨブ記四十二章九一十三節)。
 神は今、ヨブを以て最も驚くべき模圖を作成し、贖ひと復興とによつて地上全人類に生命
 を賜らんとするの御目的を圖示し給ふ。ヨブは今、七人の男子と三人の女子合計十人の子を
 與へられたが、之はエホバの御前に謙りて服従し、復興を完成される人類を表象するのであ
 る。ヨブは又一萬四千匹の綿羊と駱駝六千匹、牛一千耦、牝驢馬一千匹を與へられたが之は
 人類の上に回復される富を表象するのである。イスラエル人が神より不承認を宣告されし時
 彼等は屢々敵に囚はれた。然し其の都度神は愛と御仁慈を與へて彼等の囚はれを解きて、舊
 の恩恵に回復された。數百億の人は既に死して墓に在り、彼等は死の牢獄の囚人として扱
 はれ、又今日地上十數億の人は痛みと悲みに苦惱し死の墓場に直面してゐるが彼等は當然罪
 と死の囚人として取り扱はれるべきである。神は彼等を現在の囚はれより解放し、復興の方
 法によりて彼等の爲に生命を得るの道を開きて與へんと約束されてゐる。(詩篇六十八篇十八節
 エヘツ書四章八節。エセキエル書十六章五十三節)。神はその預言者全部の口を通じて豫定の時
 至るに及びて全人類の爲に生命を得るの道が開かれ、復興作業の進展に伴ひ、主の命に服従す
 る者は地上に於て幸福なる永久生命を受くべしと預言して置かれる、(使徒行傳三章廿一廿四
 節)。

ユダヤ教會制度のラビ(教師)達はメシヤの名を時々口にす、何故なれば預言者たちによつてメシヤの來る事が預言されてゐるからである。預言者たちは亦メシヤは人類の大贖ひ主であると言つた。アブラハムの肉の子孫即ちユダヤ人中で、贖ひ主の來るを信じてゐる者は極めて少數である。所謂「キリスト國」に屬する教會制度はイエスを呼んで贖ひ主となす、然し彼等の言は結局嘲笑的なるものに過ぎずして丁度ヨブの自稱友人三人の言と同様である。彼等は口唇を以て神の名を呼び、イエスの名を語るも彼等の心が神とイエスから遙かに離れ去つてゐる事は神の預言されてゐる通りである、(イザヤ書廿九章十三節)。教會制度の教師たちの大部分はイエスを以て單に偉大なる教師となし、イエスの言行を研究し、それを手本として己が人格を修養せよと教ふ。牧師、神學者の大多數はイエスを以て單なる一個の罪人として取扱つてゐる。彼等はイエスの犠牲と、人間に對する贖ひの價を公然と否定し、イエスの血の有する救済の力を全く否認す。

今日に於てはユダヤ教、カトリック教、プロテスタント新教の何れの教會制度にしても人類を死より贖ひ出す爲に流されたるキリスト・イエスの血を教へ、神がイエス・キリスト再臨の時に建設さるゝ王國に於て服従者を地上に復興し、地上を彼等の住所として彼等に永久

贖ひ

の生命を授けられる事を教ふるものは絶無である。之と同時に之等諸教會制度の指導者たちは自ら神の代表者なるを装ふも事實は然らずして全き欺瞞者であり、偽善者である。之等諸教會制度は神の國を拒絶し、神の國のみが地上人類に平和と繁榮と生命と幸福とを齎らす處の唯一の方法である事を否認す。模圖の一部に於てヨブは神と贖ひ主イエスに對し信仰を有する種類の人々を代表してゐる。

ヨブは其の言の中に贖ひ主と中保の必要なるを預言した。彼は贖ひ主に對する己が信仰を示して云ふ、「我知る、我を贖ふ者は活く。後の日に彼必ず地に立たん。我がこの皮、この身の朽ち果てん後、我肉を離れて神を見ん」(ヨブ記十九章廿五、廿六節)。即ち豫定に時至るに及びてヨブと全人類に對する贖ひ主たるべき者が宇宙の中に生きてヨブは死より目覺める時に其の贖ひ主の臨在の日の實證を見るに至るべく、又假令ヨブは其の時の肉體を離るゝとも復活に於て新たに與へらるゝ新しき肉體に於て贖ひ主臨在の實證を見るのである。

他の場合に於てヨブは贖ひ主を見出し、それを知らんとする己が信仰を告げて云ふ、「願はくは神を尋ねて何處にか遇ひまつるを知り、其の御座に參り至らん事を。我この愁訴を其の御前に陳べ、口を極めて辯論はん。我その答へ給ふ言を知り、また其の我に言ひ給ふ所を了らん。かれ大なる能をもて我と争ひ給はんや。然らじ、却て我を顧み給ふべし。彼處にては

正義き人かれと辯争う事を得。斯くせば我を審判く者の手を永く免がるべし。然るに我東に
行くも彼いませず、西に行くも亦見たてまつらず、北に工作き給へども遇ひ奉らず。南に隠
れ居たまへば望むべからず。我が平生の道は彼知り給ふ。彼我を試み給はゞ我は金の如くし
て出で来らん(ヨブ記廿三章三十節)。之は即ち神を探し求むる人々がヨブによつて代表され
てゐることを表象してゐる。之を立證する爲に使徒行傳十七章廿七、廿八節を見よ、「こは人
をして神を求めしめ、彼等が或ひは揣摩り得る事あらん爲なり。然れども神は我等各人を離
るゝ事遠からざるなり。それ我等は彼によりて生き、動き、在る事を得るなり」と。之に對
し神は贖ひ主イエスを通じて人類に生命を與ふるの方法を備へ置き給ふ、「それ神は其の生み
給へる獨子を賜ふ程に世の人を愛し給へり。此は凡て彼を信する者に亡ぶる事なくして永久
生命を受けしめんが爲なり。神の其の子を世に遣はし給へるは世を審判かんとに非ず、彼に
由りて世を救はんが爲なり(ヨハネ傳三章十六、十七節)。
教會制度はヨブの自稱友人三人によつて豫表されたる惡魔の組織制度であつて、彼等は贖
ひ主キリストを通じて全人類を救濟されんとする神の御目的を人々に告げて人々を慰むる事
をしないのである。一方神は常に地上に己が證者を有し給ひて贖ひと復興とに依る救濟方法
を人々に宣明せめし給ふ、神はヨブの自稱友人の三人言を否認し、又ヨブ自身の言をも叱責

されたがエリフの言に對して何等の否認も叱責をも與へられなかつた。之ぞ即ちエリフは、
不完全なる肉體に在りとは云へ、己が全部を盡して主に奉仕し、喜び勇んで神の聖名と其の
偉大なる御仕事に關する證言を爲す受膏者等を代表してゐる事を立證する處の更に進んでの
證據である。

聖書の記録はヨブが其の試練と患難の全期間を通じて常に神に對する貞潔を守つた事を力
説してゐる。即ちヨブはエホバに絶對信頼を固く有してゐたのである。神は其の豫定の時至
るに及びて愛子イエスを此の世に遣はされた。エホバはイエスがサタンの總らゆる奸策と、
神より離反せしめんとする全ての誘惑を斥けて神の御前に貞潔を固く守る事を信じてゐられ
た。エリバズ、ビルダデ及びゾバルの三人がヨブに就て考へてゐた如く、ユダヤ人はイエス
が「神に打たれ、苦しめらるゝ」と考へてゐた。然し事實は預言者イザヤの云ふ如くイ
エスは人類の福利の爲に苦まれたのであつた、(イザヤ書五十三章四、五節)。神は一個の人を此
の地上に置き、其の人がサタンの誘惑に堪えて神に信頼し、其の貞潔を固く持する事を始め
より知り、其の人の貞潔を基礎として人類に對する復活と復興の方法を備へられたのである。
イエスが地上の任務を開始された時にサタンはイエスをして神より離反せしむる事が出来

ると考へた。そしてイエスの前に三種の大誘惑方法を置いたが、何れもサタンの失敗に終り
 イエスは其の貞潔を固く保持された。(マタイ傳四章三十一節)。然る時にサタンはその組織制度
 即ち當時の教職者と其の相棒である資本家、政治家を使用してイエスの上に總らゆる迫害を
 加へた。此の眞つ只中に於てイエスは其の貞潔を固く守られた。イエスは迫害と大苦難と最
 も呪はれたる死とを苦まれたが、神聖振つたユダヤ人の教職者はイエスが神よりの審判を受
 けて此苦惱を見てゐるのであると云ふ風に當時の人々を誤り信ぜしめんと企てたのである。
 神は亦人類の間に、悪魔即ちサタンを拒絶し、神に對する己が貞潔を固く持する少數の人
 々の常にあるを豫知してゐられた。之等の人々の名はヘブル書十一章に列擧されて彼等が忠
 實なる證者であつた事を立證してゐる。同時に神は又「召され選ばれし忠信」なる十四萬四
 千の人がイエスの足跡を追隨し、總らゆる迫害と誤解の間に在つて尙ほ神に對する貞潔と信
 仰と献身とを失はざる事を豫知して之を豫め示し置かれた。神がヨブの上に示された信頼は
 キリストの統治下に於て人類を服従せしめらるゝ神の御目的を表はすものであつて、キリス
 トの治下に於て全人類を神に歸順せしめ、其の統治期間の終結と共に全人類の上に来る一大
 試験を経て其處に彼等の貞潔を固く持し、永久の生命を受くるに足る者とされる多數の人々
 のある事を表象するのである。而してイエスに關する預言に云ふ、「我が義しき僕は其の知識

によりて多くの人を義とす」(イザヤ書五十三章十一節)と。

之等貞潔を固く持し得たる者は皆神エホバの聖名の證者となりし事に留意せよ。イエスは
 此の證者たるが爲に生れ、此の理由の爲に世に來り、眞理の證を爲さんがために地上に立つ
 たと云はれた。(ヨハネ傳十八章卅七節)。舊約書中にある忠信者は何れも神エホバの聖名に對す
 る證者となつたのであつて、彼等の信仰はキリスト・イエスの追隨者等の模範たるべしと指
 定されてゐる。(ヘブル書十二章一節)。此の故に御國に於て主イエスと共に榮光の座に連らんと
 する者は、皆主に對する貞潔を固く持し、悪魔と其の組織制度に對して極力敵對し、勇敢
 に喜び進んで神エホバの聖名と其の御仕事を宣明する者に限られてゐるのである。(ヨハネ第
 一書四章十七、十八節。イザヤ書十二章一―五節)。

教訓

ヨブ記は義しきを求むる人々に對する教訓を示す。今それを摘記すると左の如くなる。

(一) エホバは唯一の眞の神に在して他に神なく、最高至上者にして義と智と絶對無私の
 完全なる表現にして、生命の唯一根源なれば萬物はエホバのみより生命の供給を受けなけれ
 ばならぬ。

(二) サタンは惡の權化にして人々の敵であり、欺瞞、譏詐、嘘偽、偽善を常套手段とし

て其の悪しき目的を達成せんとする者である。

(三) サタンは目に見ゆると見えざるの両方面を有する強大なる組織制度を所有し、其の見ゆる方の部分は教職者と其の仲間即ち地上に於ける資本家と政治家によつて形成され、民衆を壓制し、神エホバを誤り傳へて人々をして神より離反せしめ、真理の言に盲目ならしむる爲に共働す。

(四) 地上には正義を願ひ求むる男女の級あるもサタンと其の代理者の爲に神を誤り傳へられ、其の目を盲まされ居るが故に暗闇に封じ込められて己が歩むべき道を知らず。

(五) 神は己が組織制度を有し給ひて其の一部分は人間の目に見え、神に絶対献身せる受膏者等によつて形成さる。神の組織制度の見ゆる部分に属する成員に與へられある特權は神命に服して神の力とその御仕事、人類の爲に備へられある救済祝福の御目的を宣明する事であつて、此の宣明は證言として全地に與へられなければならぬ。

(六) サタンと其の組織制度の上に降される神の聖怒は頓て間もなく空前絶後の大患難となつて全地に臨み、其の大患難時中にサタンの組織制度は全地より破却一掃されて人々は其の暴壓の下より解放される。

(七) 大患難に續いて地上人類の上に平和が來り、全人類は真理の智識を示され、神を知

つて之に服従する者には住所と友人、土地と更に多くの賜物が與へられ、尙之等の上に彼等は永久の生命を受けて永久に此の地上に於て住む事となるのである。

神は此の御慈愛に満ちた真理の知識を人々に知らしめ、此の時神エホバの味方に馳せ參する者をして喜んで神に服従し、聖旨に奉仕せしめ給ふ。『エホバを己が頼みとなし、高ぶる者に頼らず、嘘偽に傾く者に頼らざる人は幸福なり』(詩篇四十篇四節)。『エホバを己が神とする國は幸福なり。エホバ副業にせんとて撰び給へる其の民は幸福なり』(詩篇卅三篇十二、十三節)。

第十二章 聖名の擁護

エホバは其の御目的の中に於てクリスチャンの爲に準備をされた。即ちクリスチャンは地上に於ける人間として生きるものとしてとなくして、忠信なるクリスチャンは生命の冠、即ち神性の靈者として朽ちざる生命に生きるやうに準備されてゐる。(黙示録二章十節)。神の愛子イエス・キリストはクリスチャン級の者の首位である。(コロサイ書一章十八節)。「キリスト」とは神の受膏者を謂ふ。故に一個の「クリスチャン」とは即ち神が聖靈に依て其の者をキリストの「體」の中に入れ、至尊き神性の報賞を其の前に置かれたる者を謂ふ。然らばクリスチャンは何故にユダヤ人と人類の復興に關して甚大なる興味を有するのであらうか。名目のみのクリスチャンは眞の者ではない。彼等は復興の教理を信ぜざるが故にそれを教

へない。地上に於る永久の生命への復興を教ふる眞の教理は靈魂不滅や永劫責等の偽教理を一束にして粉碎一掃す。サタンの悪指導下に盲動する教職者は一人として人類が地上の永久生命に復興される眞理を教へない。此の故に舊教と新教とを問はず全部の所謂キリスト教は復興の眞理を拒絶するのみか、却て之に反對しつゝあるのである。

眞のクリスチャンは聖書の明示する復興の眞理を信ずるに止まらずして喜んで之を他に告げ知らすのである。眞のクリスチャンがユダヤ人の故郷歸還と郷土再建、生命への復興の事件に對して甚大なる興味を有してゐるには充分の理由がある。同時に彼等は又復興の眞理が地上全人類の上に適用さるゝ事に就ても甚大なる興味を有する充分の理由を有してゐる。其の諸理由の重なるものは左の如し。

何故なれば人類が生命に復興される事は之れ即ち神エホバの聖名の擁護となるからである。何故なればエホバは此の人類復興を約束されたのであつて人類の救済祝福は神の御目的中の有力なる一部であるからである。何故なれば神の言なる聖書中には人類復興を教ふる證據が極めて豊富であつて之が眞理なるを立證してゐるからである。何故なれば此の人類復興の教理は今、人類を慰めるの方法として使用され、之を人々に告げ知らす事は眞のクリスチャンの特權であり、責務であるからである。

任 務

クリスチヤンの任務は聖書中に明示さる。其の一に曰く、「心の傷める者を醫し、哀む者を慰めしめ給ふ」(イザヤ書六十一章一―三節)。クリスチヤンは特にユダヤ人に慰安の音信を持ち行く事を命ぜられてゐる。神は示して此の慰安の言はユダヤ人に與へられざる可らずと告げてゐられるのであつて、主に全部を献身した者共によつて形成される神の組織制度即ちシオンは此の音信をユダヤ人に持ち行かなければならぬ、(イザヤ書四十四章一、九節)。更に又示してキリストと地上に在る最後の成員等に依て形成されてゐる「彼の足」級の聖徒は此の慰安の音信をユダヤ人と一般異邦人に傳へるの特権を與へられて歡喜してゐると告げられてゐる、(イザヤ書五十二章七、八節)。

更に亦、復興の眞理は聖書の明示する基礎的大眞理中の一である。之は永らくの間聖書の研究者の眼から隠されてゐた。然し此の眞理は今神を愛する人々の前に回復された。そして之が神の御目的の一部であると云ふ事はクリスチヤンにとつても非常なる慰安となる。何故なれば之に依て彼等は神の慈愛を學び、全人類を祝福する、神の聖旨を知つて彼等自身が此の慰安の音信を地に宣べ傳ふるの役目と與るからである「従前より録されたる所は皆我等に教へて聖書の忍耐と安慰との言に籍て望を得させん爲に録せるなり」(ロマ書十五章四節)。

パウロは一個のユダヤ人であつた。彼はクリスチヤンになつて後特に異邦人に對する使徒に任じられた。彼はユダヤ人の復興に就て甚大なる興味を自ら有する事を表明した。彼はロマに在るクリスチヤンに向つて神の靈導下に斯う書き遣つた「神は其の民(ユダヤ人)を棄てしや、決めて然らず」(ロマ書十一章一節)。此の時パウロはダビデの此の言を憶えてゐたのである、即ち「願はくはシオンよりイスラエルの救ひの出でん事を。エホバ其民のとらはれたるを還し給ふ時ヤコブは喜び、イスラエルは樂まん」(詩篇十四篇七)。「シオン」とは神の受膏者にて形成される組織制度を謂ふ。而して此の預言は神がユダヤ人を救済し給ふ時を指示するのであつて、即ちシオンが築かれたる後である。イスラエル人即ちユダヤ人が全く神より永久に見捨てられてゐない事は事實であつて、神の預定の時至るに及びて彼等は回復される事となつてゐる。パウロは示してイスラエルが神の恩恵から見離された事は非ユダヤ人即ち異邦人が神の偉大なる恩恵に浴する事となり、而してユダヤ人が復興される時は即ち死者復活の時であると教ふ、

「若し彼等(ユダヤ人)の錯失が世(非ユダヤ人)の富となり、其(ユダヤ人)衰へが異邦人の富とならんには況して彼等(ユダヤ人)の盛んなるに於てをや。我汝等異邦人に言はん、我は異邦人の使徒なるが故に我が職を敬ぜり。之我が骨肉の者(ユダヤ人)を如何にしてか激まし、其

の中より數人を救はんが爲なり。若し彼等の棄てらるゝ事が世の復和とならば、其の收納さるゝは死にたる者の中より生くるに同じからずや(ロマ書十一章十二—十五節)。

此の意味は即ちイスラエル人の復興は死者の目覺め及び復興の進展によつて彼等に生命が與へられると等しいと云ふ事である。自稱クリスチャンの大多數は聖書の明示する復興の大眞理に全然盲目である。又神との間の契約にあつた者の多數も今日此の時、此の音信を他に宣べ傳ふるの特權を心より感謝して受けてゐない。斯かる者は即ちクリスチャンに密接關係あるユダヤ人の復興の眞理に正當なる興味を拂はないのである。パウロは此の事を知つてクリスチャンに向つて告ぐ、「兄弟よ、我汝等が自らを智しとする事なからん爲に此の奧義を知らざるを好まず。即ち幾分のイスラエルの頑梗は異邦人の數滿つるに至らん時までなり。而してイスラエルの人悉く救はるゝを得ん。録して救ふ者はシオンより出で、ヤコブの不虔を取り除かん、また其の罪を赦す時に我彼等に立てん所の誓は之なりとあるが如し」(ロマ書十一章廿五—廿七節)。

パウロは此の言の中にイザヤの預言(イザヤ書五十九篇廿節)を引用してゐる。然る後に彼はクリスチャンとなつた異邦人に示して、ユダヤ人は己が不信の理由によつて神より見離されその代り異邦人が神の恩惠の中に入つたと告げて後に曰く、「今彼等(ユダヤ人)の背けるは汝

等(異邦人)の衿袖を受くるに因りて亦衿袖を受けん爲なり(ロマ書十一章卅一節)。之ぞ即ち神の恩惠はクリスチャンとなつた異邦人の上に及び、然る後にユダヤ人は新約によつて神の憐憫と祝福を得る事となり、受膏者は此の新約の運用に參與して神の聖旨をユダヤ人の上に行ふ者となるのである。此の故にユダヤ人の復興はクリスチャンに對して最も密接なる重大關係を有するのである。神の恩惠復歸の最初は先づユダヤ人に慰安の音信が宣べ傳へられて彼等の歩む道を備へる事である。

キリスト・イエスの血は「新約の血」(マタイ傳廿六章廿八節)である。此の新約はクリスチャンの爲に制定されたるには非ず、亦彼等は此契約下に何等直接の福利を得る譯でないのである。クリスチャンは新約の子ではない。新約はユダヤ人と一般異邦人並びに此の地上的生命の祝福に與る者の爲である。教會制度の教職者はユダヤ人が新約から除外されたと偽り教ふ。之嘘偽の言であつて不信のユダヤ人は新約によつて神との調和に復歸するのである、「然れど我等(クリスチャン)己に因りて自ら何事をも思ひ得るに非ず、我等の思ひ得るは神によれり。彼われ等を新約の役者となるに足らしむ。儀文に事ふるに非ず、靈に事ふるなり」(コリント後書三章五、六節)。

新約がユダヤ人の爲に制定され、クリスチャンが新約運用の役者とされる以上はクリスチ

ヤンたる者はユダヤ人と一般異邦人に祝福を齎らす此の新約に重大密接なる關係を有するは無論の事である。新約の就任によつて復興はユダヤ人の上に臨む。然り、此の新約の「靈」即ち精神は神の恩恵と故郷の土地とに對するユダヤ人の無私的憧憬を有力に立證してゐる。「新約の役者となるに足らし」められる者は眞の受膏者であつて、即ちユダヤ人慰安の責務は彼等の肩上に置かれてある。ユダヤ人に此の音信を齎すべき時期はイエスによつて示されてある、イエスは世の末に臨在する、時の質問に答へて斯く云はれてゐる。「……とらはれて諸國に曳かれ、エルサレムは異邦人の時滿つるまでは異邦人に蹂躪さるべし」(ルカ傳廿一章廿四節)。此の中の「まで」の字は決定せる時を明示してゐるのであつて、其の時より後ユダヤ人は漸次擡頭して神の恩恵に復歸することを明確に立證してゐる。

クリスチヤンは世の末と其の時に行はれる主の臨在に特殊の興味を有す、何故なれば其の時は神が其の王キリストを王座に擁立される時であるからである、(詩篇二篇六節)。其の時に引き續いて眞の受膏者が主の御許に召集され、然る後に新約の就任が行はれる。此の故にユダヤ人の復興はキリスト・イエスの眞の追隨者に對して最も密接重大なる關係を有す。聖書の全部がクリスチヤンの爲に記述されてある以上、其の中に在るユダヤ人の復興がクリスチヤンに密接重大なる關係を有してゐる事は勿論である。彼等は神の選民であつて、そして彼

の上に取りきた出來事は皆未來に來るべき重大事件の前影となつてゐる。

毎年七月十日贖罪の儀式が行はれた。「贖罪」と譯されたヘブル語原字の *Kaphar* は「覆ふ」と云ふを意味す。此の贖罪はユダヤ人を神との平和に復歸せしむる爲の回復的儀式である。ユダヤ民族の罪は牡牛と山羊の血によつて象徴的に「覆はれ」たのであつて、之等の祭物は更に大なる祭物を豫表してゐる。神はユダヤ人との間に祭司職を制定された。此の祭司は神に對する役者である。(出埃及記廿八章一節)。祭司が贖罪の日の祭物を献げた。祭司職の任務はイスラエルを神の恩恵に復歸するに在る。祭司職の献げる祭物は悪しき罪人の罪を潔めて彼等を神に復歸せしむる爲であつた。

神はイスラエル人を取扱つて引き續き復興の教訓を示された。イスラエル人は幾度となく繰りかへして神の律法に背反した。神は其の都度彼等に救濟者を遣はして其の約束の地に彼等を回復されたのである。ユダヤ人は其の苦難の後に於いて己が惡事を自覺して神に救ひを呼び求めた時に、神は必ず彼等を恩恵に復歸された。

「エホバ士師を立て給ひければ彼等(士師)はこれ(ユダヤ人)を掠むる者の手より救ひ出した。然るに彼等その士師に従はず、反りて他の神を慕ひて之と淫を行ひ、之に跪づき、先祖がエホバの命令に従ひて歩みたる所の道を頓に離れ去りて其の如くには行はざりき、彼等の

爲にエホバ士師を立て給ひし時に方りてはエホバ常にその士師と共に在まし、その士師の世に在る間はエホバ彼等を敵の手より救ひ出し給へり。こは彼等己を虐げ苦むる者ありしを呻き悲しめるによりてエホバ之を憐み給ひたればなり〔士師記二章十六―十八節〕。

ユダヤ人は七十年間ベビロンに捕はれてゐた。神は彼等が異郷にあつて嘆き悲むを聞きて彼等を救ひ出して其の故郷の土地なるパレスチナに回復された。此の回復は神の組織制度なるシオンの回復される事の前影となつてゐる。エホバ、シオンの俘囚を復し給ひし時我等は夢見る者の如くなりき。其の時笑ひは我等の口に満ち、歌は我等の舌に満てり。エホバ我等の爲に大なる事を爲し給へりと言へる者諸々の國の中に在りき〔詩篇百廿六篇一、二節〕。此の故にシオンの成員たる眞のクリスチヤンは復興に關しては其の前影と實體との双方共に甚大なる興味を有す。之に就て預言者の言に留意せよ。

「我が汝等の前に陳べたる此の諸々の祝福と呪詛の事既に汝に臨み、汝その神エホバに逐ひやられたる諸々の國々に於て此の事を心に考ふるに至り、汝と汝の子等ともに汝の神エホバに起ち歸り、我が今日汝に命ずる所に全く従ひて心を盡し、精神を盡してエホバの言に聽き従はゞ汝の神エホバ汝の俘擄を解きて汝を憐み、汝の神エホバ汝を顧み、その汝を散らし、國々より汝を集め給はん。汝たとひ天涯に逐ひやらるゝとも汝の神エホバ其處より汝を集め

其處より汝を携へ歸らしめ給はん。汝の神エホバ、汝をしてその先祖の有ちし地に歸らしめ給ふて、汝また之を有つに至らん。エホバまた汝を善くし、汝を増して汝の先祖より多からしめ給はん。而して汝の神エホバ、汝の心と汝の子等の心に割禮を施し、汝をして心を盡し、精神を盡して汝の神エホバを愛せしめ、斯くして汝に生命を得させ給ふべし〔申命記三十章一―六節〕。

神は斯く云はれる、「汝をして其の先祖の有ちし地に歸らしめ」と。アダムは人類の先祖であり、彼は一個の完全なる人間としてエデンの地を所有してゐた。此の故に神は人類を復興して地上を幸福なる住所とせんと約束されてゐるのである。然る時に人々は云はん、「地はエデンの園の如くに成れり」(エセキエル書卅六章卅五節)と。ユダヤ人が羅馬の軍隊の手で故郷から追ひ拂はれたのは西曆七三年であつた。イエスは此の事を預言して「エルサレムは異邦人の時満つるまでは異邦人に蹂躙さるべし」(ルカ傳廿一章廿四節)と示してゐられる。神はモ―セを通じて此の追放を預言せしめて置かれた、「汝等若し斯くの如くなるも猶ほ我に聽き従ふ事をせず、我に敵して事をなさば、我も汝らに敵し、怒りて事をなすべし。我即ち汝らの罪をいましむる事を七つの時(七倍……は誤譯)重くせん……また汝らの邑々を滅ぼし、汝らの聖所を荒さん。また汝等の祭物の馨しき香を聞かじ。我その地を荒すべければ汝らの敵の其處

に住める者これを奇しまん。我汝らを國々(全地の諸國)に散らさん……斯くて後彼等その罪とその先祖たちの罪及び己が我に悖りし咎と我に敵して事をなせし事を懺悔せん……彼等の割禮を受けざる心折れて卑くなり、甘んじて其の罪の罰を受くるに至るべければ、我またヤコブと結びし契約及びイサクと結びし我が契約を憶ひ出し、またアブラハムと結びし我が契約を憶ひ出し、且つその地を眷顧みん……我彼等が敵の國に居る時に之を捨てず、また之を忌み嫌はじ。斯く我彼等を滅ほし盡して我が彼等と結びし契約を破る事をせざるべし。我は彼等の神エホバなり。われ彼等の先祖等と結びし契約を彼等の爲に憶ひ出さん」(レビ記廿六章廿七-四十五節)。

その永い苦難と迫害の後に神の恩恵は今やユダヤ人の上に復歸し始めた。クリスチヤンは此の預言の成就に甚大なる興味を有す、何故なれば之ぞ即ち主の臨在と御國の建設に密接なる重大關係を有するからである。イエスによつて示された蹂躪の終結はイスラエル大復興の時を意味す。之は實に地上に散在するユダヤ人の集合を意味するのみならず更に進んで死者が墓の眠より目覺める時である、「主エホバ斯く言ひ給ふ、我が民よ、我汝等の墓を開き、汝等をその墓より出で來らしめてイスラエルの地に至らしむべし」(エゼキエル書卅七章十二節)。

無花果

神は其預言者をして猶太人に關する象徴として無花果と無花果の樹を使用せしめられた。クリスチヤンは此の點に就て特に興味を有す、何故なれば此の事はクリスチヤンの利益となる爲に記録されてあるからである、「彼等(猶太人)が遇へる此のすべての事は鑿となれり。且つ之等の事の録されたるは末の世に遇へる我等を警むる爲なり」(コリント前書十章十一節)。我等が今此處に示さんとする處の聖書は之等の象徴が猶太人に適用されあるを立證せんが爲である。

神はエレミヤをして猶太人の放逐と囚はれとに就て預言せしめられた。神の殿の前に二籠の無花果が置いてあつて、エホバは之を預言者に示し給ふた、「エホバ我に言ひ給ひけるは、エレミヤよ、汝何を見しや。我答へけるは、無花果なり。その善き無花果は至善し、其の悪しきものは至悪しくして食ひ得ざる程に悪しし。イスラエルの神斯く云ふ、我わが此の處よりカルデア人の地に逐ひやりしユダの擄はれ人を此の善き無花果の如くに顧みて之を恵まんエホバ斯く言ひ給へり、我ユダの王ゼデキヤと其の牧伯等及びエルサレムの人の残りて此の地に居る者並びに埃及の地に住める者とを此の悪しくして食はれざる悪しき無花果の如くになさん。我彼等をして地の諸々の國にて虐遇と災害に遇はしめん。又彼等をして我が逐ひやらん諸の處にて辱めにあはせ、諺となり、嘲りと詛ひに遇はしめん」。「萬軍のエホバ斯く言

ふ、視よ、我劍と饑饉と疫病を彼等に送り、彼等を悪しくして食はれざる悪しき無花果の如くになさん」(エレミヤ記廿四章三、五、八、九節。廿九章十七節)。

神は亦預言者ヨエルをして猶太人に關して斯く記述せしめ置かる。『彼等わが葡萄の樹を荒し、我が無花果の樹を折り、其の皮を剝ぎ、裸にして之を棄つ。その枝白くなれり』(ヨエル書一章七節)。

イエスはエルサレムに王として入城して間もなく、而してその弟子等に向つて「世の末」に關する彼の大預言をなす少しく前に象徴的の言を以て無花果の樹の事を語つたが之即ち猶太人を指してゐられた事が明かである。「路の傍にある一本の無花果の樹を見て、其の處に來たりしに葉の外に何も見ざりしかば、今より後永久も(ヘリシヤ原語にては「此の世の末まで」となり居れり)果を結ぶことを得ざれと之に言ひ給ひければ、無花果立刻に枯れぬ」(マタイ傳

三節)。

廿一章十九節)。

それと殆んど同時にイエスはイスラエルの指導者等に向つて斯う告げられた。「是の故に我汝等に告げん、神の國を汝等より奪ひ、その果を結ぶ民に與へらるべし」(マタイ傳廿一章四十三節)。

又他の場合に於てイエスは猶太人等に斯う示された。「又この譬を言へり。或る人その葡萄



ソドムの滅亡

されどソドムは舊の様に歸らん

園に植ゑ置きたる無花果樹ありしが、來りて之に果を求むれども得ざりければ、其の園丁に言ひけるは、我三年來りて此の無花果に果を求むれども得ず、之を切り去れ、何ぞ徒らに地を塞ぐや、園丁こたへて云ひけるは、主よ、我その周圍を堀りて之に肥料するまで今年も容せ。若し果を結ばず善し、若し結ばずば後に之を切るべし(ルカ傳十三章六―九節)。

斯くして無花果と其の果は猶太人を象徴するに用ひられある事を確實に知つて後、イエスがその弟子の質問に對して、御自身が世の末に再臨在するゝ時の事を示して告げられし此の御言に視よ、『それ無花果の樹によりて譬を學べ、其の枝既に柔らかにして葉萌めば夏の近きを知る。此の如く汝等も凡て之等の事を見れば時近く門口に至ると知れ』(マタイ傳廿四章卅二、卅三節)。

イエスは示して、此の世の末に於て地上に立つ「遺殘者」級の追隨者は之等の事を見るべく、又最後に至るまで忠信を持續する者は神の王國が榮光の裡に建設される事を視るべしと告げられた、『我誠に汝等に告げん。之等の事悉く成るまでは此の民は失せざるべし』(マタイ傳廿四章卅四節)。そして忠信なる「遺殘者」級を力附けて更に斯う云はれた、『之等の事の成り初めん時には起きて汝等の首を擧げよ、そは汝等の救ひ近づけばなり』(ルカ傳廿一章廿八節)。異邦人の爲の使徒として選ばれたる猶太人のパウロは預言者エレミヤの預言を引用して斯

く告ぐ、「主言ひ給ひけるは、我イスラエルの家とユダの家に新約を立て全備うするの日来らん。此の約(新約)は我手を執りて彼等の先祖を埃及の地より導き出せる日に立てし所の如きに非ず、そは彼等は我が契約に居らず、我また彼等を顧みざりしが故なりと主言ひ給ひたりまた主言ひ給ひけるは、其の日の後、我イスラエルの家に立てんとする契約は之なり。我は我が律法をその念に置き、また其の心に銘さん。我彼等の神となり、彼等は我が民となるべし(ヘブル書八章八十節)。パウロは更に又斯く記す、「斯くしてイスラエルは悉く救はれん!」我その罪を除く時に彼等に立つる我が契約は是なり、とあるが如し(改譯ロマ書十一章廿六廿七節)。預言者エレミヤは此の同じ契約に就て云ふ、「萬軍のエホバ、イスラエルの神斯く言ひ給ふ、我がの俘囚れし者を歸さん時、人々復ユダの地と、其の邑々に於て此の言を言はん義しき居所よ、聖き山よ、願はくはエホバ汝を祝み給へと(エレミヤ記卅一章廿三節)。

新約即ち新しき契約はイスラエル人の服従者を再び集合して之を復興し、其の故郷パレスチナの地に於て神の恩恵を彼等の上に復歸するに在る。此の新約の基礎となるものは牡牛や山羊の血に非ずして人類をして永久の生命を得せしむる爲に流されたる神の愛子イエス・キリストの血である。(ヨハネ傳三章十六節)。

地上全人類

管にユダヤ人が新約によつて祝福さるゝのみならず、此の新約の條件に基く祝福は地上全人類に及ぶのである。神の御約束は明示す、「汝の裔によりて天下の民皆福祉を得べし」と。此の裔とは即ち「基督」である、(ガラテヤ書三章十六、廿七-廿九節)。之ぞ即ち今地上に在る「遺残者」級のクリスチャンが復興に就て最も密接なる關係を有してゐる事を示す更に他の一理由である。

復興による生命の祝福が地上全人類に與へられ、彼のソドムとサマリヤの姦淫者にまで及ぶに至るは預言者エゼキエルの明示する通りである、「我汝の若かりし日に汝になせし契約を記憶え、汝と窮りなき契約を立てん(エゼキエル書十六章六十節)。ユダヤ人の「姉」とは即ちサマリヤ人であり、「妹」とは即ちソドム人である、「汝の姉妹ソドムと其の女子等は舊の様に歸り、サマリヤと其の女子等は舊の様に歸らん。又汝と汝の女子等も舊の様にかへるべし」(エゼキエル書十六章五十五節)。

其の時諸國民は神を探し求め、同じく其の祝福に浴さんと願ひ求む、「萬軍のエホバ斯く言ひ給ふ、其の日には諸々の國語の民十人(全部)にてユダヤ人(エホバを讃頌する爲に献身せる者)一箇の裾を捉へん、之を捉へて言はん、我等汝等と共に行くべし、そは我ら神の汝等と偕に在すを聞きたればなり(ゼカリヤ書八章廿三節)。

ユダヤ人に對する神の恩恵復歸は即ち神の恩恵が地上全人類に及び其の死者生者の全部に及ぶ事を意味す。即ち記さる、「若し彼等(ユダヤ人)の棄てらるゝ事、世(非ユダヤ人)の復和とならば其の收納さるゝは死にたる者の中より生くるに同じからずや。若し初穂のパンきよからば凡てのパンも亦潔く、若し根潔からは枝も亦潔かるべし(ヘロマ書十一章十五、十六節)。

此の故に復興は永久の生命に對する唯一の道である。ユダヤ人は其の榮華の日に於ては他の異邦人に比して凡ての點に優先的特權を有してゐた(ヘロマ書三章一、二節)。ユダヤ人は其の己が教職者を通じて働いたサタンの悪感化の下に邪導されて神の預言者を石にて撃ち迫害を加へた。預言者の最大なる者キリスト・イエスのユダヤ人に臨まれたる時に悪魔の器となつて倒く教職者は最も殘酷なる磔刑を以てイエスを殺害して了つた。ユダヤ人が過去に如何なる特權を有してゐたか否かに關せず、彼等がイエスを王として受け容れる事を拒絶し、十字架に釘けて殺害した時に彼等ユダヤ人の上から全部の特權が剝奪されて了つた。其の時異邦人が神の祝福に與るの資格あるものとされたのである。イエスが「我汝等に告げん、審判の日にはツロとシドンの刑罰は汝等(ユダヤ人)よりも却て易からん」(マタイ傳十一章廿二節)と云はれたのは即ち此の事であつて、此の言に見るも人類に對する審判の日の状態はユダヤ人にも異邦人にも等しく峻嚴なるものではあるが然しユダヤ人よりも異邦人の方に緩かである

は明かである。斯くして神がユダヤ人と共に異邦人を復興さるゝは極めて瞭かである。其處で留意し置くべきは神が斯く彼等に生命への復興を與へられるのは其の民に之を受くるの資格あるに非ずして唯神エホバが其の聖名と御言とを擁護し給はんが爲である事である。

埃及

聖書中に埃及はサタンの組織制度を表象するものとして用ひられてある。此の表象は主として埃及の支配階級に適用するべきではあるが、然し埃及の全國民が其の支配階級に隸屬して其の國家組織を形成してゐる限り等しく國民の全部にも適用さるべきである。聖書中の、「其の日」とは神が其の受膏者なる王キリストを王座に擁立された時より後の期間を謂ふ(詩篇二篇六節)のであつて、引き續き爾後復興による生命が全人類に及ぶ所のキリストの全統治期間に該當す。此の事を留意して以下の預言を見る、「エホバ己を埃及に知らせ給はん。其の日、埃及人はエホバを知り、犠牲と祭物とをもて之に事へん。誓願をエホバに立て、成し遂ぐべし。エホバ埃及を撃ち給はん。エホバ之を撃ち給はん。此の故に彼等エホバに歸らん。エホバ其の懇求を容れて之を醫し給はん。其の日埃及よりアツスリヤに通ふ大路ありてアツスリヤ人は埃及に來り、埃及人はアツスリヤに行き、埃及人とアツスリヤ人と相共に事ふることをせん。其の日、イスラエルは埃及とアツスリヤとを共にし、三つ相並び、地の上

にて福祉を受くる者となるべし。萬軍のエホバ之を祝して言ひ給はく、我が民なる埃及、我が手の工なるアツスリヤ、我が産業なるイスラエルは福ひなるかな」(イザヤ書十九章廿一廿五節)。

アツスリヤは特に國を支配する政權者を意味し、此の場合埃及は金權者及び武力權者を意味してゐる。過去永らくに亘つて之等の間には常に紛争が絶えなかつた。「大路」即ち明かなる路が開かれて彼等を歩ましめ、彼等は互ひに奉仕し合つてイスラエル人と行動を一致するに至るに及びて神は必ず彼等を祝福する、事が明白である。

モアブ、アンモニ及びエラムは共に惡魔の組織制度を表象してゐるのである。何故なれば之等諸國の人々はサタンの支配下にあつて其の代表者の下に統治されてゐたからである。之等の人々は眞理の前に己が眼を眩まされてゐた。神の憐憫は彼等にも及ぶのであつて聖書は即ち斯く記す、「然れども末の日に我モアブの擄へ移されたる者を返さんとエホバ言ひ給ふ。こゝまではモアブの審判を言へる言なり」(エレミヤ記四十八章四十七節)。「然れども後に至りて我アンモニ人の擄へ移されたる者を返さんとエホバ言ひ給ふ……然れども末の日に至りて我エラムの擄へ移されたる者を返すべしとエホバ言ひ給ふ」(エレミヤ記四十九章六、卅九節)。

カトリック教會とプロテスタント新教各派は何れもその自派の救濟方法に基いて此の世を

教化しやうと永らくの間試みた。彼等は悉く失敗した、何故なれば其の救濟方法なるものが嘘偽なるものであり、其原案者がサタン自身であつたからである。地上全人類はサタンの壓制下に置かれた。サタンの代表者は幾多の救濟方法を提供したが之等の方策は皆流産的であり不満足であつた。神は其の豫定の時至るに及びて最高の能力と智慧と慈愛を行使して地上全人類を贖ひと復興を以て祝福し給ふ。新約の運用によつて全人類は眞理の知識を與へられるのであるが、之ぞ即ちイエスの血に依つて全人類に對する救ひが開かれたからである、(テモテ前書二章三一六節)。全人類が眞理の知識を與へられる時、彼等は神の御慈愛に満ちた賜物としての生命がイエス・キリストの血を通じて彼等に賜はる事を學び知るのである、(ロマ書五章十八、十九節。六章廿三節)。「然らば我とがを犯せる者に汝の道を教へん。罪人は汝に歸り來るべし」(詩篇五十一篇十三節)。神は其の自ら嘉しと視給ふ方法の下に全地の人類を教化されるのであつて、彼等は其の時祝福を受くる者となるのである。

此の幸福なる時に主は彼等に示し給はん、「惡しき者は其の途を捨て、邪曲なる人は其の思念を捨てエホバに歸れ、然らば憐憫を施し給はん。我等の神に歸れ、豊に赦しを與へ給はん」(イザヤ書五十五章七節)。「其の時汝視て歡喜の光を顯はし、汝の心驚き奇しみ、且ひろらかななるべし。其の海の富は移りて汝に屬き、諸々の國の貨財は汝に來るべければなり」(イザ

ヤ書六十章五節)。

ヨブが大贖ひ主の異象を見たる如く、其の時全人類は神がキリストを通じて彼等の爲に祝福を備へて下されし事を悟り知るの機会を得るのである。イエスの血は全人類の福祉の爲に備へられたのであつて、全人類は此の大犠牲の恩恵と利益を受くべき機会を與へられるのである。(ヘブル書二章九節)。此の恩恵は死者と生者の全部に及ぶ。然る後に「エホバに贖ひ救はれし者歌うたひつゝ歸りてシオンに來り、其の首に永遠の歡喜をいたゞき、樂みと悅樂とを得ん。而して悲哀と歎きとは逃げ去るべし(イザヤ書卅五章十節)。「地の極は皆思ひ出してエホバに歸り、諸々の國の族は皆御前に伏し拜むべし。國はエホバのものなればなり。エホバは諸々の國人を統べ治め給ふ(詩篇廿二篇廿七、廿八節)。

復活

死者の復活は聖書の確實に明示する處である。之即ち贖ひ主なるキリストの職務を通じて來る生命への復興を明かに裏書するものである。新約書に使用されあるギリシヤ語の *anastasis* の字は唯新約書のみで使用されあるに非ずして、新約書の出來る三百年以前にギリシヤ語に譯された舊約書の *Sequagint Version* 中にも此の字は死人の甦りに關聯して使用されてゐる。即ち左の通りである。

「ボアズ云ふ、汝ナオミの手より其の地を買ふ日には、死ぬる者の妻なりしモアブの女ルツをも買ひて死ぬる者の名をその産業に存す(ギリシヤ語 *anastasis*) べきなり。我またマロンの妻なりしモアブの女ルツを買ひて妻となし、彼の死ぬる者の名を其の産業に存す(甦らすの意味) べし。これ彼の死ぬる者の名を其の兄弟の中とその處の門に絶えざらしめん爲なり。汝等今日證をなす(ルツ記四章五、十節)。「彼等死にたれば復生せず、亡靈となりたればまた復ら(ギリシヤ語 *anastasis*) ず……汝の死ぬる者は生き(ギリシヤ語 *anastasis*) 我民の屍は起きん(イザヤ書卅六章十四、十九節)。「汝(ダニエル) 終末に進み行け。汝は安息に入り、日の終に至り、起ち(ギリシヤ語 *anastasis*) 汝の分を受けん(ダニエル書十二章十三節)。「その日には我ダビデの幕屋を興し(ギリシヤ語 *anastasis*) その破壊を修繕ひ、その傾圮れたるを興し(ギリシヤ語 *anastasis*) 古代の日の如くに之を建て直すべし(アモス書九章十一節)。

神はバレスチナの地をアブラハム、イサク、ヤコブに與へんと約束された。然し彼等はその生前に於て寸尺の地をも其處で與へられなかつた。彼等は價を拂つて土地を買ふ事を餘儀なくされた。彼等は皆死んだ。然し彼等は神の御約束を受ける爲に復活されなければならぬ。神の御約束は彼等を死より甦らして地上に於ける見ゆる支配者即ち君となすと云ふ事であつた。「汝等の子等は列祖に代りて立ち、汝はこれを全地に君となさん(詩篇四十五篇十六節)。之

即ち王なるメシヤの先祖に當る之等の人々が却つてメシヤ即ちキリストの子となり、キリストを通じて神より生命を受ける事となるのである。聖書によるとメシヤはノア、セム、アブラハム、イサク、ヤコブ、ユダ、ダビデの子孫として出て來らねばならぬ事となつてゐるが之等の人々はその生前に於て試験を受けて忠信を持續し、貞潔を守り終せたる者なるが故に死より甦らされて復興され、メシヤの子となるのである。此の事實を裏書する爲にイエスは之等の人々は神の國に於て地上に於ける代表者となると示して置かれた。(マタイ傳八章十一、十二節)。

聖書は示してエルサレムは地上に於て最も重要な都市であると教ふ。神は幾千年の昔此の地を選んで此の名を與へられたのである。神が之等常に神に忠信なりし古代の忠信者を死より甦らされてパレスチナの地に立たしめられる時、エルサレムが地上に於ける政府の中心となると想像するは極めて至當である。之を支持する爲に左の如く記さる、

「エホバ汝(猶太人)をして首とならしめ給はん。尾とはならしめ給はじ。汝は只上に居らん。下には居らじ。汝若し我が今日汝に命ずる汝の神エホバの誠命に聽き従ひて之を守り行はゞ必ず斯くの如くなるべし。(申命記廿八章十三節)。
 「そはエホバ、シオンを慰め、またその凡て荒れたる所を慰めて、その荒野をエデンの如く

その沙漠をエホバの國の如くなし給へり。斯くて其の中に歡喜と樂みとあり。感謝と歌うたふ聲とありて聞こゆ。(イザヤ書五十一章三節)。

「然ど汝等我が創造する者によりて永遠に樂み喜べ。視よ、我はエルサレムを造りて喜びとし、其の民を快樂とす。我はエルサレムを喜び、我が民を樂まん。而して泣く聲と叫ぶ聲とは再び其の中に聞こえざるべし。彼等の勤勞は徒しからず、其の生む所の者は災禍に罹らず、彼等はエホバの福祉を賜ひし者の裔にして、その子等も相共に居るべければなり。(イザヤ書六十五章十八、十九、廿三節)。

「萬軍のエホバ斯く言ひ給ふ、エルサレムの街衢には再び老ひたる男、老ひたる女坐せん。皆年高くして各々杖を手につつべし。また其の邑の街衢には男の兒、女の兒満ちて街衢に遊び戯れん。(エゼキヤ書八章四、五節)。

王統

神の御約束によるとメシヤの國は唯ダビデの王統を復興する事によつてのみ建設される事となつてゐる。王ダビデが神の愛子にして全地の正當の統治者を豫表してゐた事は事實である。神はダビデの子孫を通じて來たる模型的王國をイスラエル人の上から取り除かれた時、正當に權威を持つべき者の來る時にそれを復興すべしと聲明されてゐる。(エゼキヤ書廿一章

廿四(廿七節)。イエスの弟子等がイエスに質問した時には此の事が彼等の念頭にあつたのである。「主よ、汝今、國をイスラエルに還さんとするか(使徒行傳一章六節)。
 之を支持する爲に更に云ふ、「哀しいかな、其の日は大にして之に比ふべき日なし。これはヤコブの艱難の時なり。然ど彼は之より救ひ出されん。萬軍のエホバ言ふ、其の日、我汝等の頸よりその輓を碎き離し、汝の繩目を解かん。異邦人は復彼を使役はざるべし。彼等は其の神エホバと、我が彼等の爲に立てん處の其の王ダビデに事ふべし(エレミヤ記卅七章七・九節)。
 聖書は更に又斯う書く、「羊、樓、シオンの女の山よ、最初の權汝(キリスト)に歸らん。即ちエルサレムの女の國祚汝に歸るべし(ミカ書四章八節)。
 使徒パウロは又人類の復興に關する詩篇第八篇を引用して、萬物が全地の正當の王者キリストの支配下に未だ屬せざる此の事實に照らして此の詩篇が預言なる事を示した。使徒の教示によると詩篇の第八篇は、エホバが萬物をその足下に隸屬せしめらるゝイエスに適用すべきものとなつてゐる。

クリスチャンは王なるキリストの下に於て神の義の政府が全く建設される事に對して最大の興味を有してゐる。神は愛子のイエス・キリストに對して此の王國を約束された。そしてキリスト・イエスは又神の恩恵によつて此の王國に參與するの大特權を己が追隨者に與へられたのである。(ルカ傳廿二章廿八、廿九節)。此の御國の大なる任務が人々に生命の道を教へ、眞理を以て彼等に事へ、彼等に完全なる復興への道を指示するものなる以上、クリスチャンは今、神の御目的の絶妙なる光輝に照らされて、地上全人類を祝福する神の御目的を望み見て歡喜するのである。(詩篇百廿六篇二節)。

聖名

過去幾千年の永きに亘つて神エホバの聖名は地上全人類の間に誤傳曲解されてゐた。ヨブの得た經驗は即ち神の聖名を汚瀆し、人々をして神エホバより離反せしめつゝあるサタンの奸手段を明確に圖示してゐる。敵なるサタンにより其の代辯者として使用された三人の自稱友人は表面に於て神エホバの名を稱ふと雖も其の實の心は遙かに神から離れてゐた。丁度其の實體として出現してゐる各教會制度の教職者も口には神の名を稱へつゝ、彼等の心は遙かに神から離れてゐるのである。

今日、教職者の大部分は殘忍にして我利私慾的なる資本家の爲に高く引き揚げられ、彼等は惡魔の組織制度の他の二要素即ち金權と政權の兩者と共働す、其の一實例を擧げて見るに大資本家達は其の器なる米國放送協會を通じて發表し、今ユダヤ教と異邦人とは一とされ、ユダヤ教のラビヤカトリック教會の司祭、プロテスタント各派の牧師、神學者は資本家の指

導下に一致協同し、同一の宗教を傳ふると稱し、大資本主義の効能を宣傳する事になつたと告げ、何人も彼等の主義に反する教理を教ふる者は絶対に放送せしめないと決定してゐる。之ぞ即ちヨブの自稱友人が爲せし如く嘘偽の人類救済計畫を提供するものである。無論彼等教職者はイエスの偉大なる贖ひの犠牲を否定す、何故なれば若し之を主張するならばユダヤ人や進化論者の機嫌を損ずる事となるからである。彼等教職者はキリスト・イエスに依る神の國を無視す、何故なれば神の國を説く事は今日の支配階級即ち「今日の宗教」を造り上げた大資本家等の御機嫌を損ずる事となるからである。彼等教職者は贖ひと復活、復興によつて地上全人類に生命の途が開かれる大眞理を全く無視す、何故なれば人々が若し之等の眞理を知つたならば彼等牧師、神學者等の説く所の偽教理即ち靈魂不滅、三位一體、煉獄、永劫責等神エホバの聖名を人々が汚濁する邪教理を全部拒絶するを恐れるからである。今日までに主の名を偽り用ひて企てられた最大の道化芝居は米國教會聯盟の名稱下に煉り歩いてゐる代物である。此の不聖聯盟へは總らゆる背教者、偽教師が参加し、又歓迎されてゐるのであつて、かゝる團體から眞理が拒絶排斥されるのは當然である。之ぞサタンの有する更に他の代理である。之は人々をして神の救済目的に盲目ならしめん爲に成立してゐる。然しサタンが其の三人の代理者を通じてヨブを神エホバより離反する事に失敗したるその如

く、今日に於ても此の教會聯盟の名稱下に於て行はれる總らゆる欺瞞行爲によりて心直き人々を眞の神エホバより離反する事に失敗してゐるのである。「我を俟て……我が目的は此のサタンの不義なる制度を粉碎するに在る。而して後人々をして我が眞理に來らしむべく、其の時彼等は我が名を呼ぶに至るべし」(セバニヤ書三章八、九節)。サタンと其の組織制度は必ず全敗するものと豫定されてゐる。而して神の聖名は擁護保持されるのである。サタンの組織制度であつた埃及が傲慢不遜となり、人々に壓制を加へた時に、神は埃及に降りて其の國を撃ちて滅ぼし、己が民を救ひ出された。聖書は明示して之は即ち神が其の聖名をなされんが爲であるとして告げてゐる。此の事件は即ち神が今地上全人類を支配する惡魔の組織制度を粉碎撃滅して人類に平和と幸福とを興へられる事の前影となつてゐるのであつて、其の時エホバに服従する者は地上に於ける永久の生命を賜るのである。神は其の聖き御名を擁護保持して其れを高く擧げん爲にこれをなされるのである。(エゼキエル卅六章廿二卅二節)。今地上に在りて神と契約關係に在る忠信者は其の貞潔を固く持して神に全部を献げなければならぬ。神は彼等に示して彼等をして己が證者たらしめ、エホバが眞の神なる事人々に告げしめ、人類の福祉の爲に義の政府を建設し給ひし事を宣明せしめ給ふ。今日此の時、人々に神よりの福音を告げしらし、エホバの聖名を宣揚するは實に絶大の光榮である。エホバ

は生命の大源泉に在し給ふ。而してエホバを知り、其の遣はし給ふキリスト・イエスを知るは其の人に對して永久の生命を意味す。人々は頓て此の大眞理を知らされるのであつて、之ぞ全く大歡喜の時である。實にも云ふ、「エホバを己が神とする國は幸福なり」と。

(完)

生命 (終り)

昭和六年一月一日印刷
 昭和六年一月三日發行

—(定價壹圓)—

—(送料八錢)—

總發行所

東京市外井荻町下荻窪二二二

明石順三

發行所

東京市外井荻町下荻窪二二二

萬國聖書研究會

印刷所

英國サウサンプトン市アダムス街一七
萬國聖書研究會印刷部

發賣所

東京市外井荻町下荻窪二二二

燈臺社

振替口座 東京四七二二番

政 府

ルサフオード判事著
明石順三氏譯

高國聖書研究会發行

若し諸君が政治に興味を有するならば本書は絶好の最良
指針である。若し諸君が人類に對して永久の生命、幸福
自由、平和を與ふる正義の政府の樹立を望むならば本書
は即ち諸君の要求を充分に満足さす處のものである。本
書は善良なる政府の出現に關して書かれたる最上無比の
良書である。本書は全宇宙の唯一創造者たる活ける神エ
ホバの預言の成就によつて明確となれる聖書に基いて記
述されたるものである。我等は無上の善意を以て本書を
大方各位に推薦す。

三八四頁、四六判
四色版繪畫十六枚入
クローリス上製

定價一圓(送料八錢)

◎るな缺無全完に爲の社福の類人全上地は書本◎
◎す證立に確明を實事る見を現實の府政の義正◎

所 賣 發
社 臺 燈

番二一七四京東 座ロ替攝

造 創

譯氏三順石明 著ドーオフサル.F.J
行發會究研書聖國高

やせせ造創をのもの等是か誰。よ見をき高てげ舉を眼等汝”
——節六廿章十四書ヤザイ—— ”へ思を

光の群星るな麗壯てしに秘神の其。げ仰を象萬の空天
十三てし定推を數緯の星の宙宇は者學文天。よ觀を輝
と喜歡に者る觀、き動に下の序秩るな全完。ふ言と微
?か誰々抑は者しせ造創を象萬の等是るふ與を安慰
× × ×

——(節一章一記世創)—— ”リへ給り造を地天神にめ始”

?やリな族幾は球地の此るた所住の類人等我
然。ふ言は書聖とりな年千七てへ答に問質の此
り到に日今てし而れら造てしに何如は球地ばら
?かるなに何如後今たま?何如史歴の其。やし
× × ×

に何如は問人——やぞ何はと問人
思故何は問人——やしれら造てし考
やりあ力能のるす行實し實計し考
故何——かむし苦は問人故何——
故何——かふ合し殺し闘争は問人
あに處何は者死——かぬ死は問人
久永——やぞ何はと魂靈——やリ
?やリあ望る得き生に

四八二頁、四六判
クローリス上製
四色版繪畫十六枚入

定價一圓

(送料八錢)

=す決解てに書本く悉は問疑の數無等之=

所 賣 發
社 臺 燈

番二一七四京東 座ロ替攝

和解

J・F・ルサフオード著
明石順三氏譯

萬國聖書研究會發行

アダムとエバの失樂園の事件より此の書は端を發す。其の間の微妙なる描寫に次で、人間が如何にして貧窮者となり苦難の人となつたかとの經路を活畫的に描出し、神は人類を罪と死より救ひ人間を己れと和解せしむる爲にアブラハム契約、律法の契約、祭物の契約、新約を如何に準備し如何に運用されるかとの本體的問題の説明や、人間は如何にして神との和解に入れられ昔アダムとエバがエデンの樂園にあつた時の如き幸福なる状態に如何にして導かれるかといふ人間必讀の事柄を嚴正なる聖書の立場より細説せるもの。幸福を翹望する諸士の愛讀を待つ。

定價一圓(送料八錢) 四〇〇頁、四六判 四色版繪畫十六枚入
クロロニス 上製

發賣所

燈臺社

東京四七一七番

第二十版出版

神の救ひ

◎人生問題で苦悶する諸士よ、我等は癡等に此の一書の熟讀を御勧めする。現在の世は何故に矛盾撞着多く、患難と困惑が満つるか。各國は不戰條約を締結し然も何故に争つて軍備に熱中するか。宗教家を始め政治家、資本家及び民衆は何故今や墮落と腐敗の絶頂に到達せんとしてゐるか。饑饉、地震、暴風雨、悪疫の災禍は何故全地を襲ひつゝありや。此等の不幸なる状態を惹起せしめたる責任者は誰か。人類の過去現在及び將來は如何。此等の不幸なる状態を惹起せしめたる責任者は誰か。今此等諸問題の解決を制縛して、今や人類を其の桎梏下より救濟せんとすし、神の御業を小説以上サタンを制縛して、今や人類を其の桎梏下より救濟せんとす無上の歡喜を與ふるものである。



ルサフオード判事著
明石順三氏譯

定價八拾錢

(送料八錢)

四一六頁、四六判
クロロニス 上製

小説以上

發賣所

燈

臺

社

振替口座 東京四七一七番

定價八拾錢

神の立の琴

(送料八錢)

聖書の教科書！

J・F・ルサフオード判事著
明石順三氏譯

- (一) 創 神の義の表示
- (二) アブラハム契約
- (三) イエスの誕生
- (四) 贖ひの代償
- (五) 復活
- (六) 復 奥義の開明
- (七) 主の再臨
- (八) 教會の榮化
- (九) 萬物の復興
- (十)

クロス上製四六判
本文四一〇頁
質問欄三五頁
各章に繪畫挿入

▼上記聖書中の基礎的十個の大真理を最も親切に平易に然も組織的に開明せる聖書の教科書

▼各節毎に聖句を多数引照して聖書の理解を容易ならしむ

▼巻末には三十五頁に亘る詳細なる質問欄を備へ、聖書に關する捷ての疑問質問を網羅せり

▼質問の末尾には夫々番號を附し、本文の各節と對照して其の質問に解答を與ふる方法を備ふ

發賣所 燈 臺 社

撫替口座 東京四七一二番

眞理の明の二大開門

主 幹 明 石 順 三 氏

刊 月

刊 月

燈 臺

今や日本全部の基督教雜誌が聖書を捨て、虚しき人間智所産の哲學、神學、傳説等の異論邪説を掲げて此の世に阿諛迎合の營業政策に墮せる此の時に於いて本「燈臺」は全能の神エホバより來る最新の光輝に基きて、聖書中に記されある神の驚喜すべき御目的を最も忠實詳細に解明せる唯一の雜誌なり。

一部二拾錢——一年分二圓廿錢 (送料共)
(外國一年分二圓七拾錢)
菊版、四〇頁——

黄金時代

「黄金時代」は聖書の示す唯一眞理の立場より現下地上に於ける政治、經濟、宗教、社會、教育、科學に對して徹底的批判を加へ、人間は如何にせば健康、自由、平和、繁榮等を獲得し得るかを懇切平易に説明せる唯一の新聞なり。(傳道用に好適)

一部二錢——一年分 廿五錢 (送料共)
(外國一年分 五拾錢)
四六倍版、八頁——

發行所 燈 臺 社

撫替口座 東京四七一二番

は方御ゝるらせ有を問質に後のみ讀御を書本
いさ下せ合問御へ方當くな慮遠御
會究研書聖國萬京東

1,272,000 Edition

" LIFE "

— in Japanese —

Copyrighted 1929 and

Published by

INTERNATIONAL BIBLE STUDENTS ASSOCIATION
WATCH TOWER BIBLE AND TRACT SOCIETY

Brookly, New York, U. S. A.

London, Toronto, Melbourne, Cape Town, Berne, Magdelurg,
and in other countries.

MADE IN U. S. A.

終

